

第五百五十號 災變ニ因テノ殺害○全ク災變ニ因テ生シタル殺害ハ過失又ハ不注意ニ因テ生シタルモノニ非サルヲ以テ輕罪ヲ構造シサルナリ即チ第三百十九條ハ過失ニ因テ生シタル殺害ノミチ有罪トシ災變ニ因テ生シタル殺害ニ付テハ何人ニモ其罪ヲ歸セザリシナリ例ヘハ兵卒ノ練兵場ニ於テ練兵中ニ兵器ヲ以テ人ヲ殺シ公舎ニ於テ勉業スル職工ヲ規則ノ施行中ニ人ヲ殺シ剃鬚者ノ其施業中ニ他人ヨリ暴行ヲ受ケシニ因テ人ヲ殺シ又ハ鐘鐘ノ時ニ於テ鐘ノ墜下ニ因テ人ヲ殺セシキノ如キ是ナリ

第五百五十一號 故意ナキ殺害○第三百十九條ニ列記スル所ノ過失中ノ一ニ因ララル故意ナキ殺害ハ既ニ前ニ述ヘシ如ク如何ナル罪ヲモ構造セスト雖モ其拙劣疎忽不注意懈怠又ハ反則ニ因テ生セシキハ此例ニ非ス蓋シ故意ナキ殺害ノ犯人ニ刑ヲ適施スルノ場合ハ夫レ之

ノミ而シテ其罰スル所ハ殺害ノ所爲ニ非スシテ殺害ヲ生セシメタル過失ナリ故ニ左ノ諸件ヲ生ス第一過失ハ其性質ノ如何ニ關セス之ヲ宣告文中ニ明記スルヲ要スルヲ千八百二十五年十二月十五日千八百二十七年七月七日 第二輕罪ヲ構造スル所ノモノハ獨リ第三百十九條ニ列記シタル所爲ニ限ルヲ蓋シ該所爲ハ刑法上ノ責任ノ原因トナル可キ重キ所爲ニシテ其他ノモノハ民法第千三百八十二條及ヒ第千三百八十三條ニ記載スル所ノ民法上ノ責任ヲ生スルニ過キザレハナリ故ニ第三百十九條ニ記載スル所ノ五所爲中ノ一ナキハ該條ヲ適施スル能ハサルナリ 千八百三十三年二月二十六日ノ判決

第五百五十二號 拙劣○拙劣疎忽懈怠不注意及ヒ反則トハ如何ノ法律ハ唯之ヲ列記セシコ止リ其義解ヲ掲ケスソ之ヲ確認スルノ權ヲ裁判官ニ任セリ然レモ其意味及ヒ其價位ヲ區別スルハ蓋シ難事ニ非サ

故意ナキ殺害殴打及ヒ創傷

ルヘシ即チ拙劣トハ或ハ犯人ノ愚痴ヲ云ヒ或ハ其藝能ニ巧伶ナラサル
 ルチ云フ故ニ術者、施業者、木匠ノ或ハ家屋建造ノ術ヲ知ラスシテ或ハ
 不適當ナル材料ヲ用ヒテ施シタル建造物ヲ破壊シ人ヲ壓死セシキハ
 第三百十九條ヲ以テ之レヲ論ス千八百五十六年十一月十一日同月
 千八百六十七年三月二日及
 千八百六十八年六月十一日
 千八百六十九年十一月十三日
 千八百七十年十二月十三日ノ判決而シテ假令被害者ニ不注意アリシモ犯人ノ
 罪ヲ消散セス何トナレハ第三百十九條ハ犯人ノ不巧藝ノ所爲ヲ有罪
 トシ被害者ニ必ス不注意ナキヲ希望セサレハナリ千八百六十四年
 六月十六日及
 千八百六十五年十月
 一月四日ノ判決而シテ工業又ハ術ノ施行ノ拙劣ニ因テ故意ナク人ノ
 死ヲ起スヘキ職業ハ皆第三百十九條中ニ包含ス故ニ醫師又ハ下等醫
 ノ拙劣ニ因テ病人ノ死ヲ起セシ場合ニ該條ヲ適當ス何トナレハ此規
 則ニ付テハ共和第十一年六月十九日ノ法ノ第二十九條（下等醫ノ外療
 ナ施スニ當リテハ醫師ヲ召喚セス且其監察ナク施シタル治療ヨリ生
 シタル災害ニ付テハ自ラ其責ニ任ス可キヲ記載スルモノ）中ニ如何
 ナル例外ヲモ記載セサレハナリ此拙劣ノ事ニ關スル該條ノ適施ニ付
 醫業ノ件ニ係ルハ問題ヲ判定スルノ至難ナルヲ述フル者アリト雖
 モ此種ノ訴ハ素ヨリ容易ニ行フモノニ非ス且明瞭ナル場合ニ非レハ
 行ハサルヲ以テ深ク至難トスルニ足ラカル可シ千八百十七年九月十
 三年五月一日アン
 千八百四十四年十二月十八日アン
 十二月四日アン
 五十年七月六日アン控訴院判決及ヒ千八百
 第五百五十三號○疎忽○第三百十九條ニ記載シタル第二ノ過失ハ疎
 忽ナリ疎忽ニ因テノ殺害ハ注意ニ因テ之ヲ避クルヲ得可キモノナリ
 例ヘハ母又ハ乳母ノ其乳養スル所ノ子ヲ壓殺シ故意ヲ以テ酩酊者ノ
 殺害又ハ創傷ヲ施シ御者又ハ車夫ノ路上ニ於テ災害ヲ起シ殺害ヲ生
 スヘキ賭博ヲ行フ所爲ノ如キ是ナリ是レ皆過失ノ所爲タルヲ以テ第

故意ナキ殺害殴打及ヒ創傷

三百十九條ヲ以テ論ス可キナリ

第五百五十四號 解○怠○及○ヒ○不○注○意○ ○此種ノ過失ハ豫メ注意スルニ於

テハ殺害又ハ創傷ノ所爲ヲ避クルヲ得ヘキニ其豫防ヲ遺忘忘却セシ

ヨリ生スルモノナリ即チ埒工又ハ屋蓋ヲ爲ス者ノ豫メ告ケスシテ公

道ニ石ヲ墜下セシノ所爲、起業者ノ公道ニ材料ヲ堆積シ之ニ點燈ヲ備

ヘサルノ所爲、已レノ監守スル狂人又ハ猛獸若クハ惡獸ヲ自由ニ放ツ

ノ所爲及ヒ御者ノ馬ノ性質ニ注意セサルノ所爲ヨリシテ殺害又ハ創

傷ヲ生セシモノナ云フナリ判決例ニ於テハ旅舎ノ主人ノ旅客ノ頓病

ニ際シテ之ヲ加養セサルノ所爲ニ上ノ規則ヲ適施ス千八百五十二年六月十七日及ヒ

千八百五十九年一月七日ノ判決

第五百五十五號 反○則○ ○行政又ハ警察上ノ規則ヲ循守セサルニ因テ

殺害又ハ創傷ヲ生セシノ所爲ハ第三百十九條ヲ以テ論スヘキノ過失

ナリ故ニ此所爲ノ明瞭ナルキハ該條ヲ適施ス例ヘハ產婆難産ニ當リ

共和第十一年六月十九日ノ法ノ第三十三條ノ規則ニ從テ醫師ノ援助

ヲ請ハサリシノ所爲、商人ノ腐敗シタル食物又ハ飲料ヲ販賣セシノ所

爲及ヒ鑛山ノ施業者、所有者又ハ所持人ノ千八百十三年一月二十二日

ノ布令ノ第二十二條ニ記載スル所ノ施業規則ヲ循守セサルノ所爲ハ千

百五十五年四月二十九日及ヒ千八百六十五年三月三十一日ノ判決 是ナリ

第五百五十六號 鐵○道○ ○上ニ述ヘ來リシ所ノ過失ニ付テハ全ク人ヲ

害スルノ意ナシト雖モ其死ヲ起シ又ハ創傷ヲ醸セシキハ刑法上ノ責

任アリトス此責任ハ鐵路上ニ生シタル變災ニ適當ス千八百四十五年

七月十五日ノ法ノ第十九條ニ曰ク「凡ソ何人ヲ論セス拙劣、疎忽、不注意、

懈怠又ハ反則ニ因テ鐵路上又ハ鐵道局内ニ於テ故意ナク災ニ因テ人

ヲ創傷セシ者ハ八日乃至六月ノ禁錮ト五十「フラン」乃至千「フラン」ノ罰

故意ナキ殺害殴打及ヒ創傷

金トニ處ス其一人又ハ數人ヲ死ニ致セシキハ六月乃至五年ノ禁錮ト
 三百「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金トニ處スレト該條ノ意ハ第三百十九
 條ノ意ト同一ナリト雖モ鐵路上ニ生スル災ノ大ナルト其役員ニ深ク
 注意スヘキノ義務アルトノ故ヲ以テ其刑ニ加重アリ但シ第四百六十
 三條ニ因テ酌量減輕ヲ施スヲ得ヘシ千八百五十五年
二月一日ノ判決
 第五百五十七號 從犯○故意ナキ殺害ノ假令ヒ懈怠又ハ不注意ヨリ
 出テシモ從犯者アルヲ得ヘシ何トナレハ從犯ノ規則ハ第三百十九條
 及ヒ第三百二十條ニ關シテ例外アリ又其適施ニ付テモ絶テ障礙アル
 コトナケレハナリ故ニ備主ノ命ニ依テ注意ナク群集中ニ馬車ヲ馳ス
 ル御者ノ從犯者ハ其備主ナリ棟梁及ヒ備主ノ指示ニ從ヒ行政規則ヲ
 循守セシテ懈怠ノ所爲ヲ施ス職人及ヒ奴僕ノ從犯者ハ均シク其棟
 梁及ヒ備主ナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ故意ナク人ヲ死ニ致セシ不注意

ノ所爲ニ付一犯人ヲ從犯者トスルニ於テ何ノ障礙ナキヤ明カナリ
 第五百五十八號 故意ナキ毆打及ヒ創傷○上ニ述ヘシ所ノ規則ハ第
 三百二十條ニ記載シタル故意ナキ毆打及ヒ創傷ニ適當スト雖モ該條
 ハ唯拙劣又ハ不注意トノミ記載セシヲ以テ疎忽又ハ反則ニ因テ故意
 ナク起シタル毆打及ヒ創傷ヲ包含セサルモノト解釋スルヲ得ヘシ然
 レハ此解釋ハ誤レリ何トナレハ第三百二十條ハ第三百十九條ヲ複言
 シ毆打及ヒ創傷ノ場合ニ殺害ニ關スル規則ヲ全ク適施スルニ外ナラ
 ス而シテ第三百二十條ニ於テ過失ニ區域アリト思惟スヘキ原因ナキヤ
 以テ其區域ナキヲ證スルニ足ル可ケレハナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ此
 條ニ於テ論スル所ノ輕罪ハ同一ナリト雖モ唯其結果ノ異ナルヲ以テ
 其刑ニ差等アルノミ千八百三十二年三月三十日及ヒ千
八百十三年六月二十日ノ判決

○第二節

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

從第三百二十
一條至第三百
二十六條

第五百五十九號 既ニ(第百二號及ヒ第百十七號ニ於テ)不論罪及ヒ宥
 恕減輕ヲ説クニ當リ其中ノ挑唆及ヒ正當防衛ハ故意ヲ以テノ殺害ノ
 罪及ヒ毆打若クハ創傷ノ罪ニ非サレハ適當セサルヲ論述セリ故ニ
 此二罪ニ續キ其挑唆又ハ正當防衛ニ原因シシ際ニ於テハ犯人ノ罪科
 ニ輕重ノ差異ヲ生ズヘキヤ否ヤヲ查定スルハ至當ノナル可キヲ以
 テ玆ニ之ヲ説示サン第三百二十一條ハ要領ヲ掲ケ挑唆ハ故殺ノ罪及
 ヒ毆打又ハ創傷ノ罪ニ付宥恕減輕ノ原因タルヲ得ヘキヲ記載セリ
 且該條及ヒ其以下ノ數條ニ從ヘハ挑唆ノ後ニ施シタル故意ヲ以テノ
 毆打及ヒ創傷ハ下ノ四箇ノ場合ニ於テハ宥恕減輕ヲ施スヘキノ規則
 ナ生ス第一毆打又ハ至重ナル暴行ニ因テ挑唆ヲ受ケシキ第二猥褻ノ
 所行ニ因テ挑唆ヲ受ケシキ第三晝間塙垣周圍ノ踰越損壞又ハ邸宅ノ
 侵入ヲ防止セシカ爲メニ毆打又ハ創傷ヲ行ヒシキ第四夫其婦ノ現行

犯姦ヲ認メ同上ノ罪ヲ犯セシキ是ナリ
 第五百六十號 毆打又ハ至重ナル暴行ニ因テノ挑唆○法律ハ犯人ノ
 外面上ノ暴行ニ因テ挑唆ヲ受シキニ非サレハ之ニ宥恕減輕ヲ施サス
 何トナレハ人ノ身體ニ對スル毆打又ハ暴行アリシヲ要スレハナリ
 故ニ口頭ヲ以テノ誹謗又ハ体様若クハ言詞ヲ以テノ不敬ニ付テハ酌
 量減輕ヲ施スヲ得ヘシト雖モ宥恕減輕ヲ施スヲ得サルナリ此規則ハ
 暴行ヲ爲サ、リシ口頭ノ脅迫及ヒ兵器ヲ携帯セサリシ口頭ノ脅迫ニ
 適當ス故ニ人ヲ創傷セサルモ人ヲ故殺ス可キ兵器ヲ其身體ニ接近シ
 キハ暴行ニ因テノ挑唆アリトス 共和十一年三月十五日ノ判決 犯人小銃ヲ持シ人ニ
 對シテ之ヲ發射スルノ体様ヲ爲シテ脅迫セシキモ亦同一ナリトス然
 レモ獵則ノ現行犯ヲ發露シタル憲兵ヲ殺害セシ者ハ假令憲兵ヨリ脅
 迫ヲ受ケシ旨ヲ述ヘ宥恕減輕ヲ申立ルモ無効ナリ 千八百五十七年四月二十五日ノ判決

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

第五百六十一號 第三百二十一條ハ人ノ身體ニ對シテ暴行ヲ施セシ
 一ヲ要ス此人ノ身體ニ對シテノ語ハ法律ノ目的トスル所ノ暴行ノ性
 質ヲ指示ス故ニ假令外面上ノ暴行ト雖モ動物ヲ毆打セシ如キ人ノ身
 體ニ施サ、リシ暴行ハ宥恕減輕ノ原因タラサル可シ千八百十四年二月七日ノ判決
 人ノ身體ニ暴行ヲ加ヘシコトハ之ヲ宣告文中ニ記載セサルヲ得サルヘ
 シ然レモ法律ハ畜ニ殺害又ハ創傷ヲ受ケタル人ニ暴行ヲ加ヘシコト
 ミヲ要用トセサルカ故ニ他人(犯人ノ親族朋友タルト否トヲ論セス)ニ
 暴行ヲ加ヘシキト雖モ犯人ノ之ヲ援助センカ爲メニ罪ヲ犯セシキハ
 宥恕減輕ヲ得ヘシ但シ自己又ハ他人ノ受ケントスル暴行ヲ避ケ或ハ
 之ヲ止メシメンカ爲メニ罪ヲ犯セシキハ全ク無罪ナリトス
 第五百六十二號 又第三百二十一條ハ毆打及ヒ暴行ノ至重ナルヲ要
 ス然レモ法律ハ其度ヲ記載セサリシカ故ニ明確ニ之ヲ定ムルハ至難

ナリ但シ宥恕ノ方法ハ犯人及ヒ被害者ノ身分地位等ニ因テ變易アル
 ヲ要シ從ツテ暴行ノ度ハ外面上ノ成績ニノミ基キ之ヲ測量スルヲ要
 セス故ニ暴行ハ被害者ノ年齢強弱又ハ其社會上ノ地位等ノ故ヲ以テ
 之ニ劇シキ感觸ヲ起セシキハ即チ至重トス法律ハ其疾病又ハ創傷ヲ
 起セシコトヲ希望セスシテ唯外面上ノ成績ニノミ就テ論シ且暴行ヨリ
 起シタル激怒ノ感觸精神ノ錯亂ノ度ニ從テ其輕重ヲ定メリ刑法理論
第三十四號此至重ナルコトハ毆打及ヒ創傷ニ均シク適當シ千八百五十九年
六月三十日ノ判決
 決而シテ宥恕ニ關スル宣告文中ニ記載セサルヲ得サルナリ千八百三十五年三月十
日千八百五十九年六月三十日ノ判決
 第五百六十三號 挑唆ニ因テ起シタル殺害及ヒ創傷ニ付宥恕減輕ヲ
 施ス所以ノモノハ其挑唆ヲ不正ノ襲撃ト看做セハナリ是レ最モ注意
 スヘキノ點ナリ何トナレハ若シ其襲撃ノ正當ナルキ即チ法律上命ス

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

ルモノタルキハ其防衛ハ正當ニ非サレハナリ故ニ規則ニ從テ兇徒ノ
 逮捕ヲ掌トル所ノ使吏憲兵又ハ一揆狀ノ集合ヲ退散セシムルノ命ヲ
 蒙リタル公ケノ兵力ヲ掌トル者ノ施シタル暴行ハ正當ノモノタルヲ
 以テ之ニ對シテ施シタル暴行ハ宥恕減輕ノ原因タルヲ得サルナリ
 第五百六十四號 以上ノ規則ニ由テ之ヲ觀レハ下ノ三條件ノ具備ス
 ルニ非サレハ挑唆ニ原因スル殺害及ヒ創傷ノ宥恕減輕ヲ構造セス第
 一人ノ身體ニ對スル毆打又ハ暴行ニ因テ挑唆ヲ爲セシメ、第二此毆打
 及ヒ暴行ノ至重ナルヲ、第三此暴行ノ不正又ハ不正ノ景狀ヲ有スル襲
 撃タルヲ是ナリ○殺害又ハ創傷ノ所爲ハ挑唆ノ所爲ニ續キ直チニ之
 ナ施セシヲ要スヘキ乎此問題ハ概シテ之ヲ可決ス故ニ犯人ノ熟考ナ
 ク襲撃ニ應シテ直チニ動作ヲ爲セシキハ殊ニ宥恕減輕ヲ施ス可シト
 雖モ此二所爲ノ間隙ノ長大ナルキハ挑唆ハ同一ノ効ヲ生セサルナリ

然レモ法律ハ二所爲ノ近接ナルヲナシテ宥恕減輕ノ一條件クテシメ
 ス且正當防衛ノ如ク挑唆ノ區域ヲ狭小ナラシメサルカ故ニ常人ノ頭
 腦ニ憤怒ヲ保持スヘキ時間中ハ繼續ス可シ但レ其間隙ノ度ヲ定ムル
 ハ成シ得可ラサルヲナリト雖モ然レモ余ハ正當防衛ニ付常ニ其間隙
 アルモノト思惟セサルナリ共和第十年十月二十七日及ヒ千
 八百二十六年三月十日ノ判決
 第五百六十五號 尊屬ノ親ヲ殺セシ場合ニ於ケル例外○第三百二十
 三條ハ尊屬ノ親ヲ殺セシ罪ニ付テハ宥恕減輕ヲ施ス可ラサルヲ掲
 ケ以テ挑唆ニ原因スル宥恕減輕ニ例外ヲ置キタリ但シ第二百九十九
 條ニ於テ目撃セシ如ク此規則ハ第四百六十三條酌量ノ適施ヲ障礙セ
 サルナリ又第三百二十三條ノ例外ハ第三百二十一條ニ記載スル場合
 ノ中尊屬ノ親ヲ殺セシ罪ニミ適當シ其他毆打及ヒ創傷ノ場合ニ適
 當セサル可シ何トナレハ第三百二十一條ハ子カ其父母ニ對シテ毆打

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

及ヒ創傷ヲ施セシ場合ト他人ノ同所爲ヲ施セシ場合トチ區別セサレ
 ハナリ千八百二十二年一月十日ノ判決一之ト同一ノ理由ニ從テ子又ハ尊屬ノ親ヲ殺ス
 ノ意思ナクシテ此所爲ヲ施セシ場合ニ宥恕減輕ノ適施ヲ許スヲ要ス
 ヘシ何ントナレハ此場合ハ尊屬ノ親ヲ殺セシ場合ノ如ク故殺ニ非サ
 レハナリ〇十六歳以下ノ幼者ノ是非辨別ヲ以テ尊屬ノ親ヲ殺セシハ
 ニ於テハ第三百二十三條ハ第六十七條ノ適施ヲ障礙セサルヤ疑ヲ容
 レサルナリ刑法理論第四千四百三十三號參照

第五百六十六號 刑罰〇挑唆ニ原因スル所ノ宥恕減輕ノ護送狀ニ記
 載アルカ吟味ニ因テ生スルカ又ハ法律ニ從テ被告人ヨリノ申立アリ
 シハ必ス之ヲ陪審會ニ下問セサルヲ得サルナリ千八百二十六年三月十日及千八百六十九年六月三十日ノ判決而テ陪審會ニ於テ宥恕減
 輕ヲ允許セシハ第三百二十六條ニ從テ其減輕方法ヲ定ム此宥恕減

輕ハ第四百六十三條ニ記載スル所ノ酌量減輕ト相關係セズ何トナレ
 ハ此二種ノ減輕ハ各々異ナリタル所爲ニ適當ス即チ其一ハ有罪ナル
 所爲中ノ場合ニ適シ其一ハ被告人ノ身分ニ屬スル所ノ附屬ノ場合ニ
 適スレハナリ

第五百六十七號 猥褻ノ所爲ニ因テノ挑唆〇第三百十六條ニ記載シ
 タル陰部切斷罪ノ原素ハ既ニ第五百三十二號ニ於テ之ヲ目撃シシカ
 猥褻ノ所爲ニ因テ挑唆ヲ受ケタル後直ニ此罪ヲ犯セシハ宥恕減輕
 ヲ施スヘキ故殺又ハ創傷トス第三百三十五條ニ但シ正當防衛ヲ生スヘキ所爲
 ト不敬ノミノ所爲トノ間ニハ區別アリ即チ強姦ノ罪又ハ此罪ノ未遂
 犯ハ其被害者ニ正當防衛ノ所爲ヲ生シ其保庇ノ爲メコ行フタル殺害
 ヲ無罪トスト雖モ其他強姦ヲ目的トセス唯不敬ノミヲ目的トセシ猥
 褻ノ所行ハ挑唆ヲ構造スルニ止マルナリ法律ハ劇シキ不敬ニ因テノ

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

挑唆アルハニ非サレハ陰部切斷ノ罪ニ宥恕減輕ヲ施スヲ允許セス劇
シキ不敬トハ執行シタル暴行又ハ暴行ノ未遂犯即チ人ヲ害ス可キ性
質ノ外面上ノ暴行ヲ云フナリ但シ其暴行ハ人ノ身体ニ對シテ行ヒシ
ヲヲ要スルナリ此宥恕ハ被害者ノ親族又ハ暴行即チ挑唆ノ後直チニ
應報ヲ施セシキハ暴行ノ證人ヨリ之ヲ申立ルヲ得ヘシ

第五百六十八號 住所ニ侵入スルノ所爲ニ因テノ挑唆○第千三百二
十二條ハ晝間人ノ住所ニ侵入シ又ハ墻塀ヲ踰越スルノ所爲ヲ人ニ對
スル至重ナル暴行ト同視ス住所ノ襲撃ヲ受ケタル人民ノ權利ハ晝夜
ニ因テノ差別アリ夜間ノ襲撃ハ被害者ノ爲メニ正當防衛ノ所爲ヲ生
スト雖モ晝間ノ襲撃ハ挑唆ニ過キサルナリ然レモ此區別ハ確乎動カ
ス可カラサルモノニ非サルヲ以テ事實ニ因テ判定スルヲ要スルナリ
第三百二十二條ハ挑唆ト同視スヘキ所爲ヲ記載セリ故ニ此所爲ハ挑

唆ヲ構造スヘキ暴行ニ類似シタル性質ノモノ(即チ自己又ハ家内ノ者
ノ性命ヲ危ムコトナシ唯常人ノ精神ニ劇シキ感觸ヲ生ス可キモノ)タル
ヲ要ス何トナレハ若シ性命ノ危キハ第三百二十八條ヲ以テ論スヘ
キ正當防衛ヲ生スレハナリ又第三百二十二條ノ意ハ狹小ナルモノト
思惟スルヲ要セス何トナレハ該條ハ之ニ列記シタル場合ト同種ノ所
爲ニ適當ス可キモノナレハナリ故ニ踰越又ハ損壞ノ後ハ勿論其時ニ
於テ襲撃者ヲ追逐シンカ爲メニ施シタル殺害又ハ創傷ニ付テハ全ク
宥恕減輕ヲ施スヘシト雖モ襲撃ノ前又ハ之ヲ止メシ後即チ危險ノ前
又ハ其去リシ後又ハ住居ニサル場所若シハ庭園ノ周圍ノ踰越ニ對シ
テ殺害又ハ創傷ヲ施シシキハ宥恕減輕ヲ適施シサルナリ
第五百六十九號 夫婦間ノ暴行ニ因テノ挑唆○第三百二十四條ハ夫
ノ婦ニ對シ或ハ婦ノ夫ニ對シテ行フタル故殺ニ付宥恕減輕ヲ施ス可

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

カラサルノ要領ヲ掲ケリ此規則ハ密附ノ連結ヲ以テ偕老スルノ義務
 アル人ニ對シテ行フタル故殺ニ付テハ宥恕減輕ヲ施サ、ルノ主義ニ
 出テタルモノナリ但シ夫婦中ノ一人其一方ヲ殺害スルノ意思ナクシ
 テ之ヲ毆打又ハ創傷セシキハ此例ニ非ス即チ宥恕減輕ヲ適施スルナ
 リ千八百十二年一月十日ノ判決一若シ夫自ラ故殺ヲ行ハスシテ配耦者ヲ故殺スルノ
 從犯者トナリシキモ又宥恕ヲ申立ルヲ得ス何トナレハ其理第三百二
 十四條ノ要領ト同一ナレハナリ千八百三十八年一月十九日ノ判決一但シ宥恕減輕ヲ許
 サ、ルノ規則ニ二箇ノ例外(皆第三百二十四條ニ記載スル所ノモノ)アリ
 リ其一ハ夫婦ノ一人ノ其一方ノ性命ヲ襲撃セシキ其一ハ姦通アリシ
 キナリ茲ニ述フル所ノ性命ノ襲撃トハ襲撃者ヲ殺害セスシテ之ヲ追
 逐シ得可キモノヲ云フ第三百二十四條ニ於テ宥恕減輕ヲ許スハ夫レ
 此理ニ由ルヘシ何トナレハ若シ襲撃者ヲ殺害スルニ非サレハ已レノ
 性命ヲ救フ能ハカリシキハ是レ正當防衛ノ權ヲ行ヒシモノニシテ當
 ニ宥恕減輕ヲ得可キノミナラス第三百二十八條ニ從テ無罪タルヲ得
 可ケレハナリ

第五百七十號 姦通ニ因テノ挑唆○第三百二十四條ノ第二項ハ夫ニ
 許スニ他人ト姦通スル所ノ婦ト其密夫トヲ殺害スルノ權ヲ以テセス
 ト雖モ此種ノ不敬ヲシテ宥恕減輕ノ原因タル挑唆ト看做セリ此宥恕
 減輕ニ付テハ必要ナル條件ニアリ、第一夫其婦ノ現行犯ヲ發見シタル
 時ニ於テ直チニ之ヲ故殺セシ、第二夫婦ノ住居ニ於テ其發見ヲ爲セ
 シ、是ナリ但シ茲ニ論スル所ノモノハ治罪法第四十一條ニ義解ヲ掲
 シル所ノ現行犯ノ類ニ非スシテ婦ト姦夫トヲ共ニ發見セシ、ヲ要ス
 然レモ姦通ヲ行ヒシカ又ハ行ハントセシト認ムヘキ場合ニ於テ雙方
 ヲ發見セシ、ヲ以テ足レリトス若シ又其發見ト殺害トノ間ニ長大ナル

挑唆ニ原因スル宥恕減輕

間隙アルカ又ハ夫其婦ノ姦通タルヲ確認シタル後一旦退キ更ニ兵器ヲ携ヒ來リテ殺害ヲ施シキハ宥恕減輕ヲ許サス何トナレハ如此キ所爲ハ初發ノ憤怒ニ因テ生セシモノニ非スシテ熟考ヨリ生セシノ所爲ナレハナリ第二夫婦ノ住居ニ於テ殺害ヲ施シキニ非カレハ夫ハ宥恕減輕ヲ得ヘカラス何トナレハ法律ハ殊ニ夫ノ爲メニ夫婦ノ住居又ハ其臥床ヲ保護スルヲ希望スレハナリ刑法理論第四千四百七十九號參照夫婦ノ住居トハ夫ノ住居スル所ノ共同ノ住所ニシテ婦ヲ住居セシムルヲ得婦モ又之ニ住居スルノ權アル場所ナリ千八百七十二年一月二十五日ノ判決故ニ夫婦別居ノ場合ニ於テ夫其婦ノ住所ニ於テ婦ノ姦通ヲ發見シ之ヲ殺害セシキハ宥恕減輕ヲ許サス何トナレハ上ニ述ヘシ如ク法律ノ夫ノ爲メニ格段ニ保護スル所ノモノハ夫婦共同ノ住居ニ限レハナリ

從第三百二十七條至第三百二十九條

○第三節 適法ノ殺害及ヒ正當ノ殺害

第五百七十一號 適法ノ殺害○罪ヲ生セサル殺害ニアリ法律ノ命スル所ノモノ及ヒ正當防衛是ナリ適法ノ殺害トハ第三百二十七條ノ規則ニ從ヘハ法律及ヒ掌管ノ官ヨリ命スル所ノモノヲ云フ故ニ重罪又ハ輕罪ヲ消滅センコトハ法律ノ殺害ヲ命セシノミヲ以テ足レリトセス掌管ノ官ヨリモ亦其下命アリシヲ要スルナリ法律ハ其殺害ヲ下命セシ長官又ハ長官ト隔地ニアリテ殺害ヲ施スコトヲ要用ナリト自ラ判定セシ官吏ニ其責ヲ擔當セシムルコトヲ希望セリ茲ニ適法ノ殺害ノ例ヲ舉ンニ二國ノ間ニ規則ヲ履踐シテ戰書ヲ投セシ際ニ於テ又群集アルニ當リ規則上其退散ヲ命シタル後之ニ對シテ兵力ヲ施用セシ際ニ於テ千七百八十一年四月十六日千八百四十八年六月七日及ヒ千八百五十二年二月二十三日ノ法裁判所ノ宣告ニ因テ命シタル死刑ヲ執行セシ際ニ於テ公ケノ兵力ヲ掌トル其職務上人ノ襲撃ヲ追却シ或ハ職務上之ニ抵抗

適法ノ殺害及ヒ正當ノ殺害

シテ争闘セシ際ニ於テ千八百二十五年一人ヲ殺害セシ場合ノ如キ是ナリ但シ上告中ニシテ未ク其判決ヲ終ヘサル被罰者ヲ處刑セシ際ニ於テハ重罪ヲ生シ又正當防衛ニ非サルカ或ハ規則ヲ履踐セスシテ一揆黨ニ對シ兵力ヲ施用セシ際ニ於テハ官吏其責ニ任シ又憲兵使吏及ヒ税關ノ監吏兵力ヲ施用スルニ至ラスシテ其命ヲ執行スルヲ得ヘキ際ニ於テ之ヲ施用セシキハ均シク其責ニ任ス可キナリ刑法理論第四百七十八號

參觀

第五百七十二號 正當ノ殺害○殺害及ヒ創傷ヲ無罪タラシムル第二ノ原因ハ防衛ノ必要ナルヲナリ天賦ノ權タル防衛ノ權ハ第三百二十八條ニ之ヲ記載シテ曰ク自己又ハ他人ノ爲メニ正當防衛ノ目前必要ナルヲ以テ殺害又ハ毆打ヲ施セシキハ罪ヲ生スルヲナシト此無罪ニ必要ナル條件ニアリ第一自己又ハ他人ノ防衛ノ爲メニ殺害又ハ創傷

ヲ施セシト第二此防衛ノ目前ノ危害ヲ避ケルニ必要ナリシト是ナリ此無罪ハ身體ノ防衛即チ性命ノ防衛ニノミ適當シ所有權又ハ名譽ノ防衛ニ適當セサルナリ故ニ正當防衛ハ身體ノ危害ヲ避ケンカ爲メニ施シタルモノニ限ルナリ

第五百七十三號 第二ノ條件ハ防衛ノ必要ナリシトナリ防衛ハ目前ノ危害ヲ避ケンカ爲メニ施シ且襲撃力ノ比較ニ應シテ動作セシキニ非サレハ必要ノモノニ非ス何トナレハ防衛ノ權ハ目前ノ危害ニヨリテノミ生スルモノナレハナリ第三百二十八條モ亦目前ノ必要ヲ正當防衛ノ無罪ノ原因トセリ此目前ノ必要ノ語辭ハ即チ襲撃ヲ蒙リタル時ニ於テ之ヲ追却センカ爲メニ力ヲ用フシテ要ス可キノ意ヲ證スルモノナリ已レテ死ニ致ス可キノ脅迫ニ應シテ施シタル殺害ハ無罪ノ原因クテサル可シ何トナレハ脅迫ハ内心上ノ襲撃ニシテ目前ノ危害

適法ノ殺害及ヒ正當ノ殺害

ニ非サレハナリ又目前ノ脅迫ト雖モ之ヲ追却シタル後ハ危害ノ去リ
シヲ以テ防衛ノ權消滅ス蓋シ防衛ノ權ノ區域ハ襲撃ヲ追却スルニ必
要ナル抵抗ヲ出テサルナリ故ニ追却後ニ施シタル威力ハ防衛者ノ爲
メニ必要ナラス從テ正當ノモノニ非ラス身體ノ保護一タヒ立ナシ上
ハ復自ラ人ヲ制セスシテ法律ノ制止ニ任ス可キナリ刑法論第四百
八十四號及
四百八
十五號參
觀

第五百七十四號 防衛ハ非理ナル襲撃即チ第三百二十七條ニ記載セ
サル襲撃ヲ追却スルキニ非サレハ正當ニ非ス何トナレハ該條ニ記載
セサル所ノ襲撃ハ概シテ非理ナレハナリ然レモ二人間ノ喧嘩ニ付テ
ハ何レニ權アルヤヲ知ルニ苦ムコトアリ總テ法律ノ執行ニ非サル襲撃
ニ因テ身體ノ安寧ヲ害セラレントスルヲ以テ施シタル防衛ニ付テハ
其無罪タルコトヲ申立ルヲ得ヘシ而シテ身體ノ安寧トハ管ニ性命ノ安寧

ノミナラス創傷又ハ強姦ノ未遂犯ヲモ蒙ラサルノ安寧ヲ云フナリ又
自己又ハ親族ノ身體ノ爲メニノミナラス他人ノ身體ノ爲メニ襲撃者
ニ對シテ殺害又ハ創傷ヲ施セシキモ亦罪ヲ構造セサルナリ故ニ法律
ハ親族ト他人トノ區別ヲ消除セリ蓋シ非理ノ襲撃ニ對シテハ他人ヲ
モ無面識ノ人ヲモ援助スルノ義務アレハナリ刑法論第四百
九十一號參
觀
第五百七十五號 夜間襲撃ヲ追却センカ爲メニ行フタル殺害○第三
百二十九條ハ防衛ノ目前ノ必要ナル二箇ノ場合ヲ記載ス夜間ニ於ケ
ル家屋ノ周圍ノ踰越又ハ損壞及ヒ暴行ヲ以テ行フタル竊盜又ハ掠奪
是ナリ例示タル此二箇ノ場合ニ於テ法律ノ殺害又ハ創傷ヲ正當タラ
シムル所以ノモノハ所有權ノ襲撃ヲ受ケシノ故ニ非スシテ夜間ニ於
テ爲シタル襲撃又ハ竊盜者ノ行フタル暴行ノ家屋ノ住人ニ危害ヲ起
スノ故ニ因テナリ之ニ由テ之ヲ觀シテハ正當防衛ハ格段ニ法律ニ記載

適法ノ殺害及ヒ正當ノ殺害

シ且裁判官ノ判定スヘキ數多ノ場合ノ如ク上ノ二箇ノ場合ニ於テハ
 第三百二十八條ノ規則ニ從フナリ故ニ此二箇ノ場合ニ於テハ襲撃又
 ハ暴行ノ所爲ノ人ヲ恐懼セシメシト其襲撃ノ不正ニ行ハレシト
 防衛ノ所爲ノ實ニ必要ナリシトテ要スルナリ法律ハ襲撃者カ夜間
 施行セント企テシ重罪又ハ輕罪ノ性質ヲ定メサリシカ故ニ防衛ノ權
 ハ竊盜ノ場合ニ於テモ其他誘拐強姦又ハ暴行ノ如キ罪ヲ企テシ場合
 ニ於テモ同一ナリ第三百二十九條ハ如此ク防衛ノ目前必要ナルニ因
 テ施シタル殺害又ハ創傷ヲ正當ノモノトスト雖モ之ニ反シテ防衛ノ
 必要ナラサル旨ヲ判定セシトハ正當防衛ト同一ノ利益ヲ附與セサル
 ナリ但シ全ク防衛ノ必要ナラサリシ場合ト必要ナリト雖モ其區域ヲ
 越ヘシ場合トテ區別スヘシ第一ノ場合ニ於テハ必要ナラサル防衛ヲ
 施シシ犯人ニ正當防衛ニ付キ附與スヘキ利益ヲ附與セス第二ノ場合
 ニ於テハ防衛者ノ爲メニ過失ヲ生スト雖モ如何ナル輕罪ヲモ構造セ
 サルナリ千八百七十七年十二月十九日千八百四十四年七月十一日及ヒ
 參四號

○第四款

風俗ヲ亂ス罪

○第一項

猥褻ノ罪

アツクムンターオーニールス
ウイットラージュニヒコソフツクアラヒユロル

第三百三十條

第五百七十六號

輕罪ノ原素○風俗ヲ亂ス事トハ格段ナル罪ヲ生ス
 ル所ノ數多ノ所爲ニシテ其性質ヲ定ムルヲ屢至難ナルモノナリ此所
 爲ノ第一ノ場合ハ猥褻ナリ其原素ハ明瞭ニ第三百三十條ニ之ヲ指示
 ス即チ猥褻ノ罪ヲ構造センニハ猥褻ノ所行ヲ施セシト此所行ヲ公
 ケニ爲セシトテ要スルナリ抑猥褻ノ所行トハ如何ナルモノヲ指ス
 乎法律ハ其義解ヲ掲ケサリシカ該所爲ノ格段ナル性質ハ一般ノ貞操
 清廉ヲ破リ其證人ノ正實ヲ毀傷シ惡例ヲ殘スヲナリ此所爲ハ暴行ヲ

猥褻ノ罪

以テ爲セシモノニ非ス又格段ニ人ノ清廉ヲ破ルニ非ス一般ノ清廉ヲ破ルモノナリ七月八日三十八年判決即チ耻辱ノ所爲、不清潔ノ所爲ニシテ人ニ對スル襲撃ニ非サルナリ而シテ此所爲ハ惡行ヨリモ寧ロ已レテ忘却セシノ所爲ニ近シ故ニ猥褻ノ所行ハ之ヨリ生シテ結果ノ如何ニ關セス被害者ノ憤怒ヲ醸スヘキ性質ノ所爲アリシノ一事ヲ以テ生スルナリ千八百八十三年三月二十六日千八百五十四年一月三日千八百三十四年三月十八日及ヒ千八百五十四年一月二日ノ判決第三百三十條ハ千七百九十一年七月十九日及ヒ二十二日ノ法ノ如ク婦女ノ猥褻ノ所行ニ付其構造ヲ制限セシテ一般ノ清廉ヲ破ルノ効チ有スルヲ以テ充分トセリ然レモ該條ニ記載スル所ノ所行ハ外面上即チ手ヲ以テ施セシモノタルヲ要スルカ故ニ粗暴ナル言詞ハ此所爲ヲ構造セサルナリ但シ千八百十九年五月十七日ノ法ノ第八條ニ記載シタル輕罪ヲ構造スル犯人ニ猥褻ノ効チ生シシムルノ意思アリシコトハ之ヲ判決

文中ニ記載セサルヲ得ス而シテ此必要ナル條件ハ所爲ノ不清潔又ハ外面上ノ執行ノ所爲ニ依テ證ス可キナリ○千八百七十年十月六日ノ判決觀

第五百七十七號 第二ノ條件ハ公然猥褻ノ所行ヲ爲シテナリ茲ニ述フル所ノ公然ハ千八百十九年五月十七日ノ法ノ第一條ニ義解ヲ揭クル所ノ制限アル公然ニ非ス然レモ第三百三十條ニ於テ諸種ノ公然或ハ所行ヲ爲シテ場所ノ故ヲ以テ或ハ其他ノ場合ニ因テニ適用スル所ノモノハ全ク判決例ニ係ハル月千八百二十八年二月二日ノ判決故ニ公ケノ場所ニ於テ又ハ公ケノ場所ニ非ストモ公衆ノ目前ニ於テ爲セシ猥褻ノ所行ハ公然タルモノナリ抑公ケノ場所トハ如何ノ公ケノ場所トハ一般ノ人民又ハ一部ノ人民ノ常ニ又ハ約束或ハ定時ヲ以テ經過シ得ヘキ場所ヲ云フ即チ道路、街路、廣場ハ常ニ經過シ得ヘキ公ケノ場所ナリ此場

猥褻ノ罪

合ニ於テハ公然ハ場所ノ性質ニ因テ生ス
 千八百一十二年七月二十六日
 及ヒ
 決ノ判又定時コ於テノミ公ケナル場所トハ酒舗、旅舍
 千八百一十九日及ヒ千八百
 十一日ノ判決六月劇場、觀塲、寺院
 千八百一十六年八月
 學校公ケノ講義ヲ爲ス
 場所一千八百三十二年十
 裁判所(但シ聽訟ノ間ノミ)
 千八百一十九日ノ判決
 公ケノ官署千八百二十四
 年六月公ケノ馬車
 大馬車及ヒ氣車
 千八百一十九年八月
 十九日ヲ云ナリ此第二種ノ公ケノ場所ニ於テハ第一種ノ公ケノ場
 所ニ於ケル如ク所行ノ執行ハ罪ヲ構造スト雖モ其異ナル所ハ公衆ノ
 爲メニ開キタル時間即チ公ケノモノタル性質ヲ有スル時間中ニ所行
 ヲ爲セシヲ要スルナリ左ニ列記スル所ノモノハ第二種ノ公ケノ場
 所中ニ加ハラサルナリ即チ寺院内ニ於ケル僧徒ノ住居
 千八百一十六年
 八月二日ノ判
 決聽訟ヲ開キタル勸解判事ノ家屋(但シ平日并ニ出勤時間ニ於テハ已
 レノ家屋ニ於テ訟ヲ聽クコトナシ)公賣ノ場所外ニ於ケル公證人ノ詰所
 商業仲介人ノ詰所
 千八百一十三年十一月
 家屋ノ廊下
 千八百一十七日ノ判
 決
 公衆ノ爲メニ開カサル商店
 千八百一十二年三月十五日
 千八百一十八
 年十一月十一日ノ判決
 公衆ノ用ニ供セサル馬車
 千八百一十六年五月二十一日ノ判
 決是ナリ

第五百七十八號 上ノ第二種ノ場合ニ於テハ猥褻ノ所行ノ公然ナル
 コハ公ケノ場所ト否トテ論ヒス公衆ノ目ニ觸レシメタルコヨリ生ス
 故ニ田野ニ於テ施シタル所行ト雖モ人ノ目ニ觸レシカ又ハ觸レ得可
 キトハ公然ノモノト看做シ又一室内ニ於テ施シタル所行ト雖モ窓廬
 ヨリ人ノ發見シシトハ均シク公然ノモノト看做スヘシ
 千八百一十九年七月十九日及ヒ
 千八百一十五年四月二日ノ判決
 人ノ發見ヲ避ケンカ爲メ豫備シテ家
 屋内ニ於テ耻ヘキ所行ヲ施セシニ其豫防ノ不整備ヨリシテ充分ナル
 隱匿ヲ遂ケサリシトモ亦上ト同一ナリトス
 千八百一十八年五月十八日ノ判
 決然レヒ

暴行ナキ猥褻ノ罪

此最終ノ場合該號ニ指シニ於テハ公然ノ正ニ有リ得ヘキカ又ハ人ヨリ發見セラレテ一般ノ清廉ヲ破リシコトヲ要スルナリ此罪ノ宣告文中ハ猥褻ノ所行ト公然ノ種類トヲ記載スルヲ要シ此記載ナキ宣告ハ無効タルヘシ千八百六十三年五月十一日及千八百六十九年四月二十三日ノ判決

第三百三十一條

○第二項 暴行ナキ猥褻ノ罪

第五百七十九號 重罪ノ原素○千八百三十二年四月二十八日及千八百六十三年五月十三日ノ法ニ因テ改定ニ屬シタル第三百三十一條ハ二箇ノ規則ヲ包含ス其一ハ十三歳以下ノ幼者ノ身上ニ暴行ナク行フタル猥褻ノ罪ヲ懲役ノ刑ニ罰スルモノ其ハ十三歳以上ノ幼者ノ身上ニ猥褻ノ罪ヲ犯シタル尊屬ノ親ニ同刑ヲ適施スルモノ此第一ノ場合ニ於テ必要ナル原素ハ猥褻ノ所行及ヒ被害者ノ年齢ナリ

第五百八十號 暴行ナキ猥褻ノ所行○概シテ猥褻ノ所行ハ暴行ヲ以テ施スモノナリト雖モ第三百三十一條ニ於テハ幼者ノ身上即チ幼者ノ廉潔ニ對シテ施シタル猥褻ノ所行ト解スヘシ故ニ幼者ノ身上ニ施シタル不品行ハ法律ヲ以テ之ヲ論ス此規則ハ管ニ幼者ノ身上ニ施シキノミナラス幼者カ犯人ノ身上ニ施シ場合ニ適當ス何トナレハ此二箇ノ場合ニ於テハ幼者ノ廉潔ヲ害スルヤ同一ナレハナリ第三百三十一條モ亦此二所爲チ同一視セリ千八百三十五年四月二日及千八百八十年七月二十七日ノ判決 第三百十一條ノ適施ニ付若シ猥褻ノ所行ヲ施セシコトヲ判決文中ニ記載セシキハ暴行ナク猥褻ノ所行ヲ施セシ旨ヲ記載スルノ要ナシトス何トナレハ被告人ノ爲メニハ十三歳以下ノ幼者ノ身上ニ猥褻ノ所行ヲ施シシノ一事ヲ以テ罪ヲ生ズレハナリ千八百一十五年四月二十九日ノ判決 暴行ナキ旨ノ記載ハ暴行ヲ用シキニ於テ施スヘキ刑ノ加

暴行ナキ猥褻ノ罪

重ヲ避ケンカ爲メニ非サレハ要用ニ非サルナリ○若シ幼者抵抗シ而
 ヲ其抵抗ノ犯人ノ暴行ニ因テ壓倒セラレシコノ判定アリシキハ猥褻
 ノ所行ノ性質ヲ變スルヲ以テ之ニ第三百三十二條ヲ適施ス可シトス
 第五百八十二號 被害者ノ年齢○被害者ノ十三歳以下タルコハ此重
 罪ノ構造ニ必要ナル一條件ナリ此年齢ニ至ラサル幼者ニ付テハ犯人
 カ其盲昧未熟ニ乗シテ所爲ヲ施シシノ推測アリ然レモ此年齢ヲ超ヘ
 シキハ其推測ハ消散スルカ故ニ十三歳以上ノ幼者ノ身上ニ暴行ナク
 施シタル猥褻ノ所行ハ其不品行ノ度ニ拘ハラヌ無罪ナリ千八百三十二年七月二十
 十三日千八百三十七年九月二十八日及而ノ此幼者ノ十三歳ニ達シシ
 ヒ千八百三十八年九月二十八日ノ判決
 ヤ否ノコハ全ク事實ニ關スルヲ以テ陪審會ニ非サレハ之ヲ判定申述
 スルノ權ナシ千八百三十四年十月一日及千
 八百四十二年三月四日ノ判決 破毀院ニ於テモ始テ該
 院ニ出シタル出產證書ノ幼者ニ適スルヤ否ヤテ該院ニ於テ判定スル

ノ權ナキ旨ヲ述ヘ以テ嚴格ニ上ノ規則ヲ適施シリ千八百三十三年
 三月一日ノ判決

第五百八十三號 未遂犯○既ニ第九號ニ於テ第三百三十一條ハ第二
 條ノ規則ノ例外タルコヲ目撃シリ該條ニ於テハ實ニ猥褻ノ所行ノミ
 ナラス其未遂犯ヲモ記載スル所以ノモノハ此未遂犯ノ固有ノ性質ヲ
 有スルヲ以テナリ此未遂犯ハ第二條ニ記載スル所ノ事情ニ因テ發露
 シシコトヲ要セス何トナレハ猥褻ノ所行ノ未遂犯ハ自ラ第二條ニ記載
 シタル事情ヲ包含スレハナリ第三百三十一條ニ於テ未遂犯ヲ成就シ
 タル所行ト均シク論スルモノハ夫レ此理ニ由テナリ千八百二十年二
 月二十日ノ判決故ニ陪審會ニ爲ス所ノ下問中ニ法律上ノ未遂犯ヲ構
 造スヘキ原素ヲ列記スルヲ要セサルナリ千八百三十一年九月十五日千八
 百四十年四月十五日千八百五十二年十月七
 日及千八百五十二年八月四日ノ判決

第五百八十四號 親族相姦ノ重罪○第三百三十一條ノ第二項ハ尊屬

ノ親ノ施シタル猥褻ノ所行ニ適當ス玆ニ論スル所ノモノハ第一項ノ如ク暴行ヲ加ヘスシテ威權、教唆又ハ詐僞ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ施シシ場合ナリ此場合ニ於テハ尊屬ノ親ハ幼者ヲ犯シシカ爲メニ其權ヲ妄用シシナリ犯人ノ尊屬ノ親タル場合ニ限り法律ノ幼者ニ適スル所ノ推測ヲシテ其丁年ニ達スルノ時ニ迄及ホス所以ノモノハ此威權ノ故ニ由テナリ該條ハ都テノ尊屬ノ親及ヒ二十一歳以下ノ都テノ幼者ニ適當ス但シ婚姻ノ爲メニ後見ヲ免カレタル幼者ハ例外ナリトス故ニ丁年ニ至ラサルカ或ハ後見ヲ免カレサル子又ハ孫ノ身上ニ尊屬ノ親ノ施シタル猥褻ノ所行ハ子孫ノ道德及ヒ其能力ノ如何ニ關セス又其好意承諾ノ如何ニ關セス重罪ト看做スナリ

千八百六十六年一月四日ノ判決

○第三項 暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ強姦ノ罪

第三百三十二條及ヒ第三百三十三條

第五百八十五號 猥褻ノ所行○第三百三十二條ノ第三項ニ記載シタ

ル重罪ニ付必要ナル條件ニアリ猥褻ノ所行及ヒ暴行是ナリ猥褻ノ所行トハ清廉ヲ破ルカ又ハ同一ノ効ヲ生スルノ意思ヲ以テ人ノ身上ニ施シタル外部ノ所爲ナリ此罪ノ構造ニ付テハ情慾ヲ洩サンカ爲メニ該所爲ヲ施シシヲ要セス唯清廉ヲ破リシノミヲ以テ充分ナリトス此罪ハ暴行又ハ復讐ノ目的ヲ以テ犯スヲ得又強姦ノ未遂犯ナル種々ノ所爲ヲ以テ組織スルヲ得ヘシ判決例ニ於テハ一婦女ノ他ノ婦女ニ對シ或ハ一職工ノ他ノ職工ニ對シテ施シタル不廉潔又ハ人外ノ所爲ニ付テハ犯人ノ意思及ヒ其暴行ノ如何ニ關セス又其動作ノ目的ノ有無ヲ區別スルヲナク之ヲ有罪トス

千八百二十六年二月六日及ヒ千八百五十九年三月二日ノ判決

第五百八十六號 暴行○第二ノ條件ハ暴行ナリ暴行ナク施シタル猥褻ノ所行ハ其公然行ヒシカ又ハ十三歳以下ノ幼者ノ身上ニ行ヒシキ

暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ強姦ノ罪

ニ非サレハ罰セサルナリ故ニ十三歳以上ノ者ノ身上ニ且公然ニ非ス
 シテ施セシ猥褻ノ所行ハ法律上ニ罪ナシトス千八百四十三年八月三
 十三年十一月十一日及ヒ千八百五十五年三月二十六日
 ノハ暴行ナリ何トナレハ是レ人ノ自由ヲ犯シテ其身ヲ壓スレハナリ
 故ニ竈ニ猥褻ノ所行ヲ施シシコノミナラス暴行ヲ以テ其所行ヲ謀試
 或ハ執行セシコトヲ宣告文中ニ記載セサルヲ得サルナリ千八百十三年
 二月二日及ヒ
 千八百二十年一月二十日ノ判決而シテ暴行ハ此罪ヲ構造ス可キ一條件ニシテ其加重ヲ
 爲スヘキ事情ニ非サルヲ以テ主クル下問中ニ包含ス可キモノナリ千
 八百六十四年九月八日及ヒ千八百六十五年三月二十三日ノ判決以テ第三十三
 十一條ニ於テハ一條件ナリト雖モ第三十三十二條ニ於テハ刑ヲ加重
 スヘキノ事情ナリ千八百五十四年十
 一月十日ノ判決
 第五百八十七號 未遂犯○第三百三十一條ニ於ケル如ク第三百三十

二條ニ於テ猥褻ノ所行ノ未遂犯ハ其端緒アリシト雖モ第二條ノ規
 則ニ從ハスシテ成就シタル所行ト同視ス數多ノ判決ニ於テハ強姦ヲ
 目的トセサル暴行ヲ以テ施シタル猥褻ノ所行ノ未遂犯ハ自ラ第二條
 ニ記載シタル場合ヲ包含セシコト刑法ノ格段ニ此未遂犯ヲ施行シタル
 所行ト同視シシハ此理ニ由ルコト及ヒ犯人ノ目的トスル所行ノ施行ニ
 付暴行アリシノ一事ヲ以テ重罪ヲ構造スルコトヲ決定セリ千八百二十
 一年九月二十二年九月二十日千八百三十年六月十日千八百三十
 一年九月二十二年九月二十日ノ判決○刑法理論第五百七十四號參照
 第五百八十八號 法律ハ區別ナク諸種ノ猥褻ノ所行ニ適當ス故ニ第
 一同性ノ人ノ身上即チ男ト男ノ間、女ト女ノ間ニ施シタル猥褻ノ所行
 ニ適當シ、第二夫其婦ノ身上ニ施シタル暴行ヲ以テノ猥褻ノ所行ニ適
 當ス千八百五十九年十一月二十一日及ヒ
 千八百五十四年三月十八日ノ判決但シ此第一ノ場合ニ於テハ
 同姓ノ人ノ間ニ於ケル關係ハ常ニ容易ナルヲ以テ能ク所行ノ有罪ナ

暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ強姦ノ罪

ルヤ否ヤヲ査定スルヲ要シ第二ノ場合ニ於テハ夫婦間ノ内事ニ關係
スル所ノ裁判所ハ深ク注意シテ夫ノ威權妄用アリシヤ否ヤヲ探索ス
ルヲ要ス可キヲ遺忘ス可カラス

第五百八十九號 強姦○第三百三十二條ハ強姦ヲ罰シテ其義解ヲ揭
ケサリシカ義解ハ自ラ其語中ニ包含ス即チ強姦トハ威力ヲ以テ一人
ノ意ニ反シ施シタル不適法ノ交合ナリト故ニ此罪ヲ構造スル所ノ二
原素ハ不適法ノ交合ト暴行ナリ若シ此二條件中ノ一欠缺スルキハ猥
褻ノ所行又ハ其未遂犯ノ所爲アリト雖モ強姦ノ所爲アレサルナリ

第五百九十號 暴行ハ人ノ身上ニ加ヘシモノタルヲ要シ其所爲ノ此
人ニ迄達スルヲ得ヘキノ目的ヲ有セシノミヲ以テ足レリトセヌ又暴
行ハ完全ノモノタルヲ要ス即チ被害者ノ應答ノ遲滯ニ乘シテ所爲ヲ
施セシヲナク全ク其抗拒ニ拘ハラス威力ヲ以テ施セシモノタルヲ要

スルナリ高名ナル淫行者ニ對シテ施シタル暴行ノ有罪ナルヤ否ヤニ
付疑惑ヲ抱ク者アリ然レモ淫行ヲ慣習トスル婦女ニ對スル暴行ト雖
モ重罪ヲ構造スルニ障礙アルナシ何トナレハ假令被害者ノ平常淫行
ナルモ之ニ對シテ施シタル暴行ヲシテ正當タラシムルノ理ナク又淫
行者ト雖モ自己ヲ處分スルノ權ヲ人ニ讓與セシニ非ス而シテ法律ノ暴
行ヲ罰スルハ一般人民ヲ保護スルノ目的ナレハナリ刑法理論第五
百八十一號參觀
又娼家ニ於テ清淨ナル婦女ニ暴行ヲ加ヘ或ハ已ニ通セシ婦女ニ暴行
ヲ加ヘシノ所爲ヲ無罪トスルヲ得サルナリ千八百十四年六月
八月十四日ノ判決但シ承諾
ナキキト雖モ抗拒ヲナサ、リシキハ暴行ナントス然レモ抗拒ナキ
ノ犯人ノ施セシ方略威迫又ハ睡眠昏絶ニ原因スルキハ此詭計ヲ暴行
ト看做スナリ千八百五十七年六月二十五日及千
八百五十八年十二月三十一日ノ判決但シ暴行ハ推測ヲ
以テ之ヲ定ムルヲ得ス必ス被害者ノ抗拒又ハ犯人ノ詭計ニ因テ生セ

暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ強姦ノ罪

シテヲ要スルナリ被害者ノ癡癲又ハ白痴タルキモ亦例外ニ非サルナ
 リ
 第五百九十一號 強姦ノ未遂犯○強姦ノ未遂犯ハ第二條ニ記載スル
 所ノ條件ノ具備スルキハ重罪ヲ構造ス前ニ述ヘシ猥褻ノ所行ノ未遂
 犯ニ付テハ其執行ヲ始メタル後ハ好意ニ於ケル抛棄ヲ赦宥セサルヲ
 以テ第二條ヲ適施セスト雖モ強姦ノ未遂犯ニ付テハ然ラス第三百三
 十二條ノ第一項ハ同條ノ第三項及ヒ第三百三十一條ト異ナリテ未遂
 犯ニ付格段ナル記載ヲ爲サ、リシ故ニ強姦ノ未遂犯ハ尋常ノ未遂犯
 ノ規則ニ從フ千八百三十五年五月十八日及ヒ千八百三十五年九月十五日ノ判決依テ左ノ條件ヲ生ス、第
 一強姦ノ訴ニ付未遂犯アリヤ否ヤノ下問ハ第二條ニ記載スル所ノ條
 件ノ具備スルキニ非サレハ爲サ、ル、第二同一ノ訴ニ付暴行ヲ以テ
 ノ猥褻ノ所行アリシキハ之ヲ強姦罪ノ輕易ナルモノト看做スヲ得而

ノ此吟味ヨリ生シシ場合ヲ陪審會ニ下問スルヲ得ル千八百三十五年九月十五日ノ判決

第五百九十二號 刑ヲ加重スヘキ事情○暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ
 強姦ノ罪ハ同一ノ事情即チ被害者ノ年齢犯人ノ身分ニ依テ又ハ從犯
 者アリシニ依テ其刑ヲ加重ス此加重ノ第一ノ原因タル被害者ノ年齢
 ハ第三百三十二條ノ第二項及ヒ第四項ニ於テ之ヲ論ス即チ被害者タ
 ル幼者十五歳以下タルキハ有期徒刑ヲ加重シテ犯人ヲ其長期ニ罰ス
 故ニ暴行ナキ猥褻ノ所行ノ一條件タル年齢ハ暴行ヲ以テノ猥褻ノ所
 行ニ付テハ刑ヲ加重スヘキノ事情トナルヲ以テ此場合ニ於テ年齢ノ
 事ハ格段ニ之ヲ陪審會ニ下問セサルヲ得サルナリ千八百三十八年三月
 十九年四月十八日及ヒ千八百三十八年六月二日ノ判決

第五百九十三號 加重ノ第二ノ原因ハ暴行ヲ以テノ猥褻ノ所行及ヒ

暴行ヲ以テノ猥褻ノ罪及ヒ強姦ノ罪

強姦ノ場合ニ於テ均シク犯人ノ身分ニ由テ生ス第三百三十三條ハ此加重ノ適施方法ヲ指示シ第一被害者ノ尊屬ノ親ニ適施セリ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第三百三十三條ニ附記スル第三百三十一條ノ第一項ニ記載セシ場合ニ於テハ「ノ語ヲ以テヒリ何トナレハ同條ノ第二項ハ犯人ノ身分ノ故ヲ以テ其刑ヲ加重セサレハナリ

第五百九十四號 第三百三十三條ハ尊屬ノ親ノ後ニ被害者ノ身上ニ威權ヲ有スル者ヲ指示ス威權ニ法律上ノ威權事實上ノ威權ノ二種アリ法律上ノ威權トハ父母後見人管財人ノ威權ヲ云ヒ事實上ノ威權即チ人ノ地位場合ヨリ生スルモノトハ主人ノ其僕婢ノ身上ニ於ケル又再婚ノ婦ノ夫ノ其初婚ノ子ノ身上ニ於ケル威權ヲ云フナリ第三百三十三條ハ被害者ノ身上ニ事實上又ハ法律上ノ威權ヲ有スル總テノ人ニ適當ス人ノ身上ニ威權ヲ有スル者其保護ノ名義ヲ惡業ノ方法ニ使

用シ及ヒ罪ヲ犯サンカ爲メニ之ヲ妄用セシキハ其罪尋常人ニ對スルモノヨリ重シトス判決例ニ於テハ左ノ者ニ第三百三十三條ヲ適施セリ即チ僕婢ノ身上ニ猥褻ノ所行ヲ施シタル其主人二月二十六日ノ判決已レノ命ニ從フ作業スル職工ノ身上ニ施シタル工作所長千八百五十七年七月二十六日ノ判決未ク後見ヲ免レサル初婚ノ幼子ノ身上ニ施シタル夫千八百五十七年二月十六日ノ判決婦ノ死後ニ其私生ノ子ノ身上ニ施シタル夫千八百五十九年二月十六日ノ判決婦ノ状態ヲ以テ同一ノ家屋ニ住スル者ノ十三歳以下ノ幼子ノ身上ニ施シタル夫ノ状態ヲ有スル者千八百五十六年十二月十二日ノ判決但シ威權ノ事實上生セシ際ニ於テハ陪審會ニ於テ其事實ヲ申陳スルヲ要ス何トナレハ刑ノ加重ノ由テ生スル所ノモノハ此事實ナレハナリ例ハ唯犯人父タルノ身分ヲ有セリト申陳スルヲ以テ足リトセス必ス威權ヲ構造セシ所ノ格段ナル事情ヲ附陳セサルヲ得サルナリ千八百五十六年十二月十一日ノ

暴行ヲ以テノ強姦ノ罪及ヒ強姦ノ罪

判決○刑法理論第千
五百九十三號參觀

第五百九十五號 既ニ治罪法ノ部第八百四十二號及ヒ第八百四十三
號ニ於テ加重ヲ生スヘキ身分(例ヘハ犯人ノ後見人タルヲ等)ヲ申陳ス
ルハ陪審會ノ任タルヲテ目撃セシカ此身分ハ公證書ヲ以テ證スルモ
充分ナラス何トナレハ公證書ハ重罪ノ吟味ニ付其公證タルノ力ヲ失
シ陪審會ノ事實上ノ判定ニ因テ唯推測力ヲ有スルニ過キサルヲアレ
ハナリ如此キ場合ニ於テハ陪審會ハ其結果ヲ認可申陳セサルヲ得サ
ルナリ 刑法理論第千五
百九十四號參觀

第五百九十六號 第三百三十三條ハ尊屬ノ親及ヒ威權アル人ノ後ニ
授業師ヲ列記セリ授業師ニ加重ヲ施スノ理由ハ其威權ヨリモ寧ロ其
背信其義務ノ欠缺ニ基スルナリ此授業師ノ語中ニハ總テ監督及ヒ教
育ニ關スル者ヲ包含ス音樂唱歌圖學舞躍ノ師匠ノ如キ是ナリ

第五百九十七號 又第三百三十三條ハ主人其尊屬ノ親又ハ自己ノ身
上ニ權ヲ有スル人ニ對シテ暴行ヲ施セシ僕婢ノ刑ヲ加重ス故ニ僕婢
ノ身分ハ其備役ヲ受クル家長ニ對シテノミナラス其一家ノ親族ニ對
シテモ亦加重ノ原因タルヘシ此規則ヨリ左ノ効ヲ生ス犯人被害者共
ニ一家ノ僕婢タルキハ第三百三十三條ニ從テ犯人ノ刑ヲ加重ス何ト
ナレハ被害者ハ犯人ノ備役ヲ受クル主人又ハ其親族ノ權下ニアリテ
家長ノ保護ヲ受クル者ナレハナリ 千八百三十二年九月六日千八百五
十七年八月九日ノ判決
第五百九十八號 又僧徒及ヒ官吏ノ身分ハ加重ノ原因ナリ加重ヲ施
サソカ爲メニハ上ノ一身分ヲ有スルノミヲ以テ充分ナリトス可キヤ
又之ニ加フルニ其職務ヲ行フ場所ニ於テ及ヒ其權下ノ人ニ對シテ罪
ヲ犯セシヲ要スルヤヲ知ラサル可カラス判決例ニ於テハ加重ハ犯人

暴行ヲ以テノ殺害ノ罪及ヒ強姦ノ罪

被害者トノ間ノ職務上ノ關係ニ拘ラサルコト、獨リ官吏ノ身分ノミ加
 重ノ原因タルコトノ第三百三十三條ヨリ生スルコト、該條ノ適施ハ官吏其
 職務ノ執行中又ハ其執行ニ關シテ罪ヲ犯セシ場合ニノミ限ラサルコト
 ヲ決定セリ千八百五十二年六月九日千八百五十九年五月此決定ハ亦
五日及ヒ千八百六十年十一月二十二日ノ判決此決定ハ亦
 僧徒ニモ適當ス千八百五十六年十一月十三日ノ判決犯人ノ權又ハ身分ニ關シテハ陪審
 會ハ犯人ノ執行シタル職務例ヘハ稅關、郵便又ハ市關稅ノ官吏ト云フ
 如クノミチ申陳スルヲ要シ而シテ官吏ノ名義ヲ申陳スルヲ要セサルナ
リ千八百六十六年十一月二十二日ノ判決

第五百九十九號 從犯○第三百三十三條ニ記載シタル加重ノ最終ノ
 事情ハ重罪ノ施行ニ付犯人カ一人又ハ數人ノ援助ヲ受ケシコトナリ此
 援助ハ或ハ罪ノ施行ヲ容易ナラシムルヲ目的トスル所ノ從犯者ヨリ
 出テ或ハ連續シタル執行ヲ相互ニ施行スル所ノ共犯者ヨリ出ツ此雙

方ノ場合ニ於テハ均シク加重ヲ適施ス何トナレハ加重ヲ來ス所ノモ
 ノハ援助ヲナス者ノ意思ノ有無ヲ論セス其外面上ノ所爲ナレハナリ
千八百五十二年三月二十日ノ判決而シテ從犯者及ヒ共犯者ニハ皆正犯者ト同一ノ刑ヲ適
 施ス是レ第五十九條及ヒ第三百三十三條ノ適施ナリ但シ從犯ノ所爲
 アリトセンニハ第六十條ニ記載シタル從犯ヲ構造スヘキ條件ノ具備
 アルヲ要ス然レ共犯ニ付テハ此條件アルヲ要セサルナリ千八百五十八年七月十
三十一日陪審會ニ於テ他人ト結合シテ強姦ノ罪ヲ犯セシコト因リ罪人
ナリト申陳セシトハ充分ニ援助アリシコトヲ判定セシモノナリ千八百
一月二十九日從犯ハ援助ノ所爲又ハ施行ニ加ハリテ之ヲ容易ナラシメ
 シ所爲ニ因テ生ス此第二ノ場合ニ於テハ從犯者カ情ヲ知リテ罪ヲ犯
 セシコトヲ宣告文中ニ記附スルヲ要スルナリ千八百五十六年十一月十七日及
千八百六十四年六月九日ノ判決

奉行ヲ以テノ強姦ノ罪及ヒ強姦ノ罪

第三百三十四條及第三百三十五條

○第四項 淫行ヲ誘起スル罪

第六百號 輕罪ノ條件○第三百三十四條ハ少シク曖昧ナリト雖モ二箇ノ條件ヲ記載ス即チ犯人カ幼者ノ淫行ヲ誘起セシメ、此誘起ヲ常慣トシシテ是ナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ該條ハ自己ノ淫行ニ適當セスシテ他人ノ淫情ヲ滿タサンカ爲メニ幼者ノ淫行ヲ誘助シシ者ニ適當ス第三百三十四條ニ從ヘハ風俗ヲ亂ス罪ハ眞ニ幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシメシニ因テ生スルモノナリ依テ左ノ諸件ヲ生ス法律ノ制止セント欲スル所ノモノハ淫行ノ所爲ニ非スシテ其所爲ヲ誘助シ又ハ容易ナラシメシノ所行タルヲ而テ法律ハ該所行ヲ常慣トスル人即チ仲介人媒合人ニ非サレハ適當セサルコト是ナリ而テ上ノ解釋ハ父母ノ媒合人ナリシキニ於テ其刑ヲ加重スル所ノ第三百三十四條ノ第二項ニ因テ確實ノモノトナレリ破毀院ハ諸局ノ集會ニ於

テ該條ノ解釋ヲ下タシ該條ハ賣淫ヲ職業トスル者ニ非サレハ適當セサルコト其第一項ハ常ニ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシメテ風俗ヲ亂セシ場合ノ如ク媒合ノ性質ノ具備スルキニ非サレハ其所爲アリトスルヲ得サルコト及ヒ其適施ヲ爲スヘキハ媒合ノ所爲ニ非サレハ適當セサルコトヲ決定セリ 千八百四十四年六月十八日及千八百四十五年五月十九日ノ判決而シテ此判決以後維持シ來リタル此判決例ハ確乎タル例規トナリタリ 千八百四十六年二月十日千八百四十八年五月十二日千八百五十年九月二十日及千八百六十三年八月二十一日ノ判決○刑法理論第一千五百三十三號參

第六百一號 上ノ規則ハ全ク之ヲ履行スト雖モ事實上ヨリ生シタル區別ニ因テ汎ク之ヲ適當ス法律ハ自己ノ淫行ハ其情慾ヨリ發セシモノナリトシテ之ヲ罰セスト雖モ其淫行ノ爲メニ不法ナル方法ヲ用キシキハ之ヲ無罪トスルヲ欲セサルナリ判決例ニ於テハ第三百三十四

淫行ヲ誘起スル罪

條ヲ媒合人ニノミ制限スト雖モ復此媒合人中ニ其身分ノ判然セスシテ其實媒合ノ所爲ヲ執行シタル者ヲ列セリ即チ十三歳以下ノ幼者ヲ其母ト他人トノ淫行ノ證人トナセシ者幼者ノ面前ニ於テ自ラ淫行ヲ爲シテ之ヲ誘起シ其媒合人トナリシ者千八百五十四年五月一日及千八百五十五年四月二十一日及千八百五十六年十一月十日メシ者千八百三十五年八月十日チ爲ス者千八百五十六年一月十日及千八百五十八年十二月十九日第六百二號 第六百號ニ述ヘタル判決例ハ確乎タル例規トナリタリト雖モ尙ホ法律ノ曖昧ナル規則及ヒ淫行ヲ誘起セシ者ト淫行者トヲ區別スル所ノ規則ヨリ全ク離レザルカ故ニ常慣トシテ淫行ヲ誘起シ又ハ容易ナラシメシ以上ハ其媒合ヲ職業トスル者ノミナラス實際媒合ノ所爲ヲ施ス者ヲモ罰ス然レモ此實際ノ媒合人ハ此所爲職業トス

ル者ニ非スシテ唯其所爲ヲ施シ又自ラ淫行ヲ益スル者ニ非スシテ之ヲ誘起媒合スル者ニ過キサルナリ而シテ淫行ノ所爲ト淫行ヲ誘起センカ爲メニ幼者ヲ集合スルノ所爲トヲ混淆シ又不正ノ淫行ヲ人情ニ適スルモノナリトスル能ハサル可シ夫レ風俗ヲ亂ス罪ハ自己ノ情慾ノ爲メニ非スシテ淫行ヲ誘起スル諸種ノ方法ニ因テ又淫行ヲ誘助シ又ハ容易ナラシメシメノ爲メニ常ニ用ヰタル方法ニ因テ構造セルモノナリ然レモ尙ホ其他法律ノ條令ヨリ生ス可キ所爲ニ判決例ヲ適施スルナリ故ニ娼妓ノ居住ス可キ家屋内ノ一室ヲ幼年ノ女子ニ貸附セシノ所爲ニ第三百三十四條ヲ適施セス蓋シ其餘令ヨリ生セシ場合ニ非サルヲ以テナリ千八百五十四年十一月十日及千八百五十五年五月一日ノ判決第六百三號 總テノ場合ニ於テ外面上ノ所爲ニ加ハルコト助言挑唆又ハ不品行ノ講釋トヲ混淆ス可カラズ法律ハ風俗ヲ亂ス所行ニ非サ

淫行ヲ誘起スル罪

レハ罰セズ故ニ淫行ヲ教示センハ勿論淫行ノ戯劇ニ因テ人ヲ汚ス
可キ媒合ノ外面上ノ所爲ニ非サレハ之ヲ有罪トセス又風俗ヲ亂ス所
行ニ關シサル道德上ノ不敬ハ公然行ヒシモノニ非サレハ之ヲ有罪ト
シサルナリ千八百六十年三月十四日及千八百六十三年八月
十四日ノ判決○刑法論第五百四十一號參照

第六百四號 常慣○必要ナル一條件タル常慣トハ數回同一ノ所爲ヲ

實施シシヲ云フ故ニ單一ノ所爲ハ如何ニ有害ナルモ輕罪ヲ構造セ
サルナリ千八百六十六年十二月十二日ノ判決 然レモ同一ノ所爲ノ再施ハ同一ノ人ニ
付キ施シシト雖モ之ヲ罰ス但シ或ル判決ニ於テハ常慣ヲ構造シ

ニハ第一淫行ノ誘起ノ所爲ノ再施ト第二數被害者アルコトヲ要ス可
シトシテ同一ノ人ニ付テノ再施ヲ罰セサリ千八百三十八年六月二
日ノ判決 然レモ最後ノ判決ニ於テ第三百三十四條ハ幼者ノ淫行ノ
誘起ニ關スル同所爲ハ常慣ノ性質ヲ構造スルトシテ汎シ之ヲ罰スル

一此常慣ハ或ハ同一ノ人ニ付キ異リタル時ニ於テ數回淫行ヲ誘起シ
シノ所爲ニ因テ或ハ異リタル人ニ付キ引續キタル同所爲ニ因テ生ス
可キコトヲ決定セリ千八百五十年一月三十一日千八百六十年十二月十二
月十日及千八百六十三年一月一日ノ判決 故ニ
被害者ノ多キコトハ常慣ノ條件ニ非ス常慣ハ引續キテ數回同所爲ヲ施
セシト即チ媒合ヲ職業トセシカ或ハ間斷ナク淫行ヲ誘起シ若シハ誘
助セシトナリ而シテ幼者ニ付一淫行ノ媒助ヲ爲セシトハ有罪ニ非サ
ルナリ千八百五十年三月十四日及千八百六十三年一月三十一日ノ判決 第三百三十四條ノ第二項ハ刑ノ加重ニ付テ
ハ第一項ニ於ケル如ク常慣アルヲ要シ被害者ノ年齢及ヒ淫行ヲ誘起
スル等ノ場合モ亦第一項ト異ナルコトナク常慣ノ事情モ亦之ト同一ナ
リ千八百四十三年十二月十日及千
八百六十三年十二月十日ノ判決
第六百五號 適施○輕罪ノ成立ニ付テハ淫行ノ執行ト幼者カ其被害
人トナリシコトヲ要スル乎否ラス風俗ヲ亂ス罪ハ淫行ヲ誘起シ又ハ容

淫行ヲ誘起スル罪

易ナラシメシノ所爲ニ因テ生シ淫行ノ所爲ニ因テ生セサルナリ故ニ
 犯人カ淫行ノ所爲ヲ生ス可キ點ニ迄盡力セシキハ既ニ誘起ノ成就ア
 リシヲ以テ罪ヲ犯セシナリ千八百三十四年七月五日及千八百三十四年八月十四日ノ判決又第三百
 三十四條ハ媒合ヲ受ケサルノ前既ニ淫行ヲ爲セシ幼女ノ淫行ヲ誘起
 セシ者ニ適當ス可キ乎判決例ニ於テハ之ヲ可決ス法律ハ初メテ幼者
 ニ淫行ノ感情ヲ誘起セシ者ト其感情ヲ繼續セシメシ者トヲ區別セス
 而シテ此幼者ノ假令警察署ノ簿冊ニ娼妓タルノ記載アルモノト雖モ之
 ヲ有罪トス何トナレハ其記載ハ密賣淫ノ允許ニ非サレハナリ千八百
 五年十一月十七日千八百六十三年三月五日及同月十二月十二日ノ判決一娼妓一室内ニ同時ニ數人ノ幼
 男ヲ受遇シ其淫行ヲ誘起スルキハ罪ヲ犯セシモノナル乎然リ殊ニ此
 娼妓ノ好意ヲ以テ且ツ其幼者ノ面前ニ在ルヲ知リテ交合ヲ行ヒ以テ
 其淫行ヲ誘起セシコノ判定アリシキハ疑ヲ容レサルナリ千八百七十九年七月十七

判決ノ

第六百六號 徒犯○他人ノ媒合ヲ俟タスシテ直接ニ自己ノ淫行ヲ施
 セシ者ハ刑法ノ適施外ナリト雖モ媒合者ノ徒犯者タリシキハ此例ニ
 非サルナリ總テ徒犯ヲ有罪トスルコトハ都テノ輕罪ニ適當スル所ノ一
 般ノ規則ニシテ第三百三十四條モ亦贈遺又ハ結約ニ依テ媒合ノ所爲
 ヲ誘起セシ者ヲ例外トセサレハナリ千八百四十二年八月五日及千
 八百四十二年四月二十九日ノ判
 決然レモ淫行者ハ下ノ二條件アルキニ非サレハ徒犯者ト看做サ、ル
 コトナシ、第一第六十條ニ記載シタル徒犯ノ一方法ヲ用井シテ、第二輕罪
 ノ構造ニ付必要ナル諸般ノ所爲ニ加ハリシコト故ニ勿論媒合ノ所爲ヲ
 生ス可キ常慣アルコト千八百六十一年十月十日及千八百六十二年二
 月十三日ノ判決○刑法理論第千五百五十二號及
 第六百七號 刑罰○第三百三十五條ハ第三百三十四條ニ記載シタル

淫行ヲ誘起スル罪

刑ニ屬スルニ自由及ヒ必適ノ附加刑ヲ以テセリ後見人、管財人及ヒ親族會議ノ員タルノ禁止ト幼者ノ身體及ヒ財産上ニ父母ノ有スル權利及ヒ利益ノ剝奪トハ必適ノ附加刑ニシテ監視ハ自由ニ適施スルヲ得可キ附加刑ナリ民法上父母ニ歸ス可キ權利及ヒ利益ノ剝奪ハ淫行ノ被害者タル幼子ノ身體及ヒ財産ニノ適當シ他人ノ子ニ適當セサルナリ

○第五項 姦通ノ罪

從第三百三十
六條至第三百
四十條

第六百八號 輕罪ノ性質○刑法ハ姦通ノ所爲ヲ風俗ヲ亂ス所行中ニ加ヘ其義解ヲ掲ケカリシ蓋シ此義解ハ自ラ其意中ニ包含スルヲ以テ無用ニ屬スレハナリ姦通罪ヲ構造センニハ三條件ヲ要ス交合ノ執行兩犯人又ハ其一人ノ婚姻及ヒ婚姻シタル人ノ犯罪ノ意思是ナリ不適法ノ交合ノ執行ハ輕罪ノ第一即チ必要ナル條件ナリ故ニ如何ニ疑ハ

シキ親愛ノ所爲アルモ其既ニ執行シクル姦通ノ證據クルキニ非サレハ輕罪ヲ構造セス何トナレハ裁判所ニ於テハ成シ難キ搜索ニ手ヲ煩ス可カラサレハナリ、第二ノ條件ハ犯人雙方又ハ其一方ノ婚姻セシモノタルヲナリ何トナレハ婚姻ノ執行前又ハ解縁後又ハ例ヘハ重婚ノ故ニ因テ婚姻ノ無効ニ屬セシキニ於テ爲セシ交合ニ付テハ罪ノ成立ナケレハナリ、第三ノ條件ハ有罪ノ意思ナリ婦ノ身上ニ施シタル暴行又ハ婦ノ錯誤ハ其判定アリシキハ無罪ノ所爲ニシテ訴テ却下スルノ原因タルヘシ故ニ婦ヲ有罪トセンニハ婦カ好意ニ因テ姦夫ノ從犯者タリシヲ要スルナリ

第六百九號 夫ノ告訴○不適法ノ姦通ハ夫又ハ婦ノ行フヲ得可キヲナリト雖モ法律ハ雙方ニ各異リタル規則ヲ定ム婦ノ姦通ニ關シテハ親族ノ利益一家中ニ亂雜ヲ生スルノ恐怖及ヒ證據ヲ得ルノ困難ニ

姦通ノ罪

基ツキ訴ヲ和柔センカ爲メニ左ノ三則ヲ置キタリ第一夫ヨリ告訴アルキニ非サレハ訴ヲ起サ、ルヲ第二夫訴權ヲ拋棄シ已ニ始メタル訴ヲ廢止スルヲ第三夫其婦ノ歸戻ヲ諾シテ宣告ノ効ヲ廢止スルヲ第三十六條及第七條是ナリ此格段ナル規則ハ訴ト刑ノ執行トニ適當スト雖モ夫ノ私益ノ爲メニ非スシテ即チ社會ノ名ニ於テ及ヒ公益ノ爲メニ始メタル訴ヨリ生シタル輕罪ノ性質ハ之ヲ變更セサルナリ法律ハ夫獨リ原告人トシテ姦通ヲ告發スルヲ得可シト記載セスシテ唯夫ニ限リ姦通ノ告訴ヲ許可セント欲セリ如此ク法律ハ其權ヲ告訴ニノミ限リシカ故ニ夫ハ原告人トシテ檢事ノ行フ所ノ刑事ノ訴ニ加ハルノ要ナシ而シテ姦通ノ場合ニ於テ告發及ヒ求刑ヲ爲スノ權ハ獨リ檢事ニノミ屬ス治罪法理論第七卷夫ハ不在ノ際ニ於テハ代理人ヲ立テ已ニ代理シムルヲ得ルナリ千八百八十六年八月二十二日千八百八十八年八月二十一日及同八月二十一日

日ノ二判十三

第六百十號 但シ夫ハ其婦ノ姦通ニ付理論上自ラ刑事ノ訴ヲ爲スノ權ナク即チ民事原告人ノ身分ニ非サレハ有セス千八百二十八年七月二十日ノ判決ト雖モ其權大ナリ何トナレハ刑事ノ訴ハ其告訴アルニ非サレハ初マラス且何時タリトモ一旦初メタル告訴ヲ廢止スルヲ得可ケレハナリ然レニ此二箇ノ特權ニ付判決例ニ因テ數多ノ効ヲ生ス第一一判決ニ於テハ法律ハ夫ニ其婦ヲ訴フルノ特權ヲ附シ以テ之ニ確定裁判ニ至ル迄婦ト共ニ訟廷ニ出ツルノ權ヲ與ヘシテ故ニ初審裁判所ニ訴ヘシト同一ノ方法及ヒ效果ヲ以テ控訴院ニ訴フルヲ得可キヲ及ヒ控訴院ニ於テハ姦通ノ刑ヲ宣告スルノ權ヲ有スルヲ決定シ千八百三十一年九月三日ノ判決第二一他ノ判決ハ治罪法第二百二條ノ第二項ノ規則ニ係ハラス輕罪裁判所ニ於テハ民事裁判所ニ於ケル如ク夫ノ控訴ノミニ因テ檢事ニ

姦通ノ罪

求刑ヲ爲サシメ控訴院ニ姦通ノ刑ヲ宣告セシムルノ規則ヲ履行ス可
 キ「」ヲ決定シ以テ民法第三百八條ノ場合ト同一ナラシメ千八百三十
 年八月五日ノ判決 第三夫ノ告訴ニ基キテ爲シタル裁判ヲ檢事ヨリ
 不當トスルキハ格段ニ夫及ヒ一家平和ノ爲メニ定ムル所ノ權利ヲ害
 スルヲ以テ檢事ハ之ヲ不當トスルヲ得サルコトヲ判決セリ千八百五十
 年八月五日
 判決ノ法ノ條令ヨリ離隔シタル全ク例外ノ規則タル此數多ノ決定ハ學
 問上ニ於テハ之ヲ非議ス治罪法理論第七百六十五號及ヒ
 第六百十一號 拋棄○夫ハ告訴ノ權ヲ拋棄シ以テ訴ノ手始メ又ハ其
 結局前ニ拘ラス之ヲ廢止スルヲ得ヘシ千八百二十三年八月七日ノ判決 拋棄ニ明棄默
 棄ノ二種アリ公然證書ヲ以テ拋棄シタルモノヲ明棄ト云ヒ告訴後ニ
 於ケル和解ノ所爲ヨリ生スルモノヲ默棄ト云フ蓋シ和解ハ拋棄ト同
 一ニシテ過失ノ許容ヲ包含シ訴ヲ消散ス民法第三百七十二條及拋棄

ハ既往ニ及フヲ得ヘキ乎即チ夫ハ一旦拋棄シタル告訴ヲ再起スルヲ
 得ヘキ乎然リ然レモ唯新所爲ヲ訴フルモニ限ルヘシ何トナレハ該所
 爲ニ限り一旦消滅シタル訴權ヲ再復スルヲ得可ケレハナリ罪ノ取調
 中即チ裁判前ニ爲シタル拋棄ハ從犯者姦ニ迄延及ス可キ乎未タ姦婦
 ニ對シテ確定ノ裁判アラサル前ハ然リ何トナレハ拋棄ハ姦通ノ所爲
 ナキノ證ト同一ナレハナリ千八百五十年三月三日然レモ婦ニ對シテ確定
 ノ裁判アリシ後ハ然ラス何トナレハ此場合ニ於テハ夫ヨリ出シタル
 赦宥ハ從犯者ニ延及セサレハナリ第三百三十八條 姦婦及ヒ其從犯者ニ對シ
 刑ノ宣告アリタル後ニ從犯者獨リ控訴ヲ爲シ其確定ノ判決後ニ夫ヨ
 リ其婦ニ赦宥ヲ與ヘシモハ從犯者ニ對シテ訴ヲ消滅ス可キ乎判決例
 ニ於テハ之ヲ否決セリ何トナレハ確定ノ裁判ニ依テ姦通ノ所爲アリ
 シコトヲ認メシ上ハ夫ハ從犯者ニ對シテ宣告ノ効ハ勿論訴ヲモ廢止ス

ル能ハカレハナリ千八百五十年六月二十七日ノ判決○

第六百十二號 夫ノ死去○訴中ニ於テ即チ確定ノ裁判前及ヒ終審ノ
場合ニ於テ夫ノ死去セシモ訴ノ繼續及ヒ刑ノ執行ニ障礙ヲ生スルナ
シ抑拋棄ヲ爲ス所以ノモノハ夫婦ヲ接近セシムルノ目的ナルカ故
ニ死去ハ之ヲ拋棄ト同視スルヲ得ス而シテ姦夫及ヒ姦婦ノ罪ハ既ニ夫
ニリ規則ヲ履踐シテ告訴セシテ以テ其訴ヲ廢止ス可カラサルナリ然
レモ婦ハ檢事ノ訴ニ對シテ法律上又ハ事實上ノ抵拒法ヲ行フノ權ヲ
保有スルナリ千八百四十八年八月二十五日及ヒ
千八百六十三年六月六日ノ判決
第六百十三號 婦ノ死去○確定裁判ノ前ニ婦ノ死去セシキハ其從犯
者ニ對シテ訴ヲ消滅ス其理由ヲ探ヌルニ概シテ正犯者ノ死去ハ從犯
者ニ對スル訴ニ障礙ヲ生スルヲナシト雖モ此規則ハ姦通ノ場合ニ適
當スルヲ得サルナリ何トナレハ婦ニ對シテノミ訴ヲ消滅ニ因テ無罪

ノ推測ヲ立テ獨リ從犯者ニ對シテ其推測ヲ許サ、ルノ理ナケレハナ
リ千八百七十五年三月八日及ヒ千八百七十二年六月八日ノ判決又茲ニ附記ス可キ一言アリ姦通ノ場
合ニ於テハ其實正犯者從犯者ナク同一ノ訴中ニ包括シタル二人ノ共
犯者アルノミ而シテ此二箇ノ訴ヲ連接シテ施セシキハ分離ス可カラサ
ルモノニシテ又同一ノ運ヲ生ス可キモノナリ此規則ハ別々ニ二箇ノ
訴ヲ爲セシ場合ニ非サレハ適施セサルヲナシ例ヘハ婦ノ別居ノ訴中
ニ姦通ノ罪ノ宣告ヲ受ケシニ因リ其後夫ヨリ其從犯者ニ對シテ告訴
ヲ爲セシキノ如キ是ナリ千八百六十八年十月十二日ノ判決
第六百十四號 夫ノ姦通○夫ノ姦通ハ夫婦ノ住居ニ他ノ婦人ヲ畜フ
時ニ非サレハ輕罪ヲ構造スルヲナシ夫其姦通ニ付訴ヲ受ケ且百「ッラ
ン」乃至三百「フラン」ノ罰金ニ處セラル、ハ唯此場合ニノミ限ルナリ第
三百三十九條而シテ其訴ハ婦ヨリ告訴セシキニ非サレハ始マルヲナシ婦ハ一

姦通ノ罪

且訴ヲ始メタル後之ヲ抛棄シ以テ其効ヲ廢止スルヲ得ヘキ乎其抛棄ニ因テ刑事ノ訴ハ廢止セズ何トナレハ第三百三十七條ハ夫ニ非サレハ宣告及ヒ訴ノ効ヲ廢止スルノ權ヲ附與セサレハナリ

第六百十五號 受理ス可カラサルヲ○姦通ノ訴ヲ受ケタル婦ハ其夫ノ告訴ニ對シテ諸種ノ抵拒法ヲ行フヲ得即チ第一暴行又ハ錯誤ヨリ出タルニ因リ其所爲ノ無罪タルヲ第二期滿免除婚姻ノ無効及ヒ夫ノ所爲是ナリ夫ノ所爲トハ第三百三十九條ニ記載スル所ノ夫ト他人トノ姦通及ヒ其婦トノ和解ヲ云フナリ夫其住居即チ夫婦ノ住居ニ他ノ婦人ヲ畜ヒ置キ之ト姦通セシキハ其婦ノ姦通ノ訴ハ裁判所ニ於テ受理ス可カラサルモノトナルナリ 千八百六十五年三月二十三日及ヒ千八百六十八年二月二十八日ノ判決故ニ婦ノ現今其共同ノ住居ニ住セサルモト雖モ其共同物タルノ性質別居ノ確定ノ裁判アリシキニテ失ハサル間ハ裁判所ニ於テハ婦ノ告

訴ヲ受理セサルヲ得サルナリ 千八百五十七年四月二十七日及ヒ千八百五十八年七月二十三日ノ判決シ法律ハ婦ノ住スル家ヲ保護センコトヲ欲シ又婦ハ之ニ住スルノ權アリ 千八百六十年六月七日ノ判決

第六百十六號 夫婦ノ住居ニ他ノ婦人ヲ畜フトハ如何シ一家屋内ノ人ト不適法ノ交合ヲ爲スコト云フナリ第三百三十九條ノ包含セサル意味ヲ該條ニ附ス可カラス何トナレハ該條ニ於テ禁スル所ノモノハ夫婦ノ住居内ニ他ノ婦人ヲ誘導スル尋常ノ事柄ナレハナリ然レモ其實法律ノ罰セント欲スル所ノモノハ唯其誘導ニ非スシテ夫婦ノ住居内ニ於テ夫ト其婦ニ非サル他ノ婦人トノ交合ナリ是レ夫ノ婦ニ對スル無禮婦ノ被リタル不敬ナリ如此ク夫ノ姦通ヲ行ヒシ際ニ於テハ姦通ノ訴ヲ受ケタル婦ハ抵拒法ヲ行フヲ得可シト雖モ其之ヲ行ハンニハ夫ノ姦通ヲ證舉セサルヲ得ス何トナレハ第三百三十九條ハ婦ノ告

姦通ノ罪

訴ニ因テ夫ノ失敗セシヲ希望スレハナリ而シテ夫ノ失敗ハ之ヲ有罪トスル裁判宣告ニ因テ確定スヘシト雖モ又婦ノ姦通ノ吟味ヨリ生スルヲ得可シ何トナレハ婦ハ其夫ヲ訴フルコト已レニ益ナシトシテ之ヲ訴ヘサルコトアレハナリ千八百五十二年三月三十日及千八百五十八年十一月十一日ノ判決婦ハ其夫ニ對スル告訴ノ却下ヲ受ケタル後再訴スルヲ得ヘキ乎更ニ新所爲ヲ訴フルノ場合ニ於テハ然リ然レハ此新事件ヲ判定スルノ權ハ前ニ訴ヲ受理シタル裁判所ニノミ屬スルナリ千八百五十六年三月二十二日ノ判決

第六百十七號 夫婦間ノ和解ハ其告訴ノ前又ハ後ニ生セシヲ論セス姦通ノ訴ヲ消散ス民法第二百七十二條此和解ハ之ヲ不適法ノ姦通ナキノ證ト看做ス千八百二十三年八月七日ノ判決何トナレハ和解ハ其時ニ於テ既ニ明瞭シタル所爲ニ非サレハ適當セサレハナリ和解ニ明黙ノ二種アリ明黙ノ和解トハ婦ノ不行跡ヲ知りタル後夫ノ記シタル証書又ハ未送書翰ヲ以テ

證スルヲ得可キモノヲ云ヒ暗黙ノ和解トハ例ヘハ夫其婦ノ過失ヲ發覺シタル後夫之ト同居スルカ又ハ情愛ノ證アルキノ如ク事實上ヨリ生スルモノヲ云フ然レハ一家屋内ニ引續キテ住居スルノ一事ヲ以テ同居アリトスルヲ得ス何トナレハ民法第二百四十條ハ夫ニ負ハシムルニ其婦ノ他人ト通スルニ拘ハラス之ヲ家屋内ニ受過スルノ義務ヲ以テスレハナリ千八百六十八年四月四日ノ判決

第六百十八號 夫ノ過慾苛虐殘暴、夫ノ沈黙暫時及ヒ夫其婦ノ淫行不品行ヲ共謀セシコト所爲アリシモ婦ノ姦通ノ訴ヲ受理セサルコトナシ蓋シ夫ノ婦ニ對スル殘酷ナル接遇ハ夫婦別居ノ原因タルヲ得可シト雖モ姦通ノ原因タルヲ得サル可シ何トナレハ第三百三十九條ハ夫其婦ノ住居ニ他ノ婦人ヲ畜フキニ非サレハ夫ノ告訴ニ抵拒ヲ爲スノ權ヲ婦ニ附與セサレハナリ又夫ノ沈黙ハ輕罪ノ期滿免除ヲ

姦通ノ罪

生ス可キ三年ノ時間ヲ經過セシキニ非サレハ其失權アリトシテ訴ヲ却下スルコトナシ又ハ婦ハ夫ノ共謀アリシ旨ヲ固執シテ抵拒法ヲ行フヲ得ス何トナレハ婦ノ不品行ハ夫ノ許容ノ故ニ因テ赦宥ス可キモノニ非ス而シテ夫ノ不品位ハ賠償ノ要求ヲ避ケシムルヲ得可シト雖モ夫ノ爲メニ非スシテ社會ノ爲メニ宣告ス可キ刑ノ適施ヲ障礙セサレハナリ婦ノ告訴ニ基ク所ノ裁判ノ不受理ハ期滿免除婚姻ノ無効又ハ和解ノ場合アルキニ非サレハ生じサルナリ故ニ此數場合アルキハ夫ハ其婦ノ姦通、其淫行又ハ夫婦ノ住居ノ拋棄ニ抵拒ヲ爲スヲ得サルナリ千八百六十五年五月又姦夫ハ其從犯者タル有夫ノ婦ノ其夫ノ告訴ナクシテ訴ヲ受ク可カラサルコト述ヘ抵拒ヲ爲スヲ得ス法律ハ第三百三十九條ニ因テ被害者ニ許與シタル告訴ノ權ニハ如何ナル制限ヲモ置カサリシカ故ニ此從犯者タル婦ハ該條ノ適施ヲ受ク可シ千八百六十二年二月二十

第十八日ノ判決○刑法理論
第六百五十二號參觀

第六百十九號 姦通ノ證據○婦又ハ夫ノ姦通ハ總テノ輕罪ノ場合ニ於ル如ク諸般ノ證據法殊更證人ヲ以テ證スルヲ得可シ千八百十三年五月十三日ノ判決然レモ從犯者ニ付テハ第三百三十八條ハ從犯者ノ記シタル書翰又ハ其他ノ書類及ヒ現行犯ノ二證ノ外他ノ證據ヲ許サ、リシナリ陪審會ノ判定ニ屬ス可キ書類ヲ以テノ證據ハ左ノ數多ノ場合及ヒ書類ヨリ生スルヲ得可シ、第一從犯者其自ラ記シ且糾問判事ノ手ニ過キタル證書ニ基キ其從犯ヲ自認セシキ千八百五十一年十月十日ノ判決第二民生官吏ノ記シ從犯者ノ手署シタル出產證書中ニ從犯者姦通ノ宣告ヲ受ケタル婦ヨリ生シタル子ノ父タルコトノ陳述アルキ、第三姦通ノ宣告ヲ受ケタル婦ヨリ生シタル子ヲ認知セシノ證書是ナリ然レモ從犯者タル婦ノ書翰外人ノ書翰及ヒ書上ニ記載セサル自認ハ證據タルヲ得サルナリ

姦通ノ罪

第六百二十號 上ノ證據トナル可キ書類ナキハ現行犯ノ外從犯者ニ對シテ證トナルモノナシ然レモ治罪法第三十二條第四十一條及ヒ第四十九條ニ記載スル所ノ尋常ノ現行犯ノ規則ハ此場合ニ適當セス故ニ姦通ヲ行フ時ニ於テ其現行犯ヲ官吏ノ確認セシヲ要用トセス夫又ハ婦カ姦通ノ所爲ヲ發見襲撃セシトノ訴訟取調ニ因テ生セシヲ以テ足レリトス現行犯ノ證據ニ付テハ絶テ格段ナル條件法式アルナシ故ニ裁判官ノ推察モ常法ニ從テ犯人ノ發見セラレシトテ記載スル所ノ諸種ノ證據、通法、顛末書等ニ基クテ得可シ千八百三十七年九月二十二月十七日及ヒ千八百六十三年五月八日千八百六十四年四月十七日ノ判決現行犯ノ所爲アリシ旨ヲ申述スルノ權ハ格段ニ輕罪裁判所ニ屬ス從犯者ハ假令現行犯トシテ襲撃ヲ受ケシト雖モ姦婦ノ有夫タルヲ知ラサリシカ又ハ淫行ヲ爲ス可キ場所ニ於テ出會セシト及ヒ娼妓ノ許可ヲ得シモノト信

セシトテ述ヘ抵拒ヲ爲スヲ得ヘシ而シテ充分ニ此二所爲ヲ證スルヲ得シキハ宥恕減輕ヲ得ルカ又ハ全ク無罪タルヲ得可シ刑法理論第六百五十八號參觀

第六百二十一號 刑罰○姦通罪ノ刑ハ第三百三十七條及ヒ第三百三十八條ニ之ヲ記載ス此罪ハ格段ナル性質ヲ有スト雖モ然レモ第四百六十三條ノ一般ノ規則ニ從テ酌量減輕ヲ施スヲ得可キハ疑ヲ容レサルナリ又夫ハ第三百三十七條ノ第二項ニ從テ婦ノ歸戻ヲ諾シ以テ其宣告ノ効ヲ廢止スト雖モ此處置ハ婦ノ從犯者ニ益セサルヤ疑ヲ容レサルナリ千八百二十九年一月一從犯者ハ第三百三十八條ニ記載スル所ノ禁獄及ヒ罰金ノ刑ノ外尙ホ夫ニ對シテ賠償ノ宣告ヲ受ク可シ千八百零一年六月十五日ノ判決其實共犯者タル此從犯者ノ外姦通ヲ行フノ方畧ヲ授ケテ其成就ヲ容易ナラシメシ眞ノ從犯者アルコトアリ此者ハ均シク姦通ノ訴中ニ加ヘ而シテ第六十條ヲ以テ論ス可ク且同條ノ格段ナル

姦通ノ罪

條件ヲ具備スルニ於テハ之ニ從犯ノ刑ヲ適施ス刑法理論第六百六十五號參照

第三百四十條

○第六項 重婚ノ罪

第六百二十二號 重婚ノ罪ハ未タ前婚ヲ解カサル前更ニ再婚ヲ爲シタルニ由テ生スルナリ第三百四十條此罪ノ構造ニ付必要ナル條件三アリ初婚ノ連結、初婚ノ解縁前ニ再婚ヲ爲スノ所爲及ヒ詭計、惡意是ナリ

第六百二十三號 第一ノ條件ハ初婚ノ連結アルコナリ故ニ再婚ノ執行前ニ死去ニ因テ婚姻ヲ解キシカ又ハ其全ク無効ニ屬セシトハ再婚ノ執行ノ時ニ於テ犯人ノ之ヲ知リシト否トニ關セス重罪ヲ構造セサルナリ共和第十三年五月十二日ノ判決無効タル初婚ノ未タ其告示ナキト雖モ亦上ト同一ナリ何トナレハ此婚姻ハ法律上ノ成立ナケレハナリ法律ノ前婚ノ連結ヲシテ重婚ノ罪ノ一條件ヲラシムルハ其有効ノ婚姻ニ限ルナリ故ニ重罪ノ原因ハ犯人ノ抵拒ヲ檢査シタル後ニ非サレハ確定セサルナリ

第六百二十四號 第二ノ條件ハ初婚ノ解縁前ニ再婚ヲ行フコナリ此再婚ハ素ヨリ無効タルヲ以テ其有効タルコトハ重罪ノ一條件ヲ爲サ、ルナリ然レモ重婚ノ罪ヲ生ジシニハ再婚ノ有規ヲ要スルナリ但シ事情ニ因リテ其未遂犯ノ性質ノ具備スルキハ其執行前ニ訴ヲ始ムルヲ得可シ千八百二十六年七月二十八日ノ判決此種ノ未遂犯ヲ構造スル所ノ事情ハ婚姻ヲ豫備スル所爲中ヨリ探求スルヲ得ス婚姻執行ノ所爲中ヨリ探求ス可シ婚姻ノ財産契約書ニ手署セシコト婚姻ヲ行フ可キノ公告及ヒ其執行前ノ諸所爲ハ皆豫備ノ所爲ニ過キヌシテ其執行ハ婚姻ヲ始メタルニ初メテ始マルモノナリ而シテ其執行ヲ成就セシキハ罪ノ執行アリト雖モ犯人ノ意外ノ事情ニ因テ其執行ヲ中止セシキハ重罪ノ法律上ノ未遂犯ヲ構造スルニ過キササルナリ

重婚ノ罪

六百五十一

何トナレハ善意ヲ以テ再婚ヲ行ヒシキハ罪ヲ構造セサレハナリ善意
ハ何ニ因テ生ス可キ乎再婚ノ時ニ於テ其自ラ自由タルヲ信スルニ
由テ生スルナリ初婚ノ解縁ニ付充分ナル推測アリシキハ犯人ハ其自
信ノ一事ヲ以テ無罪タルヲ得ヘシ共和第十二年三月
二十四日ノ判決

第六百二十六號 上ノ諸條件ノ具備セシキハ初婚ノ有効ト再婚ノ有
規トニ因テ重婚ノ罪ヲ生ス依テ犯人ヨリ抗拒ヲ行ヒシキハ初婚又ハ
再婚ヲ判定スルノ權ハ如何ナル裁判所ノ管轄ニ屬スルヤヲ知ラサル
可カラズ此問題ハ再婚ニ關シテハ之ヲ解シニ於テ容易ナリ即チ犯罪
ヲ判定スルノ權アル裁判官ハ其罪ノ條件タル所爲ヲ調査シ及ヒ之ニ
附屬スル事件ニ付可否ヲ宣述スルノ權アリ是レ其要領ナリ而シテ此規
則ハ再婚ノ有規タルヤ否ヤヲ調査スルノ件ニ適當ス可シ何トナレハ
犯人ノ罪ハ再婚ノ無効ノニニ因テ全ク消散セス而シテ若シ其有効ノ婚

姻ヲ行ハント欲シキハ未遂犯ヲ構造ス可ケレハナリ再婚ノ有規ノ
下問ハ罪科ノ下問ト之ヲ分離スルヲ得ス故ニ裁判官ハ犯人カ初婚ノ
解縁前ニ再婚ヲ行ヒシニ因テ有罪ナルヤヲ陪審會ニ下問スルニ當リ
尙ホ之ニ再婚ノ有規タルヤヲ下問セサルヲ得サルナリ千八百七十年十
月十八日及ヒ千八百四十六年五月二十九日ノ判決

第六百二十七號 然レモ被告人ヨリ申立テタル初婚ノ無効ニ關シテ
同一ノ決定ヲ爲スヲ要セサル可シ何トナレハ此被告人ノ抗拒ハ主タ
ル事件ナレハ附屬物トシテ決定スル能ハス加之其判定ノ權ハ民事裁
判所ノニニ屬スレハナリ即チ民法第百八十七條第百八十八條及ヒ第
百八十九條ニ從ヘハ婚姻無効ノ件ハ民事裁判所ニ出ス可ク而シテ刑
判所ニ非サレハ之ヲ宣告スルヲ得サルナリ千八百二十六年一
月十六日ノ判決但シ刑
事ノ裁判官ハ初婚ニ關スル被告人ノ申立ノ其重罪ノ調査ヲ中止ス可

キモノタルヤ否ヤヲ判定スルノ權ヲ有ス可シ千八百一十七年四月二日及
千八百一十二年十月
二月十七日ノ判決然レモ無効ノ申立ノ法律ヲ以テ論ス可キキ及ヒ其
申立ノ受理ス可キキニ於テハ刑事ノ裁判官ハ被告人ノ申立テタル無
効ノ性質ヲ検査スルヲ得サルハ勿論此無効ノ不充分ナルコト其申立
ノ成就シタル所爲ニ遡ル可カラサルコトノ名義ヲ以テ刑事裁判ノ中
止ヲ拒絕スルヲ得ス此規則ヲ犯スルハ威權妄用ノ罪アリトス

第五款

擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第六百二十八號 重罪ノ條件○刑法ハ官吏ノ犯シタル人ノ自由ヲ害
スル罪ト常人ノ犯シタル同罪トヲ區別セリ官吏ノ犯シタル人ノ自由
ヲ害スル罪ハ憲法ニ背キタル重罪ト看做シ第百十四條ニ之ヲ記載ス

刑第九十號參照論第百常人ノ犯シタル同罪ハ人ノ身體ニ對スル重罪トシ第三
百四十一條及ヒ其以下ニ之ヲ列記ス第三百四十一條ハ擅ニ人ヲ逮捕
スル罪ノ義解ヲ掲ケテ曰ク「相當ナル官ノ命ナリ且ツ法律ニ循ヒ犯人
ヲ捕縛スヘキ場合ニ非スシテ人ヲ逮捕シ又ハ拘留シ又ハ監禁シタル
者ハ之ヲ有期徒刑ニ處ス」ト該條ニ記載スル所ノ外面上ノ所爲ハ三種
ノ方法ヲ以テ之ヲ施スヲ得逮捕、拘留、監禁是ナリ此類似シタル
三重罪ハ或ハ合シテ一罪ヲ爲シ或ハ一箇ヲ以テ一罪ヲ構造ス而シテ此
二箇ノ場合ハ均シ千八百
三十八年九月二十日
八月ノ判決擅ニ施ス逮捕即チ不適法ノ逮捕人ヲ其家内ニ拘留スルコ
ト寂室ノ場所ニ監禁スルコトハ三箇ノ別々ノ重罪ヲ構造スト雖モ又或ハ
一重罪ノ三條件タルニ過キサルコトアリ千八百二十八年六月十日及ヒ
千八百三十二年四月十七日ノ
判決然レモ此雙方ノ場合ニ於テ重罪ヲ構造センニハ此外面上ノ所爲ノミ
ヲ以テ足レリトモス犯罪ノ意思ヲ以テ之ヲ施セシテ要スルナリ故ニ人ヲ
拘留スルモ其瘋癲ノ故ヲ以テ此所爲ヲ施セシキハ其擅ノ所爲タルコ

擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

ハ素ヨリ論テ俟スト雖モ重罪ヲ構造セサルナリ千八百四十二年二月十八日ノ判決

第六百二十九號 法律ノ允許セサル場合ニ於テ爲シタル逮捕ハ不適

法ナリ常人ハ小許ノ場合ニ非レハ逮捕ヲ施スヲ得ス治罪法第六條

ハ諸人ニ許スニ重罪又ハ禁錮ノ刑ヲ適施スヘキ輕罪ヲ犯セシ現行犯

人及ヒ諸人ノ高聲ニ罪人ナリト追呼スル者ヲ逮捕シ且ツ之ヲ檢事ノ

前ニ誘引スルノ權ヲ以テセリ千八百六十三年一月二十日ノ判決人民ハ或ハ兵力ヲ預

カル官吏ノ依頼ニ依テ兵器ヲ以テ逮捕ヲ助ケ千八百四十二年十月九日ノ判決或ハ

瘋癲者及ヒ狂疾者ノ逮捕ニ助力ス千七百九十一年七月二十二日ノ法

律第四百七十五條千八百三十八年六月ヲ得○相當ナル官ノ命ナク且ツ法律ニ循ヒ犯人ヲ捕

縛ス可キ場合ニ非スシテ施シタル拘留ハ不適法ナリ此義解ハ陪審會

チシテ法律ニ包含セサル所爲ヲ有罪タラシメンカ爲メ之ニ下ス問題

中ニ之ヲ掲クルハ至當ノコトナリ故ニ例ヘハ何人モ父母後見人及ヒ

授業師ニ懲治ノ爲メ其子又ハ學生ヲ拘留スルヲ拒ムヲ得サルナリ○

監禁ハ寂寥ノ場所ニ之ヲ施セシキノミナラス外部ノ交通ヲ絶チタル

キモ亦決シテ適法ニ非サルナリ故ニ逮捕シタル犯人ニ關スル公ケノ

官吏及ヒ婦ヲ監禁セシ夫ニ至ル迄何人モ第三百四十一條ノ適施ヲ免

カル、能ハサルナリ千八百四十二年五月二十五日及ヒ千八百三十二年五月二十五日ノ判決

第六百三十號 從犯○從犯ノ規則ハ總テノ他ノ重罪ニ於ケル如ク擅

ニ施セシ逮捕拘留又ハ監禁ノ重罪ニ適當ス此從犯ハ第六十條ニ指示

シタル方法ニ從フ然レモ第三百四十一條ノ第二項ハ此方法ニ附スル

ニ一新所爲ヲ以テセリ拘留又ハ監禁ヲ施ス可キ場所ヲ貸附スルコト是

ナリ但シ該條ノ罪ヲ生センニハ此從犯者カ第六十條ノ規則ニ從テ貸

附シタル場所ノ用方ヲ知リシコトヲ要スルナリ刑ノ加重ニ付テハ場所

ヲ貸附セシ者ハ拘留ノ時間ノ長短ニ從テ其責ニ任ス可シト雖モ第六

擅二人ヲ逮捕監禁スル罪

十條ニ指示シタル方法中ノ一ニ從テ自カラ犯罪ノ所爲ニ加ハラサリシキハ貸附ノ所爲ノ外責ニ任スルコトナシ

第六百三十一號 宥恕減輕○第三百四十一條ニ記載シタル重罪ハ事情ニ因テ之ヲ輕重シ或ハ宥恕減輕ヲ施シ或ハ加重ヲ施ス而シテ宥恕減輕ハ第三百四十三條ニ之ヲ記載ス即チ第三百四十一條ニ記シタル犯人未タ其罪ノ訴ヲ受ケサル前其逮捕拘留又ハ監禁ヲ爲シタル日ヨリ十日ニ至ラサル前ニ之ヲ受ケタル者ヲ赦宥セシキハ有期徒刑ヲ轉シテ二年乃至五年ノ禁錮トス是レ第六十五條ニ於テ許與スル所ノ宥恕ナリ千八百四十四年四月此宥恕ニ付テハ二條件ヲ要ス拘留ノ十日ニ至ラサルコト犯人中ノ一人又ハ全員ノ訴ヲ受ケサル前ニ赦宥ヲ爲セシコト是ナリ但シ第三百四十一條ニ記載シタル重罪ノミニシテ他ニ事情ナキキハ宥恕ヲ適スルヲ得ス又第三百四十四條ニ記載シタル事情ノ一

アルキハ宥恕ノ申立ハ受理ス可カラサルナリ千八百九十二年六月

第六百三十二號 刑ヲ加重スヘキ事情○此重罪ハ拘留ノ時間、拘留ヲ

執行センカ爲メニ用キタル方法又ハ被害者ニ對シテ施シタル拷責ニ

因テ至重ノモノトナルナリ、第一拘留又ハ監禁ノ一月以上ニ至リシキ

ハ無期徒刑ヲ適施ス第三百四十二條故ニ十日迄ノ拘留又ハ監禁ニハ輕罪ノ

刑ヲ適施シ十日以上三十日以下ノ拘留又ハ監禁ニハ有期徒刑ヲ適施

シ一月以上ノ拘留又ハ監禁ニハ無期徒刑ヲ適施ス加重ノ第二ノ原因

ハ官吏ノ僞服、僞ノ名義又ハ僞ノ令狀ヲ以テ逮捕ヲ施セシコトナリ第三百四十四條

第十四條 此場合ニ於テハ無期徒刑ヲ適施ス其法律ノ目的トスル所ハ官

吏タル被服、名義ノ借用ナリ故ニ第三百四十四條ハ唯僞服、僞名トノミ

述ヘスシテ官吏ノ僞ノ被服及ヒ其僞ノ名義ト記載セリ加重ノ第三ノ

原因ハ逮捕ノ時又ハ拘留中ニ於テ拘留セラレタル者ヲ殺サント脅迫

拉二人ヲ逮捕監禁スル罪

セシコナリ、此場合ニ於テ暴行ノ性質ヲ有スル此脅迫ハ約束ヲ以テ之ヲ爲セシコトヲ要セサルナリ、加重ノ第四ノ原因ハ拘留セラレタル者ノ身體ヲ拷責スルコトナリ、此苛酷ノ所爲ハ第三百四十四條ニ於テハ第三百三條ニ於ケル如ク之ヲ謀殺ト同視シ極刑ニ處ス法律ハ此所爲ノ義解ヲ掲ケサリシカ該條ハ人ノ身體ニ施シタル拷責即テ謀殺ト同等ニ置ク可キノ殘酷ヲ加ヘ以テ人ノ身體ニ痕跡ヲ殘セシ外面上ノ所爲ニ適當ス可キコトヲ指示セリ

○第六款

小兒ノ身分ノ證ヲ妨ケ或ハ之ヲ亡ハントシ又ハ其性命ヲ危フスル輕重罪、幼者ヲ誘拐スル罪埋葬ノ規則ニ背ク罪

○第一節

小兒ニ對シ犯シタル輕重罪

第六百三十三號

小兒ノ除却シヨクシヨク○第三百四十五條第一項ノ小兒ノ除却

從第三百四十五條至第三百四十八條

ニ對シテ懲役ノ刑ヲ適施スルハ其身分ヲ保持センカ爲メナリ故ニ除却シタル小兒ノ生産セシコトハ重罪ノ構造ニ關スル一條件ナリ(死産ノ子ハ初メヨリ身分ナシ)千八百三十六年八月一日千八百三十九年十一月九日七月二十重罪ノ條件ハ第一小兒ノ藏匿、誘拐、除却、第二小兒ノ生産セシコト胎外ニ生存セシコト身分ヲ有スルヲ得シコト、第三其身分ヲ除却又ハ變更スルノ意思ヲ以テ其成存ノ痕跡ヲ消滅セシコト是ナリ、略言スレハ重罪ハ藏匿ノ所爲ト此所爲ノ生産ノ子ニ適當スルコト其身分ヲ變更スルノ目的トニ因テ生スルナリ故ニ身分ノ除却ハ子ヲ殺スコト同一ニ非ス蓋シ同一ノ目的同一ノ條件ヲ有セサレハナリ又子ヲ殺ス所爲ノ變化ト看做ス可キモノニモ罪ス故ニ子ヲ殺ス罪ノ訴ノ吟味ヨリ子ノ除却ノ疑ヲ生スルモ之ヲ陪審會ニ下問スルヲ得サルナリ千八百五十九年八月二十日及千八百五十九年四月十九日ノ判決

小兒ニ對シ犯シタル輕重罪

第六百三十四號 第三百四十五條ノ第一項ハ生産シタル小兒ノ除却ニ非サレハ適當セサルカ故ニ訴ニ所缺チ生セシテ以テ千八百六十二年五月十三日ノ法ニ因テ之ヲ補充セリ此法ハ第一項ノ後ニ二項ヲ附加シテ曰ク小兒ノ生存シタル證ノ分明ナラサルキハ其犯人チ一月乃至五年ノ禁錮ニ處シ小兒ノ生存セザルノ證アルキハ其犯人チ六日乃至二月ノ禁錮ニ處ス^レ此規則ノ目的トスル所ハ小兒除却罪ノ制止ヲ薄フスルニ非スシテ小兒ノ生存ノ疑ハシキ場合及ヒ其生存ナキヲ明瞭ナル場合ニ於テ除却ノ所爲ヲ輕罪ニ處シ以テ更ニ小兒ニ保護ヲ加フルニ在リ法律ノ生産又ハ死産ノ小兒ノ除却ヲ罰セント欲スルノ所爲ハ除却ハ諸人ニ對シテ小兒ノ出生ヲ知ラシメサルノ効チ生シ且小兒ノ社會親族内ニ出テタルノ徵候及ヒ之ニ法律及ヒ自然ノ附與シタル地位ヲ領スルヲ妨クルヲ以テナリ千八百六十五年十一月十一日ノ判決ニ依リ故ニ小兒

ノ出生後直チニ其生産セシカ死産セシカヲ證セシカ爲メニ其屍ヲ官更ニ顯示スルヲ要ス而シテ此顯示ノ欠缺ハ輕罪ノ一徵候ニシテ又其證據タルヲ得可キモノナリ

第六百三十五號 小兒ノ想像シユサボシシヨ○第三百四十五條ハ小兒ノ除却ニ續

キ此子ヲ以テ彼子ト交換シ又ハ子ヲ生マサル婦ノ子ヲ想像スル罪ヲ記載ス此場合ニ於テ重罪ノ性質ハ小兒ノ除却ノ場合ト同一ニシテ其目的モ亦子ノ身分ヲ變スルヲ制止スルニ在リ此場合ハ分娩後ニ己レノ生ミタル子ト他人ノ子ト交換シタル婦子ナキヲ以テ他人ヲ我等ノ婚姻ヨリ出テタル子ナリト僞ル夫婦他ノ子ヲ以テ己レノ委託セラレタル子ニ代ヘシ乳母ニ適當シ又民生官吏ノ前ニ出テ絶テ生存セザリシ子ノ出産及ヒ死去ヲ陳述セシノ所爲ニ適當ス千八百三十一年四月七日ノ判決

第六百三十六號 主件ノ裁斷前ニ判決ス可キ事件○刑事ノ訴ニ因テ

小兒ニ對シタル輕重罪

子タル分限ヲ有スルヤ否ヤノ問題ヲ生セシキハ先ツ之ヲ判決ス民法
 第三百二十六條及ヒ第三百二十七條ハ民事裁判所ニ於テ身分ニ關ス
 ル事件ヲ確定セサル前ニ告訴又ハ刑事ノ訴ヲ爲スチ禁スト雖モ暫時
 刑事ノ訴ヲ中止スルニ止マラス全ク之ヲ受理セサルコトアリ此場合ニ
 於テハ犯人ヲ逮捕スルヲ得サルナリ千八百三十二年三月十七日及ヒ千八百
 十三年三月三十日ノ判決但
 シ此不受理ハ小兒ノ身分ノ全ク刑事ノ訴ニ附屬スルキニ非サレハ行
 フ能ハス故ニ小兒ノ遺棄人ノ除却身分ノ除却ニ非又ハ小兒ノ想像ニ
 付如何ナル小兒ヲモ想出セサル場合ニ於テハ身分ニ關スル訴ヲ生セ
 サルヲ以テ刑事ノ訴ヲ受理セサルコトナシ千八百三十三年九月二十六日
 同年十二月十二日千八百二
 十六年四月八日及ヒ千八百三十一年四月七日千八百四十
 二年八月四日及ヒ千八百五十七年一月三日ノ判決
 第六百三十七號 子ヲ顯示セサルコト○第三百四十五條ノ第四項ハ「子
 ヲ預リ其子ノ交附ヲ求ムヘキ權アル者ヨリ求メテ受ケ猶之ヲ示サ、

ル者」ヲ懲役ノ刑ニ處ス父母ヨリ最初ノ求メテ受ケ其子ヲ示スチ拒ミ
 シノ一所爲ハ重罪ヲ構造セサル可シ蓋シ法律ノ罰スル所ノモノハ他
 人コ子ヲ託シタル父母ニ對シテ子ノ身上ニ施シタル背信ノ所爲ナリ
 故ニ茲ニ論スル所ノモノハ小兒ノ成行ヲ父母ニ知ラシムルヲ欲セス
 或ハ知ラシムルヲ得サリシ人ノ之ヲ預リタルノ場合ニ限ルナリ
 第六百三十八號 貧院ニ小兒ヲ寄託スルコト○第三百四十八條ハ小兒
 ニ關スル他ノ背信ヲ記載ス是レ滿七歳以下ノ幼者ヲ預リタル者ノ貧
 院ニ之ヲ寄託セシノ所爲ナリ此所爲ハ前件ノモノニ比スレハ其踪跡
 ヲ知り得ルヲ以テ輕易ナリトス此輕罪ノ成立ニ付必要ナル條件ハ小
 兒ノ滿七歳以下タルコト貧院ニ寄託シタル人ノ照管ヲ受ケンカ爲メ又
 ハ其他ノ理由ニ因リ之ニ預ケタルコト此人ノ此小兒ヲ預リ照管スルヲ
 結約セシコト是ナリ故ニ「預リ人自己ノ費用ヲ以テ其子ノ養育ヲ爲ス可

小兒ニ對シタル輕重罪

キ契約ヲ爲サス且ツ他ニ其養育ノ費用ヲ給スヘキ者ナキハ假令上ノ所爲アルモ之ニ宥恕減輕ヲ施シ第三百四十八條ノ第二項ノ刑ヲ適施セシテ尋常ノ場合ニ於テハ六月乃至六月ノ禁錮トニ處ス蓋シ如此ノ養育ノ契約ナキハ背信ノ所爲ナク從テ又輕罪ナケレハナリ但シ義務ノ血縁ノ故ニ因テ生スルハ例外ナリ刑法理論第七百十九號參照

第六百三十九號 民生官吏ニ陳述ヲ爲スヲ○第三百四十六條ハ民法第五十五條及ヒ第五十六條(分娩ニ立會セシ者ニ分娩ヨリ三日内ニ民生官吏ニ小兒ノ出產ヲ陳述スルノ義務ヲ附スルモノ)ニ威力ヲ附シ此陳述ノ遺忘ヲ六日乃至六月ノ禁錮ト十六「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金トニ處ス但シ第三百四十六條ハ民法第五十五條及ヒ第五十六條ニ記載シタル陳述者ノ知ラサルヲ得ヘキ事件ノ遺忘ニハ適當セサルナリ千八百四十四年六月一日千八百

四百四十五年九月十六日及ヒ千八百四十六年八月一日ノ判決 此陳述ハ小兒ノ生産セシト死産セシトニ拘ハラヌ爲ス可キモノナリ千八百四十四年九月二日ノ判決而シテ爲スノ任アルモノハ第五十六條ニ記載シタル人即チ父其不在ノハ内科醫師外科醫師産婆下等醫又ハ其他分娩ニ立會セシ者又母ノ其住所外ニ於テ分娩セシトハ其家ノ者ニ限ルナリ此終リノ場合ニ於テ此者一人其責任ス千八百二十五年九月七日ノ判決最初ノ場合ニ於テハ之ニ反シテ父ノ不在ノハ順序區別ナク總テ分娩ニ立會セシ人皆其責任ス千八百四十四年八月二日ノ判決余ヲ以テ之ヲ觀レハ此諸人ハ住所外ニ於テ分娩アリシト雖モ均シク其責任ス可キモノ、如シ千八百五十五年三月十日及ヒ千八百七十二年七月二十七日ノ判決然レモ其中ノ一人陳述ヲ爲スハ其他ノ者ハ皆其責任免カル可シ

第六百四十號 棄兒ノ發見○民法第五十八條ハ棄兒ヲ發見シタル者ニ附スルニ之ヲ民生官吏ニ交附ス可キノ義務ヲ以テセリ刑法第三百

小兒ニ對シタル輕重罪

四十七條ハ第三百四十六條ニ記載シタル刑ヲ此義務ノ遺忘ニ適用ス
該條ニ於テハ前條ニ於ケル如ク懈怠ノ外而上ノ犯罪ヲ罰シ詭計ノ内
心上ノ犯罪ヲ罰セサルナリ而シテ刑ハ棄兒ヲ發見シタル者ニノミ適當
シ其交附ヲ得タル他人ニ適當セス又棄兒ヲ引受ク可キヲ承諾セシ
者ニ適當セス何トナレハ此者ハ其發見シタル地ノ邑廳ニ其陳述ヲ爲
スヲ以テナリ

○第二節 小兒ノ遺棄

第六百四十一號 刑法ハ小兒ノ遺棄ニ關スル規則中ニ小兒ノ受ケタ
ル危害及ヒ之ヲ遺棄シタル者ノ意思ニ從テ制止方法ニ階級ヲ置キタ
リ寂寥ノ場所ニ小兒ヲ遺棄セシト寂寥ニ非サル場所ニ之ヲ遺棄セシ
トニ從テ危害及ヒ意思ニ輕重ノ別アリ故ニ此事情ハ刑罰ノ階級ノ基
礎トナルモノナリ刑法理論第七百二十七號參照

從第三百四十
九條至第三百
五十三條

第六百四十二號 寂寥ニ非サル場所ニ遺棄スルヲ○第三百五十二條
ハ尋常ノ遺棄即チ寂寥ニ非サル場所ニ於ケル遺棄ヲ記載ス茲ニ此規
則ノ如何ナル小兒ニ適ス可キヤ又寂寥ニ非サル場所及ヒ遺棄ノ所爲
ノ如何ニテ排說セン夫レ遺棄ハ遺棄セラレタル小兒ノ七歳以下タルキ
ニ非サレハ輕罪ヲ構造セス蓋シ七歳ヲ過キタル小兒ハ其人ノ失ハシメ
タル痕跡ヲ搜索センカ爲メニ必要ナル告知ヲ爲スヲ得可ケレハナリ此
規則ハ遺棄ノ重罪及ヒ輕罪トナル可キ總テノ場合ニ適當スルナリ
第六百四十三號 寂寥ニ非サル場所○場所ノ寂寥タルヤ否ヤハ場所
ニ因テ之ヲ定メス事情ニ因テ之ヲ定ム何トナレハ常ニ通行アル場所
ノ時ニ寄り寂寥タルヲ得又寂寥タル場所ノ劇シク通行アルヲアレハ
ナリ即チ場所ノ性質ハ小兒ノ受ケタル援助ノ遲速ト多少速カニ此援
助ヲ受ク可キノ推測トニ因テ之ヲ定ム場所ハ小兒ノ受ケタル危害ノ

小兒ノ遺棄

輕重ニ從テ或ハ寂寥ト看做シ或ハ寂寥ニ非スト看做ス可キナリ故ニ
夜間施シタル遺棄ハ其場所ノ如何ニ關セス寂寥ノ場所ニ之ヲ施セシ
ト看做ス可キハ論ヲ俟タサルナリ

第六百四十四號 遺棄○第三百五十二條ハ小兒ヲ拋棄セシ者ニ非サ
レハ之ヲ罰セス故ニ遺棄ノ外面上ノ所爲ハ二箇ノ事情ヲ包含セサル
ヲ得ス一判決ニ曰ク「該條ヲ適施セシハ小兒ノ遺棄ハ其拋棄ニ原因
スルヲ要ス」ト千八百三十四年四月三十日及千八百三十五年四月三十日ノ判決尋常ノ遺棄ハ公ケノ場
所ニ小兒ヲ遺失スルコトニシテ拋棄ハ援助人ナキ場所ニ小兒ヲ遺棄ス
ルコトナリ一判決ニ於テハ此拋棄ニ於ケル場合ノ義解ヲ掲ケテ曰ク「獨
リ小兒ヲ遺棄シ而シテ此遺棄ニ因テ假令一時タリトモ此小兒ノ身上ニ
施スヘキ照管及ヒ監察ヲ廢止シ或ハ中止セシキハ拋棄アリ」ト千八百
六月二十七日之ニ反シテ貧院ニ小兒ヲ寄託シ而シテ寄託人ノ其承諾ヲ聞
日ノ判決

キタル後ニ退キシキハ拋棄ナシトス千八百四十四年三月十日ノ判決然レモ寄託人
貧院ノ承諾ヲ聞カスシテ退キシキハ拋棄アリトス千八百四十二年十
月三十日ノ判決
第六百四十五號 遺棄ノ罪ハ下ニ掲グル所ノ三條件ノ具備スルキニ
非サレハ成立セサルナリ都テノ罪ニ必要ナル條件タル人ニ害ヲ加フ
ルノ意思ハ其事情ニ因テ生ス法律ハ遺棄人ハ小兒ノ出產ノ痕跡ヲ失
スルカ又ハ其身上ニ施スヘキ照管ヲ免カル、ノ外他ノ目的ヲ有セサ
リシト想像ス是レ輕罪ノ一條件タル格段ナル意思ナリ然レモ寂寥ノ
場所ニ小兒ヲ遺棄セシニ因リ遺棄人ニ殺害ノ意思アルコトノ發露セシ
キハ豫審ノ性質ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ寂寥ニ非サル場所ニ小兒ヲ
遺棄セシノ刑ヲ加重セサルハ其危害ナキニ因テナリ千八百六十年十
月二十日ノ判決遺棄人ニ小兒ヲ殺害スルノ意思アリシヤ否ヤハ遺棄ヲ施セシ場所
ニ因テ明瞭スルナリ

第六百四十六號 寂寥ニ非サル場所ニ小兒ヲ遺棄スル罪ハ遺棄人ノ身分ニ因テ至重ノモノトナルナリ故ニ遺棄シタル子ノ後見人又ハ授業師ニ對シテハ第三百五十二條ニ記載シタル三月乃至一年ノ禁錮ヲ六月乃至二年ニ加重シ十六「フラン」乃至百「フラン」ノ罰金ヲ二十五「フラン」乃至二百「フラン」ニ加重ス後見人及ヒ授業師ニ限リタル此加重ハ子ノ後見人ニ非サル父母千八百四十年五月四日及ヒ千及ヒ乳母ニ迄ハ延及セサルナリ

第六百四十七號 寂寥ナル場所ニ遺棄スルト○第三百五十二條ニ記載シタル輕罪ハ寂寥ノ場所ニ小兒ヲ遺棄シタルキニ於テ至重ノモノトナルナリ其條件ハ第三百五十二條ノ場合ト同一ナリト雖モ唯其異ナル所ハ遺棄ヲ施シタル場所(寂寥ノ場所)ノミ此場合ハ所爲ノ性質ヲシテ至重ナルモノトラシム何トナレハ之ニ因テ管ニ小兒ノ身分ヲ失

スルノ意思ノミナラス其性命ヲ失スルノ意思明瞭スレハナリ此場合ニ於テハ小兒ノ年齢ト場所ノ寂寥ナルトト授助アル可キトト判定スルヲ要ス而シテ第三百四十九條ニ記載シタル禁錮及ヒ罰金ノ刑ハ第三百五十條ニ於テハ第三百五十三條ニ於ケル如ク之ヲ二倍ス第六百四十八號 從犯○第三百四十九條ハ遺棄人ノミナラス遺棄ヲ命令セシ者ヲ罰ス但シ命ヲ受ケタル者ノ其命ヲ執行シタルキニ限リナリ該條ハ從犯ノ格段ナル場合ヲ記載ス何トナレハ第六十條ニ於テ從犯者ト看做スヘキ者ハ約束贈與又ハ擅權ヲ以テ犯罪ヲ挑唆セシ者ニ限ルト雖モ此場合ニ於テハ此尋常ノ所爲ノ外格段ナル所爲(即チ命令ヲ爲シシ者ヲモ從犯者ト看做セハナリ)第六十條ニ於テハ擅權ヲ以テ命令ヲ爲シタル者ニ非サレハ從犯者トセス但シ此命令ノ執行アリシキ及ヒ寂寥ノ場所ニ遺棄ヲ施セシキニ非サレハ從犯ヲ構造セサル

小兒ノ遺棄

ナリ寂寥ニ非サル場所ニ遺棄ヲ爲セシキハ其之ヲ命セシ者ハ尋常ノ
從犯ノ條件ヲ具備スルキニ非サレハ罰ス可キモノニ非サルナリ千八百六
十年十二月二日判決 第三百四十九條ニ於ケル命令ハ代理ノ性質ヲ帶フヲ以
テ上長ヨリ下等人ニ下シタルモノタルヲ要セス又其命令ヲ受ケタル
者ノ同等人又ハ下等人タルヤヲ區別スルヲ要セス唯其委託ヲ執行セ
シヲ以テ充分トスルナリ

第六百四十九號 寂寥ノ場所ニ遺棄ヲ施セシ者ハ其遺棄ノ効ニ付キ
責ニ任ス可シ即チ若シ小兒カ一肢ヲ失フカ又ハ其用方ヲ失ヒシキハ
故意ヲ以テノ創傷ノ罪ヲ構造シ其死去セシキハ故殺ノ罪ヲ構造ス第
百五十條 但シ此責任ハ寂寥ニ非サル場所ニ小兒ヲ遺棄セシ場合ニハ延
及セス故ニ小兒ノ一時ノ疾病及ヒ苦痛ハ第三百五十三條ヲ適施スル
ノ原因タルヲ得サルナリ法律ノ故意ヲ以テノ創傷及ヒ故殺ト同視セ

シ所ノ遺棄ハ遺棄人カ直接ニ小兒ニ創傷ヲ加ヘ又ハ之ヲ死ニ致サン
ト欲セシヲ要セスト雖モ其遺棄ノ此効ヲ生ス可キト其効ニ付テ
ハ多少其責ニ任ス可キトチ前知セシヲ要スルナリ刑法理論第七號
觀參而ノ場所ノ寂寥タルヲハ贈與等ヲ以テ遺棄ヲ挑唆シシキ及ヒ命令
アリシキニ於テハ加重ノ原因タルニ過キスト雖モ此二箇ノ場合創傷
及ヒ故殺ノ場合ニ於テハ罪ヲ構造スヘキ必要ナル條件トナリ而シテ其
主タル下問中ニ包含ス可キハ論ヲ俟サルナリ千八百六十年十二月二十八日ノ判決

從第三百五十
四條至第三百
五十七條

○第三節 幼者ヲ誘拐スル罪

第六百五十號 當今ノ刑法ハ舊法ノ如ク暴行ニ因テノ誘拐ト承諾ニ
因テノ誘拐トチ區別ス暴行又ハ詭計ニ因テノ誘拐ハ第三百五十四條
ニ之ヲ記載シ承諾ニ因テノ誘拐ハ第三百五十六條ニ之ヲ記載ス暴行
ニ因テノ誘拐ノ條件下ノ如シ第一幼者ノ身上ニ權ヲ有スル者ノ置キ

幼者ヲ誘拐スル罪

タル場所外ニ幼者ヲ誘拐シタル外面上ノ所爲第二誘拐ヲ生ス可キ詭計又ハ暴行第三父母又ハ後見人ノ權内ニアル幼者ノ誘拐ヲ施シテ、第四幼者ヲ其親族ノ權ヨリ掠取スルノ目的ヲ有セシテ是ナリ此四條件ハ尙下ニ之ヲ排説セン

第六百五十一號 誘拐○誘拐トハ幼者ノ身分ヲ變更センカ爲メニ其置キタル場所ヨリ他ノ場所ニ之ヲ移轉スルコトナリ第三百五十四條ハ幼者ノ身上ニ權ヲ有スル者ノ置キタル場所ヨリ幼者ヲ移轉スルコトヲ希望ス故ニ誘拐ハ格段ニ幼者ヲ寄託シタル場所ヨリ出タセシキニ非サレハ有罪ノ性質ヲ有セサルモノト思惟ス可カラズ總テ幼者ノ誘拐ハ其父ノ家ヨリ出タセシト偶然幼者ノアル場所ヨリ出タセシトテ論セス父母又ハ幼者ノ身上ニ權ヲ有スル者ノ監察ヲ受ク可キ幼者ヲ誘拐セシキハ重罪ヲ構造ス而シテ茲ニハ幼者ノ誘拐、奪取及ヒ移轉ヲ區別

スルノ要ナシ然レモ誘拐ヲ訴フル者ハ其幼者ヲ置キタル場所ヲ指示セサルヲ得ス是レ誘拐ノ此三方法ニ適當スル所ノ規則ナリ
千八百九十三年四月二十日ノ判決
千八百九十二年六月二十四日ノ判決
法律ハ幼者ノ奪取及ヒ移轉ヲ爲シタル者ヲ誘拐者ト同視シ此所爲ヲ誘拐中ニ包含セシメ以テ誘拐ノ諸方法ヲ禁止セント欲セリ故ニ第三百五十四條ニハ絶テ制限アル

ナシ刑法律論第七百四十三號參照

第六百五十二號 詭計又ハ暴行○第二ノ條件ハ詭計又ハ暴行ヲ用非シコトナリ此二箇ノ事情中ノ一アレハ誘拐ノ方法ノ如何ニ關セス重罪ヲ構造ス
千八百九十六年十月三日ノ判決
法律ハ此事情ノ義解ヲ掲ケサリシカ暴行トハ幼者ヲ置キタル場所外ニモセヨ其抗拒ニ拘ハラス之ヲ誘ヒ去ランカ爲メニ用非タル外面上ノ方法タルハ論テ俟タズ詭計トハ幼者ノ未熟ニ乘シ偽計、姦謀ヲ用フルカ又ハ狡猾ナル約束ヲナスヲ云フナリ如

幼者ヲ誘拐スル罪

此キ場合ニ於テハ親族ノ命令及ヒ父母又ハ幼者ノ身上ニ權ヲ有スル者ヲ害スルノ所爲アルモノトス千八百三十九年四月二十五日ノ判決但シ此詭計ト第五百五十六條ニ記載スル所ノ承諾ニ因テノ誘拐トテ區別スルヲ要スルナリ

第六百五十三號 幼稚○第三ノ條件ハ幼者ノ身上ニ誘拐ヲ行ヒシトナリ法律ハ此所ニ於テハ他ノ場合ト異ナリテ十三歳十六歳又ハ十八歳以下ノ幼者ニノミ限ラスシテ都テノ幼者即チ七歳ヨリ二十一歳ニ至ルノ總テノ人ニ適當ス七歳以下ノ小兒ノ誘拐ハ第三百四十五條及ヒ第三百四十六條ニ之ヲ記載ス但シ後見免脱及ヒ婚姻ハ幼稚ノ狀態ヲ失ハシムルヲ以テ判決例ニ於テハ後見ヲ免カレタル幼者及ヒ婚姻シタル幼者ニハ第五百五十六條ヲ適施セサルコトヲ許セリ千八百三十九年一月十六日ノ判決

第六百五十四號 意思○第四ノ條件ハ罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ誘拐ヲ

施シシコトナリ此目的ハ幼者ヲ其父母ノ權ヨリ奪取スルコトヲ云フ是レ即チ誘拐ノ内心上ノ條件ヲ構造スルモノナリ若シ誘拐ニ續キ他ノ罪ヲ犯テカ幼者ヲ淫行ヲ挑唆スルカ又ハ之ニ對シテ猥褻ノ所行ヲ爲セシキハ此所爲ハ誘拐ノ所爲ト之ヲ分離シ別々ニ之ヲ訴フ千八百二十月二日判決故ニ誘拐者ノ意思ハ幼者ヲ其父母ノ手ヨリ奪取スルニ在リシコトヲ判定スルヲ以テ足レリトスト雖モ然レモ此判定ハ必要ナリ何トナレハ誘拐者ノ他ノ目的ヲ有セシキ例ヘハ一時幼者ニ娛樂ヲ與フル如キ又ハ正當ノ權ヲ有スル者ノ誘拐ヲ施セシキハ法律ニ因テ論ス可キモノニ非サレハナリ

第六百五十五號 十六歳以下ノ幼者○誘拐ヲ受ケタル幼者ノ滿十六歳以下ノ女子タルキハ第三百五十四條ニ記載シタル懲役ノ刑ヲ加重シ之ヲ徒刑ニ轉ス如此キ誘拐ハ人ノ身體ヲ穢シ其父母ヲシテ強テ婚

幼者ヲ誘拐スル罪

姻ニ承諾セシメシカ爲メニ行フモノナルカ故ニ其原因ハ男子ノ誘拐ニ比スレハ深ク有罪ニシテ其効果ニ至リテモ亦深ク危害アリ第三百五十五條ニ於テ刑ヲ加重スルハ夫レ此理ニ由ルナリ但シ女子ノ誘拐ノ條件ハ男子ノ誘拐ニ付キ第三百五十四條ニ記載スル所ノモノト全ク差等ナキナリ

第六百五十六號 承諾ニ因テノ誘拐○第三百五十六條ハ誘拐ノ詭計及ヒ暴行ヲ以テ行ハレシヲ希望セス唯十六歳以下ノ幼者ヲ其父母ノ置キタル場所ヨリ畧取セシノ一事ヲ以テ充分トス而シテ幼者ノ誘拐者ニ從ハンカ爲メニ好意ヲ以テ其場所ヲ離レシキト雖モ亦同一ナリトス此場合ニ於テ幼者ノ承諾ハ其未熟ナルヲ以テ誘拐者ヨリ欺カレシニ因テ生セシモノト看做シ而シテ父母ノ權ヲ害セラレシモノトス但シ法律ハ幼者ノ承諾ヲ罰セス之ヨリ生シ且ツ重罪ノ外面上ノ所爲ヲ

構造スル所ノ誘拐ヲ罰スルニ限ルナリ故ニ此罪ハ此所爲ノ判定ノミニ由テ成立シ詭計又ハ暴行ヲ用シテニ關セサルナリ而シテ其實法律ノ罰セント欲スル所ノモノハ幼者ノ意向又ハ承諾上ニ行フタル詭欺威力ナリ
千八百二十一年十月二十四日同年十一月十一日千八百二十六年五月二十六日千八百四十九年八月十六日及ヒ千八百五十六年三月二十七日ノ判決

第六百五十七號 暴行ニ因テノ誘拐ト承諾ニ因テノ誘拐トノ他ノ差異ハ此第一ノ場合ハ男女ヲ論セス何人モ之ヲ犯スヲ得第二ノ場合ハ男ニ非サレハ之ヲ犯スヲ得サル是ナリ第三百五十六條ハ男ニ對スル女子ノ承諾女子ノ上ニ男ノ施セシ誘拐ニ非サレハ之ヲ記載セカリシナリ
千八百五十八年四月四日ノ判決
第六百五十八號 承諾ニ因テノ誘拐ハ誘拐者ノ年齢ニ從テ重罪或ハ輕罪ヲ構造ス其二十一歳ニ至ラサルハ二年乃至五年ノ禁錮ニ處ス

幼者ヲ誘拐スル罪

可キ輕罪ヲ生シ其十六歲以下タルキハ加之是非ノ辨別ナキコトヲ申立
テ第六十八條及ヒ第六十九條ノ利益ヲ得ヘシ然レモ其二十一歲以上
タルキハ此年齡ハ刑ノ加重ヲ來タス所ノ原因ニシテ陪審會ニ下問ス
可キ問題中特別ノ一問題タルモノナリ一千八百四十九年十月三十日ノ判決

第六百五十九號 誘拐者ノ婚姻○法律ハ重罪又ハ輕罪ヲ構造スヘキ
幼者ノ誘拐ヲ規定シタル後第三百五十七條ニ於テ誘拐ノ訴ヲ受理シ
サル場合ヲ定ム即チ誘拐者ト誘拐セラレタル女子ト婚姻セシ場合は
ナリ而シテ此規則ハ誘拐ノ都テノ場合ニ適當ス故ニ刑事ノ訴ハ婚姻ノ
無効ヲ要求シ且ツ其無効ノ宣告アリシキ及ヒ此無効ヲ要求ス可キ者
ノ告訴セシキニ非サレハ行フチ得サルナリ無効ノ要求ト告訴トハ別
々ノ所爲ニシテ相混淆ス可カラサルモノナリ第三百三十七條ハ此雙
方ノ所爲アルコトヲ希望ス其理由ヲ探スルニ假令婚姻ノ無効ハ誘拐者

ノ親族ヨリ要求スルチ得可キモ此要求ニ因テ法律ノ格段ニ誘拐ヲ受
ケタル女子ノ親族ニノミ付與スル所ノ告訴權ヲ害スルチ得ス而シテ如
何ナル場合ニ於テモ女子ノ親族ノ承諾ノ上ニ非サレハ刑事ノ訴ヲ行
フチ許サ、ルチ以テナリ婚姻ノ有効及ヒ無効ノ訴ハ刑事取調前ニ判
決ス可キコトニシテ之ヲ判決スルノ權ハ民事裁判所ニノミ屬ス故ニ誘
拐者又ハ其從犯者ニ對シテ刑事ノ訴ヲ始ムルチ得可キヤ否ヤハ民事
裁判所ノ判決後ニ非サレハ決定セサルナリ千八百五十二年十月三日
ノ判決○刑法理論第千七
百五十七
號參照

從第三百五十
八條至第三百
六十條

○第四節 埋葬ノ法律ニ背ク罪

第六百六十號 刑法ハ同節中ニ別々ナル三輕罪ヲ記載ス埋葬ノ法律
ニ背ク罪、殺害セラレタル人ノ死體ヲ藏匿スル罪、墳墓ニ暴行ヲ加フ罪
是ナリ如此キ所爲ヲ有罪トスル所以ノモノハ人ノ死體ヲ保護スルノ

埋葬ノ法律ニ背ク罪

目的ニ出テタルモノナリ然レモ其罪ノ階級ハ内心上ノ意思及ヒ外面
上ノ所爲ニ從テ差等アルナリ

第六百六十一號 埋葬ノ法律ニ背ク罪○第三百五十條ハ別々ナル二
箇ノ犯罪ヲ記載ス豫メ公ケノ官吏ノ允許ナク爲シタル埋葬及ヒ定期
前ニ爲シタル埋葬是ナリ是レ民法第七十七條及ヒ第八十一條ニ二箇
ノ刑罰ヲ附センカ爲メニ定メシモノナリ此二箇ノ犯罪ハ皆外面上ノ
所爲ノミニ因テ生スルモノナルカ故ニ意思ノミハ之ヲ罰セスト雖モ
法律ノ規則ヲ知ラサルカ又ハ之ヲ遵守セサリシノ懈怠ヲ罰ス民法第
七十七條ニ記載スル所ノ豫メ允許ヲ得ルコトハ變死人、常死人ハ勿論死
産セシ子ノ埋葬ニモ適當ス千八百六年七月四日ノ布令ニ曰ク「第三百
五十八條ニ記載スル所ノ死ノ語ハ沈意ヲ有シ子ノ出産ノ時ニ於テ死
セシ場合ニ迄延及ス可シト」千八百四十四年九月二日ノ判決但シ此義務ハ分娩ナク墮

胎ノミノ場合ニ延及ス可カラス何トナレハ此場合ニ於テハ唯不充分
ナル胚胎アルノミニシテ未タ生ナク死ナケレハナリ僧徒カ官吏ノ允
許アルマ否ヤヲ證セスシテ死體ヲ取扱ヒ葬式ヲ行ヒシキハ共和第十
三年十一月四日ノ布令ニ背クト雖モ第三百五十八條ハ死體ヲ埋葬セ
シメタル者ニ非サレハ記載セサルヲ以テ如何ナル刑ヲモ受ケサルナ
リ千八百四十二年五月七日ノ判決同布令ニ記載シタル邑長同副及ヒ其他ノ者ニ付テ
モ同一ナリ但シ此布令ハ警察規則ト看做シ而シテ其犯則ニ刑法第四百
七十一條ノ第十五項ヲ適施スルヲ得可シ千八百五十年十月十二日ノ判決
第六百六十二號 格段ナル法律規則ニ記載シタル場合ノ外ハ死後二
十四時間ヲ經スシテ爲シタル埋葬及ヒ其他法律ニ記載シタル官吏ノ
検査前ニ爲シタル埋葬ハ之ヲ定期前ニ爲タルモノト看做ス此二十四
時間ノ期限ハ法律ニ指示スル場合ニ於テハ之ヲ減縮スルヲ得民法第七

埋葬ノ法律ニ背ク罪

百第三十一年十一月三日及八月十三日第八條上ノ期限ヲ犯ス者ハ第三百五十八條ノ第二項ニ因テ之ヲ論ス但シ二十四時間ヲ經サル前ニ施シタル死體ノ解剖ハ之ヲ定期前ニ爲シタル埋葬ト看做ス可カラサルナリ
百三十四年三月一日ノ判決

第六百六十三號 官吏ノ允許ヲ得テ共同墓地外ニ埋葬ヲ行フノ所爲ハ第三百五十八條ヲ以テ之ヲ論セス該條ニ於テ罰スル所ノモノハ秘密ノ埋葬又ハ定期前ノ埋葬ノミ
百三十八年三月十四日及百三十九年七月十四日ノ判決
然レ共共和第十二年九月二十三日及共共和第十三年十一月四日ノ布令ハ邑官ニ墓地ノ警察及ヒ監察ヲ任シ以テ該官ノ墓地外ニ埋葬ヲ行フヲ禁スルノ權アルコト及ヒ埋葬ノ事ニ付邑長ノ決定ニ背キタル所爲ニ違警罪ヲ適施ス可キコトヲ定メリ
百三十八年四月十四日及百三十九年十月十六日及百四十一年八月十日ノ判決然レ共共和允許ナク私有地ニ埋没シタル人ノ改葬

ヲ命スルハ行政官ノ權内トス

第六百六十四號 死體ノ藏匿○第三百五十九條ノ目的トスル所ハ法官ノ訴ヲ遁レント欲スルノ所爲ヲ障礙スルニ在リ而シテ該條ニ記載スル所ノモノハ第三百五十八條ニ記載スルモノト異ナリテ外面上ノ所爲ニ非スシテ内心上ノ所爲ナリ殺害セラレタル者ノ死體ヲ藏匿スル者ハ贓物ヲ藏匿スル者ノ竊盜ノ從犯タルト均シク殺害ノ從犯ノ一種類ナリ然レ共此從犯者ノ目的ハ殺害ヲ助クルニ非スシテ殺害ヲ行ヒシ者ニ遁刑ヲ得セシムルコト在ルカ故ニ別種ノ輕罪ヲ構造スルナリ
百三十五年十二月二十一日ノ判決故ニ殺害及ヒ創傷ヲ行ヒシ者ハ死體ノ藏匿ニ付キ訴ヲ受ケサル可シ何トナレハ同時ニ正犯者從犯者トシテ之ヲ訴フ能ハス即チ第三百五十九條ハ殺害及ヒ創傷ニ關セサル者ニ非サレハ適當ニサレハナリ此輕罪ノ構造ニ關スル所爲左ノ如シ第一方法ノ如何ヲ

埋葬ノ法律ニ付ク罪

論セス死體ヲ藏匿スルノ所爲即チ陳述ナキ秘密ノ埋葬、第二死體ヲ藏匿シラレシ人ノ死去ノ毆打及ヒ創傷ニ原因スルヲ千八百五十五年五月二十六日ノ判決是ナリ

第六百六十五號 墳墓ニ暴行ヲ加フルヲ○第三百六十條ニ記載シタル輕罪ヲ構造スルノ所爲ハ墳墓ニ暴行ヲ加フル外面上ノ所爲ナリ其内心上ノ條件ハ此暴行ヨリ生スル不敬ナリ總テ此外面上ノ所爲ハ墳墓ニ不敬ヲ加フルノ効ヲ生スルニ因リ該條ヲ以テ之ヲ論ス、第一墳墓ヲ發クノ所爲(醫學ノ爲メ該所爲ヲ施シキト雖モ同一ナリ)第二死人ノ服スル衣類及ヒ柩内ニ在ル物品ノ竊取(未タ柩ヲ埋没セサル前ニ施シキト雖モ同一ナリ)第三人ノ墳墓ニ對シテ不敬ノ語ヲ以テ其在世中ノ行事ヲ述ヘ之ヲ毆打スルノ体様ヲ爲セシノ所爲(千八百三十三年八月二十三日ノ判決)但シ唯言詞ヲ以テ不敬ヲ加ヘシ場合ト体様ト言詞トヲ以テ不敬ヲ

加ヘシ場合トチ區別スルヲ要ス何トナレハ第三百六十條ハ此終リノ場合ニ非サレハ適當セサレハナリ

第六百六十六號 第三百六十條ハ其末尾ニ於テ「此規則ト其犯人ノ此暴行ニ附加シテ犯シタル輕重罪ニ付キ受ク可キ刑ト相觸ル、トナカサル可シ」ト記載セリ故ニ該條ハ此點ニ付テハ第三百五十九條ト差異アリ何トナレハ第三百五十九條ニ於テハ「此規則ト至重ナル刑ニ處セラシル可キ規則ト相觸ル、トナカサル可シ」ト記載スレハナリ故ニ第三百六十條ハ輕罪ヲ連リ犯シタルキニ於テ之ニ適スヘキ刑ト該條ノ刑ト重積ス可キコトヲ希望スルモノナリト思惟スル者アリ(千八百二十二年五月十七日ノ判決)然レ由余ヲ以テ之ヲ觀レハ此二條ハ同一ノ目的ヲ有シ且ツ治罪法第三百六十五條ノ例外ヲ定ムルニ非スシテ至重ナル輕罪アリシキニ於テ其訴ヲ爲スノ權ヲ保蓄セント欲セシモノ、如シ(刑法理論第千七百七十四號參觀)

埋葬ノ法律ニ替フ罪

○第七款 偽證、誣罔、誹謗、漏告ノ罪

從第三百六十
一條至第三百
六十六條

○第一節 偽證ノ罪

第六百六十七號 偽證ノ罪ノ原素○第三百六十一條及ヒ第三百六十

二條ハ偽證ヲ構造スヘキ原素ノ義解ヲ掲ケスシテ唯偽證ノ罪人ヲ罰

スルニ限レリ此原素ハ第一裁判所ニ於ケル證據第二此證據ノ眞實ニ

違背スルヲ第三此證據ニ因テ他人ニ害ヲ釀スヘキヲ第四其目的タル

事柄ニ付キ裁判所ヲ迷惑セシムルノ意思是ナリ

第六百六十八號 證據○偽證罪ノ第一ノ條件ハ證據ヲ出クスニ當リ

罪ヲ犯セシコナリ證據トハ裁判所ニ於テ誓ヲ宣ヘタル上ナシタル陳

述ヲ云フ故ニ唯告知ヲ爲サンカ爲メニ裁判所ニ召喚セラレタル者及

ヒ誓ヲ宣ルコナクセテ事實ヲ申陳シタル者ハ偽證ノ訴ヲ受クルコナ

シ又重罪裁判所長ノ參考ノ爲メニ訊問ヲ受タル者及ヒ第三十四條及

ヒ第四十二條ノ適施ニ因テ裁判所ニ於テ證人タルノ權ヲ剝奪セラレ

タル者モ亦決シテ同一ノ訴ヲ受ルコナシ但シ錯誤ニ因テ誓ヲ宣ルコ

ノ允許ヲ得シ者ハ其誓ヲ以テ爲シタル陳述ニ付其責ニ任ス何トナレ

ハ此陳述ハ證據ノ性質ヲ有スレハナリ及ヒ千八百四十三年六月二十二日

決ノ判

第六百六十九號 辨護ノ權○又犯人己レノ辨護中ニ偽ノ陳述ヲ爲ス

モ決シテ偽證ノ訴ヲ受ルコナシ何トナレハ何人モ我一身ノ訴訟ノ證

人ニ非サレハナリ他人ノ證據ノ陳述中ニ自ラ我身ヲ訴フル如キ事實

ノミチ偽陳セシ證人モ亦上ト同一ナリ乎判決例ニ於テハ此證人ハ誓

ヲ宣ヘシニ因リ之ヨリ生シシ義務ヲ滿ルノ任アルヲ以テ偽陳ヲ許ス

可カラサルモノトシ此問題ヲ否決シリ千八百五十四年八月二十七日千

八百六十四年三月十五日及ヒ千八百八十八年六月十日千八百

偽證ノ罪

六百九十一

訴訟ニ付爲シタル陳述ニ非サレハ適當セサルヲ共和十一年五月證人ノ宣ヘタル誓ノ他人ノ所爲ニミ適當シ己レノ擔當スヘキ所爲ニ適當セサルヲ我一身ノ訴訟ニ付テハ辨護ニ付特權ヲ得ヘキヲ及ヒ偽證ノ罪ハ他人ヲ害スルト己レヲ保護スルトニ因テ變更セサルヲ「非難スルヲ得ヘシ刑法理論第七

第六百七十號 眞實ヲ變更スルヲ○第二ノ條件ハ證據ノ眞實ニ違背スルヲナリ此眞實ニ違背スルヲニ付テハ其主タル事柄ニ違背スルト附屬シタル事柄ニ違背スルトヲ區別スルヲ要ス附屬シタル事柄ノ變更ハ訴ノ原因タルヲナシ千八百七十七年一月然レモ時ニヨリ主タル事柄ト附屬シタル事柄トヲ判別スルノ至難ナルヲアリ概シテ主タル事柄トハ事實ト其場合トノ證據ヲ構造ス可キモノナリ故ニ犯罪ノ日及ヒ場所ハ訴件ノ眞偽ノ證據トナル可キハ主タル事柄タルヲ得ヘシ己

レノ姓名身分犯人トノ血縁ヲ欺キタル證人ハ之ヲ主タル事柄ヲ變更セシ者ト看做スヲ得ヘシ然レモ此抑制法ハ之ヲ非議スルヲ得可シ何トナレハ法律ニ於テハ陳述即チ訴訟ニ關シテ證人ノ見聞セシ事柄ヲ申白スルヲ陳述ニ先タテタル審問トヲ區別シ而シテ此眞實ノ變更ニ非サレハ有罪トセサレハナリ又告知ト證據トヲ區別スルヲ要ス何トナレハ第三百六十一條及ヒ第三百六十二條ニ於テ保護スル所ノモノハ證據ニノミ限レハナリ刑法理論第七

第六百七十一號 證人ノ陳述ヲ拒ムヲ○證人カ審問ニ答フルヲ拒ムノ所爲ハ決シテ偽證ヲ構造セス只之ニ百「フ」ラ「ン」ノ罰金ヲ適施スルノ治罪法第陳述ニ關係セス且ツ其意ヲ變更ス可カラサル事柄ニ答フルヲ拒ムノ所爲ハ定マリタル事柄ニ答フルノ尋常ノ拒ミニシテ罪ヲ構造セス千八百八十五年五月ト雖モ陳述ノ性質ヲ變更シ之ニ事實ニ反シ

偽證ノ罪

タル意ヲ附ス可キトハ其答辭ノ拒ミヲ有罪トス例ヘハ無罪人ノ訴ヘ
 ラレタルキニ於テ眞ノ罪人ノ名ヲ告クルヲ拒ミシ場合ノ如キ是ナリ
 答辭ヲ拒ミ又ハ有リタル事柄ヲ無シト答フルトハ其眞實ニ違背シテ
 無キ事柄ヲ有リト答ヘシ場合ト均シキニ非サレハ偽證ノ性質ヲ有
 セサルナリ千八百十四年七月一日ノ判決此區別ハ答辭ヲ爲サンカ爲メニ召喚セラ
 レタル事柄ヲ見聞セサリシト述フル場合ニ適當ス即チ一判決ニ於テ
 ハ見聞スヘキ位置ニアリト雖モ見聞セサルヲ得ヘキニ於テ斯々ノ事
 ナシト陳述スルトハ偽證ヲ構造セスト雖モ犯罪ノ證據又ハ其成立ア
 ルトヲ確言センカ爲メニ惡意ヲ以テ此陳述ヲ爲セシトハ罪ヲ構造ス
 可キト決定セリ千八百二十七年三月十七日ノ判決然レモ斯々ノ事ナシト云フ陳述
 ノ全ク事實ニ反セサルキ又ハ吟味ニ因テ生シタル證據ヲ破却スルノ
 企テ以テ爲セシモノニ非サルキハ偽證ヲ構造セサルナリ千八百二十年一月十日

決ノ判

第六百七十二號 證人其申陳シタル證據ヲ變更シ及ヒ其申陳中ニ前
 後相反シタル事ヲ申陳スルト一旦申陳シタル證據ヲ變更スルトハ
 必スシモ之ヲ偽證ト看做スヲ要セサル可シ何トナレハ記憶ヲ錯誤セ
 シキハ之ヲ釐正スルヲ得可ケレハナリ故ニ變更ノ趣旨ヲ開申スルヲ
 得サルカ初メニ爲シタル申陳ヲ弱メンカ爲メニ更ニ申陳ヲ爲スカ又
 ハ更ニ爲ス申陳ノ事實ニ相違スルキニ非サレハ偽證ノ訴ノ原因タル
 ヲ得サルナリ治罪法第三百十八條此區別ハ證據ノ申陳中ニ前後相反スル申陳
 ヲ爲セシ場合ニ適當ス而シテ此申陳ハ證人ノ其記憶ノ錯誤セシ場合ニ
 ニ於テハ之ヲ訴ノ原因トシスト雖モ事實ヲ變更スルノ意思ヲ以テ之
 ヲ爲セシキハ訴ノ原因タルヲ得ヘシ

第六百七十三號 損害○偽證ノ第三ノ條件ハ損害ヲ生スルカ又ハ損

偽證ノ罪

害ヲ生スルヲ得可キナリ此損害ハ被告人ニ對シテ又ハ被告人ノ爲
 メニ起セシキニ非カレハ之ヲ有罪トセサルナリ然レモ被告人ニ對シ
 テ又ハ被告人ノ爲メニナシタル偽ノ申陳ト雖モ其損害ヲ起ス可キモ
 ノニ非スシテ唯尋常ノ告知ニ過キサルキハ偽證ヲ構造セサルカ故ニ
 訴訟ノ取調中ニ於テ爲セシ總テノ偽陳ハ必スシモ悉皆訴ノ原因タル
 モノト思惟ス可カラズ但シ訟廷ニ於テ證人ノ口頭コテ爲シタル偽陳
 ハ獨リ偽證ノ訴ノ原因タルヲ得ヘシ第三百六十一條及ヒ第三百六十
 二條ハ吟味中ニ(即チ重罪取調局ノ決議又ハ訴ヲ起スノ命令後ニ)被告
 人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ偽證ヲ爲セシ場合ヲ論スルモノナリ共和第九
 月十二日共和第十三年十月二十二日千八百九十三年二月十八日千
 八百十六年四月二十六日及ヒ千八百三十六年九月十四日ノ判決
 第六百七十四號 上ノ要領ヨリ生スル一則アリ偽證ハ其申陳ノ取消
 ス可カラサルキ即チ此申陳ヨリ生セシ損害ヲ取消ス能ハサルキニ非

サレハ其成就アリトセサルコト是ナリ故ニ證人吟味中ニ偽ノ申陳ヲ爲
 スモ吟味ノ終局前ニ其取消ヲ爲スルハ訴ヲ受クルコトナシ是レ申陳ノ
 各部分ニ付些少ナル不正ノ避ケ難キコト吟味ノ終局セシキニ非サレ
 ハ充分ナル且ツ取消ス可カラサル申陳アリト看做サ、ルコト回復ス
 可カラサル損害ヲ生スルノ前ニ偽陳ヲ取消シ其効果ヲ滅セシコトノ
 理ニ由テナリ千八百九十三年七月四日及ヒ千
 八百三十九年四月十九日ノ判決如何ナル時ニ於テ吟味
 ノ終局及ヒ取消ス可カラサル證據アリト看做ス可キ乎重罪ニ關シテ
 ハ一事件ニ關スル專任ノ裁判官長ヨリ終局ヲ宣告スルキニ於テ又輕
 罪ニ關シテハ吟味ノ全ク終リタルキ即チ檢事ノ請求及ヒ犯人ノ辨護
 ヲ聽キ終リタルキニ於テ之アリトス千八百六十八年十月十日ノ判決然レモ初告裁
 判所ノ裁判官ニ偽陳ヲ爲シ控訴院裁判官ノ面前ニ於テ之ヲ取消セシ
 キハ偽證ノ訴ヲ起スヲ得ヘシ何トナレハ初告裁判所ニ於テ吟味ヲ終

偽證ノ罪

リタルハ該裁判所ニ於ケル申陳ハ完全シ訴訟ノ判決ニ付其採用アリタルハナリ千八百四十六年六月三日及ヒ千八百四十七年二月二十九日ノ判決此判決ハ輕罪裁判所ヨリ證人ヲ糾問判事ニ送附セシ場合ニ適當ス可シ但シ主タル事件ニ付再吟味ヲ始メタルキハ此例ニ非ス千八百四十七年二月二十九日ノ判決然レモ證人ノ偽陳ヲ受ケタル裁判所ニ於テ吟味ノ終局前ニ其事務ヲ他ノ裁判所ニ送附セシキコ於テハ該裁判所ニテ證人其偽陳ヲ取消スルハ吟味ノ終局前タルヲ以テ偽證ノ訴ヲ受クルコトナシトス千八百四十四年七月二十三日ノ判決又一事件ニ付偽證ヲ受ケタル裁判所ニ於テ其管外ノ事務タルコトヲ宣ヘ訴狀ヲ却下セシキハ此偽證ハ不確定ノモノナリ何トナレハ山テ以テ裁判ヲ爲ス所ノモノハ此證據ナレハナリ千八百五十一年九月十一日ノ判決證人偽陳ヲ爲シタル後事故アリテ其關係ヲ離レシキハ其吟味終局前ト雖モ偽證ヲ成就シタル者トス然レモ未ダ申陳ヲ終ラサルキハ未遂犯罪ヲモナシ

トス何トナレハ此場合ニ於テハ完全終局シタル偽陳ニ非サレハ訴ノ原因タルヲ得サルヲ以テ未遂犯ヲ訴フルハ至難ノ業ナレハナリ千八百一十二年二月十八日刑法律論第千八百三十三號參觀

第六百七十五號 但シ重罪又ハ輕罪ヲ生センニハ偽證ノ有害ナル効ヲ生シシテ要セス故ニ被告人ニ對シテ爲シタル偽證ハ此被告人ノ無罪トシテ放免セラル、カ又ハ一旦宣告ヲ受ケタル後其取消ノ宣告ヲ受ケシキト雖モ罰ス可キナリ何トナレハ偽證ハ吟味ノ終局ニ至ラサル前ニ於テ證人ノ確執ニ因テ内心上及ヒ外面上成就セシナレハナリ而シテ上告ノ場合ニ當リ更ニ吟味ヲ開キタルキニ於テ證人其已ニ爲シタル偽證ヲ取消スモ無効タルヲ以テ其罪ヲ消散セサルナリ又重罪裁判所ニ於テ偽證ヲ爲シ際ニ於テ其事務ヲ次期ノ會ニ送リシキハ此送廷ハ吟味ノ終局ト同一ナルヲ以テ偽證ノ効ハ消散スルコトナク之ヲ

偽證ノ罪

成就シタル所爲ト看做スナリ千八百四十三年五月二十日ノ判決

第六百七十六號 意思○偽證ノ罪ノ最終ノ條件ハ裁判所チ欺クノ意思即チ害ス可キノ意思ナリ故ニ罪ヲ犯スノ意思ナキ偽證即チ錯誤ハ罰ス可キモノニ非ス而シテ偽證ト錯誤トハ之ヲ混淆スルコトノ容易ナルヲ以テ之ヲ宣告書ニ登記スルヲ要スルナリ事實ノ證人ハ其見ント欲シ又ハ見シト信セシ事柄ニ付善意ニテ誤ルコトアリ又其感動想像又ハ記憶ノ混雜ニ因テ錯誤スルコトアリ故ニ證據人ノ詐僞タルコトノミナラズ有心ノ變更タルコトヲモ登記スルヲ要トス

第六百七十七號 刑事○偽證○偽證ハ刑事及ヒ民事ニ於テ之ヲ犯スチ得刑事ニ於テハ裁判所管轄ト刑ノ適施トニ付其重罪、輕罪又ハ違警罪ニ付犯セシヤチ區別スルヲ要ス但シ此三箇ノ場合ニ通シ用フ可キ規則ハ偽證ノ被告人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ爲セシキニ非サレハ有罪

タラサル是ナリ即チ第三百六十一條及ヒ第三百六十二條ハ此二件ニノミ適當ス是レ此場合ニ於テハ偽證ノ損害アレハナリ而シテ此偽證ハ陪審會ノ申陳又ハ裁判宣告ノ書中ニ之ヲ登記スルヲ要ス千八百四十一年十一月十六日及ヒ千八百三十六年二月二十五日ノ判決故ニ被告人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ偽證ヲ爲セシコトヲ登記セサル偽證ノ宣告ハ全ク効ナキモノニ屬スルナリ千八百六十五年四月二十三日及ヒ千八百八十八年四月二十三日ノ判決

第六百七十八號 民事○偽證○民事ノ偽證ハ二三ノ點ヲ除クノ外刑事ノ偽證ト同一ノ性質ヲ有ス刑事ニ於テハ被告人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ偽證ヲ爲セシキニ非カレハ偽證ヲ有罪トセスト雖モ民事ニ於テハ偽陳ハ其性質ノ如何ニ關セス他人ニ損害ヲ醸ス以上ハ之ヲ有罪トス千八百六十四年十一月九日ノ判決刑事ニ於テハ偽證ハ吟味ノ終局迄ハ之ヲ取消スチ得可シト雖モ民事ニ於テハ申陳書ニ手署シ而シテ裁判所ニ出タセシ

偽證ノ罪

キハ既ニ成就シタル偽證アリトス千八百五十二年三月九日判決又民事ノ偽證ト公書ノ偽造公ケノ官吏ニ爲シタル偽陳ニ因テ生スルモノトヲ混淆ス可カラス偽證ハ裁判所ニ於テ偽陳ヲ爲シタルキ證人ノ名義ニ於テ裁判官ヨリ召喚セラレシキニ非サレハ生セサルナリ故ニ裁判所外ニ於テ爲シタル偽陳ハ詐僞タルニ相違ナシト雖モ法律上ノ偽證ヲ構造セサルナリ千八百六十年十一月六日及千八百八十八年十一月二十四日ノ判決敵手ヨリノ召喚ニ因テ又ハ事實及ヒ箇條ノ審問ヲ受ケンカ爲メニ裁判所ニ出頭シタル者ノ爲シタル偽ノ應答ヲ偽證トスルヲ得ス何トナレハ何人モ己レノ訴訟ニ付證人タルヲ得サレハナリ共和第十一年五月二十二日ノ判決

第六百七十九號 刑罰○千八百十年ノ刑法ハ重罪ニ關スル偽證ニ對シテ有期徒刑ヲ適施シ輕罪違警罪又ハ民事ニ關スル偽證ニ對シテ懲役ノ刑ヲ適施セリ千八百三十二年四月二十八日ノ法ハ違警罪ニ關スル偽證ニ付テハ此刑ニ代フルニ剝奪公權ノ刑ト一年乃至五年ノ禁錮トキ以テセリ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ又他ノ改正ヲ施シ重罪ニ關スル偽證ニ付テハ重罪ノ性質ハ之ヲ變更セシテ徒刑ニ代フルニ懲役ノ刑ヲ以テセリ然レモ輕罪違警罪又ハ民事ニ關シテハ重罪ヲ轉シテ輕罪トナシ輕罪及ヒ民事ニ關スル偽證ニハ二年乃至五年ノ禁錮ト五十「フラン」乃至二千「フラン」ノ罰金トキ適施シ違警罪ニ關スル偽證ニ付テハ一年乃至三年ノ禁錮ト十六「フラン」乃至五百「フラン」ノ罰金ト第三百六十一條第三百六十三條民權剝奪及ヒ五年乃至十年ノ監視ノ自由刑トキ適施ス○總テノ場合ニ於テ第六十一條ノ偽證ノ場合ニ適當スル所ノ罰金ハ偽證ノ場合ニ適當セサルナリ千八百五十七年六月十八日ノ判決

第六百八十號 刑ヲ加重ス可キ事情○偽證ニ付刑ヲ加重ス可キ事情ニアリ格段ニ重罪及ヒ輕罪ニ適當ス可キ第一ノ事情ハ被告人カ第三

百六十一條及ヒ第三百六十二條ニ記載スル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ受ケ
 シニ依テ生ス此場合ニ於テハ證人ニ均シシ此刑ヲ適施ス是レ被告人
 ノ如此キ重キ刑ヲ受ケシハ證人ノ之ニ對シテ偽證ヲ出クセシニ因ル
 モノト看做セシニ由ルナリ第二ノ事情ハ重罪、輕罪、違警罪及ヒ民事ニ
 關シテ證人カ金錢又ハ謝報ヲ受ケシカ或ハ約束ヲ以テ偽證ヲ出セシ
 ニ由テ生ス第三百六十四條此場合ニ於テハ重罪ニ關シテハ偽證人ヲ有期徒
 刑ニ處シ輕罪、違警罪又ハ民事ニ關シテハ二年乃至五年ノ禁錮ト五十
 「フラン」乃至二千「フラン」ノ罰金ト第三百六十二條ニ記シタル自由附加
 刑トニ處シタル上證人ノ收受セシ物品ハ之ヲ官ニ沒收ス而シテ約束ハ
 書上ニ記シタルモノハ勿論口頭ノ約束ト雖モ加重ノ原因タル可シ八千

百二十九
 十七日ノ判決

第六百八十一號

證人ニ偽證ヲ爲スヲ挑唆スルヲ○偽證ノ挑唆ト偽

證トハ其目的トスル所同一ナリト雖モ其性質ヲ異ニス偽證ノ挑唆ト
 ハ贈物又ハ約束ヲ以テ證人ニ偽證ヲ爲スヲ勸ムルノ所爲ナリ故ニ
 此所爲ハ從犯ヲ構造ス即チ偽證人ハ此正犯者ニシ其挑唆者ハ從犯者
 ナリ此正從犯者ニ同刑ヲ適スルノ規則第三百六十五條ハ判決例ニ於テモ屢
 之ヲ適施セリ千八百四十四年七月二十一日千八百四十五年八月十六日
 千八百四十六年六月二十七日及千八百五十年十一月十一日然レ此從犯ハ
 尋常ノ從犯ヲ構造スヘキ所爲ニ因テノミナラス偽證ノ挑唆ヲ構造ス
 ルヲ得ヘキ所爲(假令法律ニ之ヲ記載セサルモ)ニ因テ行フヲ得ヘキヲ
 以テ格段ナル性質ヲ有スルモノナリ第三百六十五條ハ偽證挑唆ノ義
 解ヲ掲ケスト雖モ又其適施ヲ第六十條ニ記載シタル所爲ニノミ限ラ
 サレハナリ

第六百八十二號 但シ偽證ノ挑唆ハ證人カ偽證ヲ爲セシキニ非サレ

偽證ノ罪

ハ有罪ニ非ス何トナレハ偽證ヲ爲サ、ルニ於テハ偽證ノ從犯者ナケ
 レハナリ即チ偽證ノ挑唆ハ眞ニ行フタル偽證ニ屬スルキニ非サレハ
 罰ス可キノ所爲ニ非サルナリ千八百五十七年六月十八日及七千八百五十七年六月十八日ノ判決然レハ
 則チ偽證挑唆ノ從犯ヲ生センニハ證人カ偽證罪ノ宣告ヲ受ケシヲ要
 スル乎否ラス何トナレハ證人カ罪ヲ犯スノ意思ナクシテ偽證ヲ爲セ
 シニ因リ無罪放免ヲ受クルモ挑唆者ヲ罰スルノ點ニ於テ障礙ナケレ
 ハナリ千八百五十七年七月二十日ノ判決及ヒ而シテ偽證ノ外面上ノ所爲ア
 ルキハ挑唆者其罪ヲ免カル、能ハス何トナレハ假令證人ノ罪科ハ消
 散スルモ主クル所爲ナル偽證人ノ正ニ行ハレシヲ以テ從犯ノ所爲消
 散セサレハナリ千八百五十四年五月十六日ノ判決及ヒ

第六百八十三號 尋常ノ從犯ヲ構造スヘキ所爲ニシテ偽證ノ効チ生

セシモノハ皆ナ之ヲ偽證挑唆ノ所爲トス故ニ贈物、約束、脅迫、擅權、姦謀

ヲ以テ偽證ヲ挑唆シ又ハ偽證ヲ行ハシメシカ爲メニ器具ヲ供セシ者
 ハ偽證挑唆ノ罪人トス又偽證ノ用ニ立ツ可キ書類ヲ證人ニ供シテ挑
 唆ノ所爲ヲ行フヲ得ヘシ千八百五十四年六月十六日ノ判決證人ニ偽證ヲ爲スヲ教唆
 セシキハ情ヲ知リテ教唆ヲ爲セシヲ宣告書ニ登記スルヲ以テ足レ
 リトス千八百五十七年六月十九日ノ判決

第六百八十四號 然レモ偽證挑唆ノ所爲ヲ構造スル所ノ格段ナル從
 犯ハ第六十條ニ記載セサル原素ニ因テ生スルヲ得ヘキヲ以テ第三百
 六十五條ヲ適施センニハ尋常ノ從犯ノ方法ヲ以テ罪ヲ犯セシヲ宣
 告書ニ登記スルヲ要トセシモ唯被告人ハ偽證挑唆ノ罪人ナリト宣告
 スルヲ以テ充分ナリトス此偽證挑唆ノ語タル法律ニ記載シタル格段
 ナル從犯ニシテ重罪ノ諸條件ヲ包含スルヲ以テ之ノミニテ充分スル
 カ故ニ他ノ記載ヲ爲シテ之ヲ補充スルハ無益ノ業ナリ千八百五十七年十一月二十一日

九日千八百五十七年七月二日千八百五十九年一月一日偽證ノ挑唆ヲ構造スルヲ得ヘキ所爲ハ之ヲ審査スルヲ要川トス何トナレハ偽證ノ挑唆ニ基カサル偽證ノ訴ハ偽證ノ挑唆ヲ構造スルニ不充分ナレハナリ判決例ニ於テハ被告人ノ爲メニ重罪裁判所ニ於テ偽證ヲ爲サシムルヲ他人ニ約セシノ所爲ハ未タ偽證挑唆ノ罪ノ性質ヲ有セサルモノト認メタリ千八百五十三年又證人ノ證スヘキ所爲ヲ誤ラシメンカ爲メニ策畧ヲ以テ其思考ヲ變更セシメシノ所爲ハ偽證挑唆ノ所爲ニ非サルヲ認メタリ千八百五十二年偽證挑唆ノ從犯ハ尋常ノ規則ニ因テ生スルト格段ナルキトヲ論セス繼續スルヲ要シ中止セサルヲ而シテ第六十條ニ記載シタル所爲又ハ之ト類似シタル所爲ニ因テ生スルヲ得ヘキナリ

第六百八十五號

民事ニ於ケル偽證○千八百六十三年五月十三日ノ

法ハ第三百六十六條ノ刑ヲ改定セシカ故ニ該條ニ記載スル所ノ犯罪ハ當今輕罪ニ過キス而シテ民事ニ於テ誓ヲ爲スヘキノ求メテ受ケ或ハ其反求ヲ受ケ偽誓ヲ爲セシ者ヲ一年乃至五年ノ禁錮ト百「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金トニ處シ尙ホ之ニ五年乃至十年間民權剝奪及ヒ監視ノ刑ヲ適施ス裁判所ニ於テ爲ス誓ニ二種アリ訴訟ヲ判決セシメンカ爲メ訴訟人ノ一方ヨリ其敵手ニ對シテ求ムルモノヲ審決ノ誓ト云ヒ裁判官ヨリ職權ヲ以テ訴訟人ノ一方ニ命スルモノヲ補充ノ誓ト云フ民法第七十三條然レモ第三百六十六條ハ此二種ノ誓ニ付區別ヲ爲サ、リシカ故ニ刑ハ雙方ノ場合ニ於テ均一ナリトス千八百四十三年一法律ハ此誓ノ成就ニ付格段ナル區域ヲ置カサリシカ判決例ニ於テハ訟廷ニ於テ敵手ノ面前ニテ精神及ヒ良心ヲ以テ爲セシ確言ハ之レヲ誓ト看做ス可キヲ決定セリ千八百四十三年一但シ其誓ヲ爲ス可キノ

偽證ノ罪

所爲ノ民法上書類ノ證據ヲ要ス可キモノタルキハ其弊ハ此證據アリ
 タルキニ非サレハ罪ヲ構造セサルナリ千八百二十九年六月十七日及千八百
 四十二年一月二日故ニ負債辨償ノ終否ノ争ニ關シテ債主ヨリ未タ其辨
 償ヲ得スト申立テ且ツ民法第千三百四十一條及ヒ第千三百四十七條
 ニ記載スル所ノ證據ヲ要スルキハ負債主ハ辨償ノ證書又ハ此證據ノ
 端緒ヲ有スルキニ非サレハ刑事ノ告訴ヲ爲ス能ハサルナリ訴訟人ノ
 一人ノ斯々ノ契約斯々ノ賣買ナシト述ヘシキモ同一ナルカ故ニ訴ノ
 第一ノ原因タル證書アルヲ要スルナリ千八百三十六年九月二十日千八百
 四十二年六月三十日及千八百五十七年十一月十三日千八百五

○第二節 誣罔、誹毀、漏告ノ罪

○第一項

誣罔、誹毀ノ罪

從第三百六十
 七條至第三百
 七十四條及ヒ
 四條至第三百
 七十七條

第六百八十六號 千八百十九年五月十七日ノ法ノ第二十六條ハ刑法

第三百六十七條第三百六十八條第三百六十九條第三百七十條第三百
 七十一條第三百七十二條第三百七十四條第三百七十五條及ヒ第三百
 七十七條ヲ廢止シ更ニ誣罔及ヒ誹毀ノ罪ヲ制止スルノ規則ヲ置キタ
 レ此規則ハ出版法ノ一部ヲ爲シ刑法ノ部分ニ入ラス唯僅ニ第三百
 七十三條第三百七十六條及ヒ第三百七十八條ノ三條ノミ千八百十九
 年ノ刑法審査ニ因テ廢止セラレサリキ

第六百八十七號 第三百七十六條ハ定マリタル妨害ナク且ツ公ケニ
 爲サ、リシ誹毀ハ違警罪ヲ構造スルニ過キサルコトヲ記載ス依テ輕罪
 ナ構造センニハ一二ノ條件ノ具備アルヲ要ス可キノ規則ヲ生ス誹毀
 ノ罪ニ千八百十九年五月十七日ノ法ノ第二十條ヲ適施ス可キハ夫レ
 此意ニ由テナリ千八百五十四年四月十一日及千八百五十二年四月二十日
 千八百五十五年八月十日
 判決ノ第三百七十六條ハ該法ノ第二十條ノ如ク平人ニ對シテ爲シタ

誣罔誹毀ノ罪

ル誹毀ニ非サレハ適當セス官吏ノ職務ノ執行ニ付之ニ對シテ爲シタル誹毀ハ其種類ノ如何ニ關セス其公ケニナシタルキハ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ處斷ス千八百五十二年八月六日ノ判決

第三百七十三條

○第二項 誣告ノ罪

第六百八十八號 誣告罪ノ性質○人ヨリ受ケタル抑制ノ所爲ヲ裁判官ニ訴フルハ素ヨリ適法ノ所爲ニシテ又時ニハ法律ノ命スルモノアリ治罪法第三十條ハ公益又ハ人民ノ性命財産ニ對スル暴害ノ證人タリシ都テノ人ニ負ハシムルニ此義務ヲ以テセリ故ニ告訴ハ裁判所ノ利益ノ爲メニ非スシテ告訴人ノ情慾怨望ヲ滿タサンカ爲メニ行フタルキ又ハ僞ノ所爲ヲ他人ニ歸セシメントセシキニ非サレハ誣告罪ノ性質ヲ有セサルナリ誣告ハ詐僞ノ所爲ナリト雖モ公ケニ爲セシモノニ非サルヲ以テ讒謗トハ差異アリ又誣告ハ僞證トハ差異アリ何トナ

レハ裁判所ヲ欺クノ點ニ於テハ素ヨリ同一ナリト雖モ訟廷ニ於テ且ツ懲ヲ以テ爲サ、ルモノナレハナリ誣告ノ罪ニ必要ナル條件三アリ、第一告訴ヲ爲ス、第二此告訴ヲ裁判所又ハ行政或ハ司法警察ノ官吏ニ奉呈セシ、第三其誣罔タルヲ是ナリ

第六百八十九號 告訴○誣告罪ノ第一ノ條件ハ告訴即チ其性質及ヒ法式ヲ有スルコトナリ性質トハ告訴人ノ人ヨリ強制ヲ受クルコトナリ全ク自由ヲ以テ告訴ヲ爲セシコト云フ千八百三十六年六月九日ノ判決若シ告訴人カ審問ヲ受ケシカ又ハ告知ヲ爲スノ要求ヲ受ケシニ因リ爲シタル宣述ハ尋常ノ申陳ニ過キサルナリ告訴ノ法式ニ關シテハ第三百七十三條ハ訴狀ヲ以テ爲ス可キコトヲ記載スト雖モ該條ニ記載スル所完全ナラス此訴狀ハ治罪法第三十一條ニ記載シタル法式ヲ以テ製スルヲ要ス可キ乎否ラス何トナレハ假令告訴人ノ責任ヲ生センカ爲メニ犯罪ノ

誣告ノ罪

器械タル訴狀ヲ要スルコト如此キ法式ヲ以テ製スルノ理ナケレ
 ハナリ訴狀ニハ唯告訴人ノ姓名ト他人ニ適スヘキ罪科トヲ登記スル
 チ以テ足レリトス二千八百六十八年五月三十一日ノ判決無名且
 ツ手署ナキ尋常ノ書翰ト雖モ其何人ノ書翰タルヤヲ知り得ヘキハ
 充分ナリトス千八百三十九年二月五日及千八百八十八年五月三十一日ノ判決然レモ告訴人字ヲ書ス
 ルヲ知ラサルカ又ハ之ヲ欲セサルヲ以テ公ケノ官吏ニ訴狀ヲ製スル
 ヲテ要求セシキハ該官吏ハ法律上ノ法式ヲ履踐シテ之ヲ記載セサル
 チ得ス千八百一十五年五月二十七日ノ判決但シ此場合ト雖モ一旦出シ
 タル訴狀ノ法式ヲ回復補充スルヲ得ヘシ千八百五十七年十二月二十
 年一月三十日ノ判決十八民事原告人トシテ告訴ノ法式ヲ以テ千八百一
 一月十二日及千八百一十四年十一月二十日ノ判決五年十一月
 一年五月二十一日ノ判決十召喚狀ノ法式ヲ以テ千八百一
 ノ法式ヲ以テ千八百三十五年五月二十七日ノ判決製シタル書類ニ因テ又行政上ノ争ニ付

生シ且印刷シタル覺書ニ因テ千八百六十年三月爲シタル告訴ト雖モ裁
 判所ニ於テ之ヲ受理スルヲ得但シ此最尾ノ判決ハ公ケニシタル書類
 ニ關シテ千八百十九年五月十七日ノ法ノ第二十三條ヲ適施スヘキ場
 合ニハ延及セサルナリ

第六百九十號

○奉呈

○第二ノ條件ハ裁判所又ハ警察ノ官吏ニ訴狀ヲ

奉呈セシコナリ此奉呈ハ裁判官又ハ行政官吏ヲシテ審査ニ着手セシ
 ムルモノニシテ誣告罪ノ一條件ヲナスモノナリ而シテ誣告ハ此奉呈ニ
 因テ外面上ノ成就ヲナスナリ第三百七十三條ニ記載スル所ノ裁判所
 又ハ警察ノ官吏トハ如何ニ裁判所ノ官吏トハ治罪法第九條ニ列記シ
 タル司法警察ノ官吏ナリ行政警察ノ官吏トハ縣令警視長千八百三十五
 年十一月九日ノ判決十警部ノ如ク行政警察ヲ行フ者ハ勿論局課長千八
 百五十五年四月二十七日及千八百八十七年五月十七日ノ判決千

三月十六日十月二十五日千八百五十二年十一月二十日千八百五十八年十一月二十
三月十六日十月二十五日千八百五十六年四月二十六日及千八百五十八年十一月二十
ノ判決ノ如ク官省ニ於テ其屬吏ニ懲罰令ヲ行フ者ヲモ包含ス而シテ
狀ハ必スシモ直接ニ該官吏ノ一人ニ奉呈セシテ要セス該官吏ニ宛奉
呈セシテ以テ足レリトス片千八百五十年十一月
第六百九十一號 誣罔○第三ノ條件ハ告訴ノ誣罔タルコトナリ一告訴

ヲシテ誣罔ト看做サンニハ其二箇ノ原素ヲ具備スルヲ要ス訴ヘタル
事柄ノ詐偽タルコト訴人ニ惡意アルコト是ナリ千八百二十六年二月二十五
及千八百五十七年七月三日ノ判決 誣告ノ罪ヲ生センニハ訴ヘタ
ル事柄ノ必ス重罪又ハ輕罪ヲ生ス可キモノタルヲ要スル乎否ラス然
レモ平人ニ對シテ爲シタル誣告ニ付テハ之ヲ裁判所ニ訴フルノ効ヲ
生シ其官吏ニ對シテ爲シタルハ同一ノ効又ハ官吏懲罰令ノ適施ヲ
喚起スルノ効ヲ生ス可キコトヲ要スルナリ千八百二十六年二月二十五
年七月五

判決

第六百九十二號 訴ヘタル所爲ノ詐偽タルコトハ如何シテ之ヲ判定ス
ルヲ要ス可キ乎此場合ニ於テハ先ツ其所爲ノ重罪又ハ輕罪ヲ構造ス
可キモノナルカ或ハ行政上ノ處分ノミヲ構造ス可キモノナルカヲ區
別スルヲ要ス此雙方ノ場合ニ於テ訴ノ眞僞ハ訴ヘタル所爲ノ調査前
ニ判定ス可キナリ訴ヘタル所爲ノ重罪又ハ輕罪タルキハ裁判所ニ於
テハ先ツ其訴ノ眞僞ノ調査ニ着手シ其詐僞ヲ發見スルニ至ル迄引續
キテ調査ヲ行フ千八百三十四年五月七日ノ判決 此種ノ調査ハ糾問判
事又ハ重罪取調局ヨリ最早調査ス可キ事ナキ旨ヲ述フルキニ於テ終
局ス然ルキハ訴ヘタル所爲ハ詐僞ナリト判定アリシモノト看做シ其
裁判宣告ニ着手ス千八百二十九年三月十一日千八百二十二年八月二十
日ノ判決 若シ行政處分ノミヲ構造ス可キ際ニ於テハ判決例ニ於テハ

誣告ノ罪

誣告罪ノ二原素ヲ分離シ其内心上ノ原素ハ裁判所ニ於テ之ヲ判定シ
 告訴ノ眞偽ノ調査ハ之ヲ行政官署ニ委託スルヲ許セリ千八百六十四年八月七日ノ判決但シ行政官ニ於テ告訴ノ眞偽ヲ調査スルヲ得ヘキ
 ハ訴ヘタル所爲ノ官吏ノ職務ノ執行中ニ行ヒ而シ其行政處分ヲ構造
 ス可キキニ限ルヘシ何トナレハ行政官ニ於テ判定スル所以ノモノハ
 犯人カ官吏ノ身分ヲ有スルノ故ニ非スシテ所爲ノ性質ノ故ニ因テナ
 レハナリ其他ノ場合ニ於テハ裁判所ニ於テ誣告ノ二原素共ニ之ヲ判
 定ス千八百三十三年十一月二十八日千八百五十二年十一月二十六日及千八百五十二年十一月二十八日ノ判決若シ誣告人其訴ヘタル所爲ノ詐僞タルヲ自認セ
 シキ又ハ被告人ノ申立ニ因テ初メテ裁判所ニ於テ其誣告ニ出テシコ
 ナ知リシキハ其誣告ノ眞偽ノ調査ヲ行政官ニ託スルコトナシ千八百五十四年十一月二十八日及千八百五十五年四月十六日ノ判決

第六百九十三號

豫判事件ヲ判決スルノ權ハ如何ナル裁判所ニ屬ス
豫判事件ヲ判決スルノ權ハ如何ナル裁判所ニ屬ス

可キ乎其權ハ訴ヘタル所爲ニ至當ナル刑ヲ適施スルノ權ヲ有スル裁
 判所ニ屬スルナリ故ニ若シ其所爲ノ重罪又ハ輕罪タルモハ其詐僞ノ
 有無ハ控訴院ノ判決又ハ初告裁判所ノ裁判ニ因テ之ヲ宣告スルヲ得
 若シ其所爲ノ職務ノ妄施即チ懲罰令ニ因テ罰ス可キ行政犯則チ構造
 スルモハ其詐僞ノ有無ヲ判定スルノ權ハ懲罰令ノ適施ヲ掌トル可キ
 官吏ニ屬ス同一ノ權ハ僧徒ニ關シテハ僧長ニ千八百五十一年四月行政
 官吏ニ關シテハ該官署ノ卿及ヒ局課長ニ千八百三十五年七月二十三
月十一日裁判所ノ諸官吏ニ關シテハ司法卿ニ千八百二十七年五月公證
 人、代書人及ヒ使吏ニ關シテハ裁判所又ハ司法卿ノ允許ヲ歷テ公證人
 代書人及ヒ使吏局ニ千八百三十年九月十八日千八百五十二年三月二
五年一月二十八日千八百六十四年九月十三日千八百六十九年十一月十

誣告ノ罪

民地ノ官吏ニ關シテハ其地ノ太守ニ及千八百五十二年三月二十七日判決縣
吏千八百七十一日判決及ヒ邑長ニ關シテハ其縣令ニ千八百一十四年八月十
百六十六年十一月六日及ヒ千八百治罪法第四百七十九條ニ記載シタル場
合ニ關シテハ控訴院檢事ニ千八百五十六日ノ判決共濟社員ニ關シテ其社
長及ヒ其事務局ニ千八百五十八年判決屬ス

第六百九十四號 上ノ決定ノ法式ハ如何ノ訴ヘタル所爲ノ重罪又ハ
輕罪タルキハ其所爲ノ詐僞タルト月千八百五十二年六月被告人ノ正犯者
又ハ從犯者タルコノ明瞭セサルト一月千八百四十四年十一月關セズ確定ノ
裁判ト復ク取調フヘキ事ナキ旨ノ宣告トヲ要スルナリ年五月二日及
八月二日ノ判決五年如此キ決定ハ新事件ノ生スル迄ハ詐僞ノ充分ナル
判定トス千八百三十九年三月十一日千八百五十九年四月十五日ノ判決
若シ訴ヘタル所爲ノ行政上ノ處分ヲ生ス可キキハ詐僞ノ決定ニハ格

段ナル法式アルナリ懲罰ヲ取扱フ局ノ決議千八百五十八年十一月二
日ノ判決三行政決議千八百六十七年八月九日及ヒ千八百五十八年
四月三十二年五月二十六日千八百四十六年九月十日ヲ以テ充分ナリトス
唯其要用トスル所ノモノハ公文ノ性質ヲ有スル書類ヲ以テ爲シタル
特別ノ決定タルコト是ナリ千八百五十三年十一月二十六日ノ判決
第六百九十五號 意思○誣告ヲ生センニハ其訴ヘタル所爲ノ詐僞タ
ルコトノミヲ以テ足レリトセズ必ス害ヲ加フルノ意思ヲ以テ詐僞ナル
告訴ヲ爲セシコトヲ要ス此意思ノ判定ハ輕罪裁判所ニノミ屬ス千八百
二年十二月十日此意思ノ性質ハ如何ノ意思トハ訴ヘタル所爲ノ詐僞タル
コトヲ知リテ此訴ニ因テ人ニ害ヲ加フルノ意思無罪人ヲ罪ニ陥入ル、
ノ意思ヲ云フナリ故ニ秘密ナラサル告訴及ヒ一時ノ告訴ハ充分セズ
告訴人カ其告訴ノ原因ナキヲ知ルコト怨望又ハ報讎ノ念ヲ有セシコ

誣告ノ罪

ト惡意ヲ以テ動作セシトテ要スルナリ千八百五十九年十一月十六日
同年四月十五日及千八百八十四年十二月九日ノ判決即チ下ノ二判決ハ此規則ニ從フモノナリ
 曰ク「詐僞ナル告訴ト雖モ誣罔ノ性質ヲ有セサルコアルヲ以テ告訴ハ
 誣罔ニ非スシテ詐僞ナルコアリ又告訴ハ其正當ノ原因スルニ充分ナ
 ル徵候ニ因テ之ヲ爲スコアリ」ト千八百二十一年三月三日ノ判決或ル重罪裁判所ニ
 於テハ治罪法第三百五十八條ニ從テ「訴ノ誣罔タリシキ惡意及ヒ人ニ
 害ヲ加フルノ意思ヲ以テセシキ」ニ非サレハ放免セラレタル被告人ノ
 爲メニ賠償ヲ宣告スルヲ得スト判決セリ千八百三十三年十二月十二日ノ判決○告訴人
 ノ私益及ヒ被告人トノ約束上ヨリ生セシ訴訟ハ宥恕減輕ノ原因タル
 チ得サルナリ千八百五十六年三月二十一日及千八百五十九年三月二十一日ノ判決然レモ訴ヘタル所爲
 ノ詐僞タルヨリシテ犯罪ノ意思アリト推測スルヲ得ス何トナレハ訴
 ハ錯誤ヨリ生スルヲ得可ケレハナリ蓋シ此場合ニ於テハ告訴ハ罪ヲ

生スルノ條件タル惡意ヲ去ル途ニ遠キカ故ナリ

第六百九十六號 第三百七十三條ハ人民ノ爲シタル告訴ノ如ク公ケ
 ノ官吏ノ詐僞及ヒ惡意ヲ以テ爲シタル告訴ニ適當ス法律ハ官吏ニ付
 如何ナル例外ヲモ許サス千八百七十六年五月十二日及千八百八十八年五月十二日ノ判決又其從犯ニ
 關シテモ絶テ例外ヲ置カサリシカ故ニ都テノ場合ニ於ケル如ク從犯
 ノ場合ニ於テ執行ノ豫備ノ所爲ニノミ關セシ者ト成就ノ所爲ニ關セ
 シ者トチ區別シ從犯者ニ對シテハ挑唆又ハ援助ノ所爲アリシコノミ
 チ判定スルヲ以テ充分トシ共犯者ニ對シテハ其各名ニ屬スル告訴ノ
 詐僞タルコヲ知リシコト其惡意トチ判定スルヲ必要トス千八百六十六年九月十三日及千八百八十二年十一月十二日ノ判決

第三百七十八條

○第三項 漏告ノ罪

第六百九十七號 漏告罪ノ原素○第三百七十八條ハ職業又ハ身分ニ

漏告ノ罪

七百二十三

因テ人ヨリ密事ノ託ヲ受ケ之ヲ他ニ漏告シタル者ニ非サレハ之ヲ罰セス此漏告ノ罪ハ即チ密事ヲ他ニ漏セシニ因テ生ズルナリ此罪ヲ構造スルニ必要ナル條件ハ職業ニ因テ人ヨリ託ヲ受ケタル密事ヲ掩蔽スルノ任アル者ノ身分人ニ害ヲ加フルノ意思ヲ以テ此密事ヲ漏スル是ナリ

第六百九十八號 身〇第一ノ條件ハ密事ヲ掩蔽スルノ義務アル人ノ身分ナリ職業又ハ身分ニ因テ上ノ義務ナキ者其託ヲ受ケタル密事ヲ漏告スルモ此所爲ハ道德上罰ス可キト雖モ全ク法律上罰ス可キモノニ非カルナリ第三百七十八條ハ如何ナル人ニ適當スルヲ得ヘキ乎該條ハ内科醫師、外科醫師、下等醫、製藥者及ヒ産婆ニ適當ス可キヲ掲ケ次ニ「其他職業又ハ身分ニ因テ人ノ託ヲ受ケタル者」ノ語辭ヲ附記セリ其他ノ者トハ如何ノ職業ニ因テ指示スル所ノ人ナリ即チ職業ニ因

テ漏告ス可カラサル密事ノ受託人ナル僧徒月千八百十年十一月十一日ノ判決委託人ノ密事及ヒ自認ヲ聞キ且己レニ委託セラレタル辨護ニ背ク能ハサル代言人及ヒ代書人千八百二十六年一月三十日千八百二十八年二月二十一年六月六日千八百五十親族ノ利益ヲ規定スルノ權アリ且他ニ漏告セサルノ約束ヲ以テ密事ノ告知ヲ收受スルヲ得ヘキ公證人共和第六百五十三號第三條及ヒ判決是ナリ但シ是等ノ人ハ唯例示トシテ茲ニ掲ケシノミ何トナレハ第三百七十八條ハ制限ナク職業ニ因テ上ニ列記セシ所ノモノト同一ノ義務ヲ有スル總テノ人ニ適當スレハナリ第六百九十九號 密〇事〇ヲ〇漏〇ス〇第一〇第二ノ條件ハ人ヨリ密事ノ託ヲ受クル者ノ之ヲ漏シ且ツ此者其身分ニ屬スル義務ヲ故ラニ破リシコナリ若シ其漏告ノ偶然ニ出テシキハ刑事ノ訴ノ原因トナルコトナシ何トナレハ懈怠不注意ハ人ニ害ヲ加フルノ意思ト同一ニ非サレハナリ即

法律ハ惡意ニ因テ起シタル漏告又ハ人ニ害ヲ加フルノ企ニ非サレハ之ヲ罰スルヲ欲セサリシナリ
千八百三十一年七月然レモ故ラニ爲シタル漏告ノ一所爲ハ人ニ害ヲ加フルノ意ト看做スヲ得ヘキヲ以テ

此場合ニ於テハ其意思ナモテ證スルハ被告人ニ在ルナリ
第七百號 裁判所ニ於ケル證據○第三百七十八條ハ法律上訴ヲ爲スヘキ場合外ニ於テ訴ヲ爲シタルキニ非サレハ密事ヲ掩蔽スヘキ義務アル人ノ漏告ヲ罰セサリシカ第百三條以下ニ重記スル所ノ此例外ハ該條ヲ廢止セシ所ノ千八百三十二年四月二十八日ノ法ニ依テ廢止セラレタリ故ニ醫師、代言人及ヒ僧徒ニ付テハ如何ナル法律モ訴ヲ爲スノ義務ヲ附スルコトナシ治罪法第二十九條及ヒ第三十條モ亦官吏及ヒ重罪ノ證人タル人民ニ非サレハ適當セス然レモ身分ニ因テ密事ヲ掩蔽スルノ義務アル者證人トシテ裁判所ニ召喚セラル、カ又ハ其託ヲ

受ケタル所爲ヲ申陳センカ爲メニ召喚セラレシキハ其密事ヲ掩蔽スルノ義務ヲ免カレ眞實ヲ漏告スルノ義務アリ乎此問題ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ決ス何人モ裁判所ヨリ召喚セラレシキハ眞實ヲ申陳スルノ義務アリ如何ナル職業ヲ有スル者又ハ密事ヲ掩蔽スルノ任アル者ト雖モ其義務ヲ免カル、能ハス故ニ裁判所ヨリ眞實ヲ申陳スヘキノ命アリシキハ職業ニ因テ密事ヲ掩蔽スルノ義務アル旨ヲ固執スルモ無効トス然レモ職業ニ因テ密事ヲ掩蔽スルノ契約ヲ以テ人ノ託ヲ受ケシキハ裁判所ニ於テ眞實ヲ申陳スルヲ拒ムヲ得ヘシ是レ其義務ヲ充ツルモノト云フ可シ此場合ニ於テハ裁判所ハ親族ノ名譽、被告人ノ辨護、人民ノ安寧及ヒ性命ヲ犯スニ非サレハ眞實ノ申陳ヲ請求スルヲ得サルナリ
千八百二十四年七月二十日千八百四十四年五月十四日
代理人 千八百三十五年六月僧徒 千八百三十九年十一月
適施シタル此區別

漏告ノ罪

ハ久シキ躊躇二千八百三十年七月ノ後公證人六千八百五十年三月ノ判決ニモ亦之
 ナ適施シリ之ニ由テ之ヲ觀レハ密事ヲ漏告セサルノ契約アルキハ裁
 判所ノ命ト雖モ職業ニ因テ密事ヲ掩蔽スルノ義務ヲ變更スルコトナク
 而シテ此職業ヲ行フ者ハ事實ノ申陳ヲ拒絕スルヲ得ヘシ然レモ假令訊
 問ニ應シテ事實ノ掩蔽ヲ爲サ、ルモ又裁判官ヨリノ格別ナル問ニ因
 テ○密事ヲ漏告スルモ漏告者ニ第三百七十八條ヲ適施スルコトナシ何ト
 ナレハ此故意ナキ申陳ニ付テハ人ニ害ヲ加フルノ意思ナケレハナリ
 但シ主タル問ニ屬シタル問ニ應シテ漏告セシトキハ此例ニ非サルナ
 リ

第七百一號 事實ヲ申陳セサルノ免許ハ例外ニシテ決シテ正當ナル
 區域ヲ超越ス可カラサルモノナリ職業上ノ義務ニ基キ定メタル此例
 外ハ密事ヲ漏告セサルノ契約アルキト雖モ此職業ニ屬シタル所爲ニ

限ルナリ故ニ身分外ノ事情ニ因テ眞實ヲ知リタル僧徒ハ其後悔者ニ
 對シテ裁判所ニ之ヲ證スルノ義務アリ月千八百十年十一月十一日ノ判決
 業ニ付商議セサル前ニ事實ヲ知リシキ又ハ其證據ヲ除却センカ爲メ
 ニ商議セシキハ其申陳ヲ爲サ、ルノ免許ヲ得ルナシ月千八百二十七年
 決 同一ノ規則ハ均シク術者ヲ醫師等ニ適當ス何トナレハ術者ハ治療ノ
 爲メニ召喚セラレシニ因リ初メテ事實ヲ知リタルキニ非サレハ事實
 ナ申陳セサルノ權ナケレハナリ○千八百五十五年一月六日ノ判決
 参 刑八百五十五年一月六日ノ判決
 参 刑八百五十五年一月六日ノ判決

○第二章 財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

○第一款 竊盜ノ罪

○第一節 一般ノ性質

第七百二號 竊盜罪ノ性質○刑法ハ身體ニ對スル暴行及ヒ襲撃ヲ論
 シ盡シタル後財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪ヲ論ス此種ノ犯罪ノ第一ニ

一般ノ性質

第三百七十九
 條及ヒ第三百八十
 一條

位シ且主タルモノハ竊盜ナリ羅馬國ノ法學士ハ此罪ノ性質ヲ定メテ
曰ク「己レニ屬セサル物ヲ不正ニ竊取セシ者ハ竊盜ノ罪人ナリ」ト第三
百七十九條ハ誠實ニ此義解ヲ譯セシモノナリ故ニ竊盜ノ罪ヲ構造セ
ンニハ三條件ヲ要ス物ノ竊盜此竊取ノ不正タルヲ竊取シタル物ノ他
人ニ屬スルヲ是ナリ尙ホ下ニ此諸條件ヲ詳記セン

第七百三號

竊取○竊取罪ノ第一ノ原素ハ竊取ナリ此竊取ニ至ル迄

ハ發者假令其竊取セシトスル物ニ手ヲ接スルモ其竊取ヲ止ムルヲ得

ヘシ然レモ一旦竊取セシキハ直チニ罪ノ成就アリトス之ニ依テ判決

ニ於テハ物ヲ竊取センニハ之ヲ取リ之ヲ奪ヒ之ヲ移轉スルヲ要ス

決定シ一月十八日三十七年十月又竊取ハ物ヲ奪取セシキニ非レハ成立セス

ト決定セリ千八百六十四年十一月七日及千八百六十七年八月六日ノ

判決故ニ人ヨリ還給トシテ又ハ其錯誤ニ因リテ故ラニ物ノ交付ヲ得シ

者ノ不正ニ之ヲ益セシキハ竊取ノ所爲ニ非ス何トナレハ他人カ故意
ヲ以テ爲ス所ノ物ヲ收受スルハ其趣旨及ヒ其時間ノ如何ニ關セス奪
取ニ非レハナリ千八百三十四年五月九日千八百五十六年三月十一日千八
年五月二十二日千八百六十二年九月九日然レモ人ヲ脅迫シテ物ノ交
及ヒ千八百七十一年十二月九日ノ判決
付テ得シカ又ハ竊取ヲ容易ナラシムル所ノ豫備ナル姦計ヲ以テ其交
付ヲ得シキハ其交付ハ竊取ト混淆シ其一原素トナルナリ千八百四十
四年千八百四十六年三月二十八日同年五月二十九日千八百五
十五年三月三十一日及千八百六十年三月二十四日ノ判決此區別
ハ下ノ判決中ニ之ヲ明記ス曰ク「所有主好意ニ因テ一時其物ヲ奪取セ
シ者ニ之ヲ交付セシキハ第三百七十九條ノ意ニ從テ竊取ナシト雖モ
竊取者ヨリ脅迫セラレテ物ヲ交付セシキハ此例ニ非ル」ト此場合ニ於
テ物ノ所有主ハ之ヲ拋棄セシニ非サル」ト所有主ハ唯犯人ノ目前ニ之
ヲ置キシニ過キササル」ト而シテ若シ犯人ノ掌握セシキハ眞ノ竊取ヲ行

一般ノ性質

ヒシコ 千八百六十七年一月十一日判決

第七百四號 竊取奪取ナケレハ竊盜アルナシノ要領ヨリシテ下ノ諸事ヲ生ス、第一竊盜ハ動産ニ非カレハ之ヲ行フ能ハサルコト(千八百六十四年七月六日判決)第二竊盜ハ無形ノ物即チ權利ニ付之ヲ行フ能ハサルコト(但シ權利ヲ記載スル證書ハ此限ニ在ラス)第三竊取ニ非サル他ノ方法ニ因テ他人ノ物ヲ領取セントスル詭計ハ竊盜中ニ入ラサルコト例ヘハ債主質物トシテ受取リタル物品ヲ負債主ノ承諾ナクシテ私用ニ供シ受託人其託ヲ受ケタル物品ヲ使用シ借主共借受タル物品ヲ販賣スル(千八百五十八年十一月十日及千八百五十九年八月二十五日判決)是ナリ、第四債主金額ヲ收受シ其領収書ヲ附スルヲ拒ムコト(千八百二十四年九月九日判決)負債主證書ヲ更新スルノ名義ヲ以テ舊證書ヲシテ手署ナキ證書ト交換セシムルコト(千八百九十二年九月九日判決)納税人納税ノ際ニ於テ舊領収書ヲ出スコト是等ハ皆竊盜ノ所爲ニ非

ス何トナレハ此證書ヲ得タルノ詭計ハ竊取ト同一ニ非サレハナリ上ノ決定ハ婚姻ノ爲メニ收受シタル贈物ヲ婚姻ノ企テ止メタル後保蓄スルノ所爲(不正ニ保蓄セシキト雖モ同一ナリ)千八百二十九年一月九日ノ判決一貸金ノ辨償ヲ得タルニ因テ其證書ヲ破却スヘキ旨ヲ偽リテ之ヲ保存シ再ヒ辨償ヲ得ヘキコトヲ訴フルノ所爲(千八百三十七年十月十日判決)法律上物ノ附託ヲ得之ヲ占領シシノ所爲但シ此物受託人ノ鑰ヲ預リタル物品中ノ一タルキハ竊盜ヲ構造スル(千八百三十八年四月十九日及千八百五十五年七月十六日判決)ニ適當スルナリ此諸種ノ場合ニ關シテ茲ニ一言ス可キコトアリ民法ニ於テハ契約ノ成立ヲ證シシニハ證人ヲ以テスル證據ヲ許サスト雖モ此規則ハ竊盜ノ場合ニ適當セス何トナレハ竊盜ハ暴行ノ一種ニシテ諸種ノ證據ヲ許ス所ノ災變ノ所爲ナレハナリ(民法第三百四十四條及第三百四十五條)千八百五十五年三月三十一日同判決

一般ノ性質

第七百五號 偶然ニ發見シタル物ヲ不正ニ保蓄スルノ所爲ハ之ヲ竊取ト看做スヘキ乎此所爲ハ物ヲ所有スル意思ノ其發見ノ時ニ於テ生セシト其發見後ニ生セシトノ區別ニ從フ第一ノ場合ニ於テハ犯人其物ノ他人ニ屬スルヲ知リテ之ヲ所有セシカ爲メニ占有セシカ故ニ判決例ニ於テハ竊取ノ所爲アリトス而シテ竊取ノ外面上ノ所爲ハ占有シタル場所ノ如何ニ關セス又發着カ所有主ノ名ヲ知リシト否トニ關セズ唯占有ニ由テ生スルナリ千八百十七年六月五日千八百二十三年四月十六日及千八百二十六年三月四日千八百五十六年九月十七日及千八百五十九年三月二十六日ノ判決然レモ第二ノ場合ニ於テ所有スルノ意思ナク物ヲ占有シ而シテ此意思ノ其後ニ至リテ生セシキハ上ト同一ノ決定ニ屬セス何トナレハ占有ノ時ニ於テ詭計ナケレハ竊取ナク而シテ正ナル意思ノ其後ニ至リテ生スルモ其既ニ占有スル所ノ物ヲ竊取スル能ハサレハナリ千八百三十六年八月九日千八百三十九年七月二日ノ判決但シ此

區別ハ甚ク不明瞭ナリ然レモ如何シテ不正ナル意思ノ發見ノ時ニ於テ生セシヤ又其後ニ生セシヤヲ分別セシ所爲ノ正否ハ直接ニ之ニ繼續スル所ノ所爲ニ因テ之ヲ判定スヘシト雖モ然レモ此所爲ハ占有ノ所爲ニ代ルヲ得サルヘシ何トナレハ保蓄ノ詭計ハ必スシモ竊取ノ詭計ヲ包含ス可キモノニ非サレハナリ刑法理論第九百九十九號參照

第七百六號 竊取ノ判定アリシキハ竊盜罪ノ成就アリトス依テ左ノ諸件ヲ生ス第一犯人後ニ至リテ竊取シタル物ヲ還給スルモ其罪消散セサルヲ千八百十一年九月十六日ノ判決 第二刑ノ宣告及ヒ執行後ニ犯人ノ其既ニ藏匿シタル贓物ヲ取出スノ所爲ハ更ニ施シタル竊取ノ所爲ナキヲ以テ新罪ヲ構造セサルヲ千八百四十八年十一月四日ノ判決 是ナリ

第七百七號、詭計○竊盜罪ノ第二ノ原素ハ不正ナル意思ナリ假令竊取ノ所爲アルモ犯人其己レニ屬スル物ナリト思フテ竊取シシキハ竊

一般ノ性質

盜ノ罪アラサルナリ 千八百六十八年十月十八日判決 夫レ所有權ノ何人ニ屬スルヤ
 ノ決セサル物及ヒ係爭物ノ竊取ヲ輕易ナル暴行トシテ竊盜トセサル
 旨ヲ決定セシハ此趣旨ニ依テナリ 千八百六十八年十月十八日判決 然レモ竊盜罪ヲ消
 散センニハ余ハ貸主即チ債主タルヲ以テ己レニ屬セシ物ヲ繳収セシ
 ナリト述フルモ無効ナリトス何トナレハ債主權アルヲ以テ竊盜テシ
 テ正當ノ所爲ト看做スヲ得サレハナリ但シ此場合ニ於テハ債主カ眞
 ニ辨償ヲ得ンカ爲メニ盜心ナク不適法ノ方策ヲ用ヒシカ又ハ債主ノ
 身分ヲ以テ其負債主ヨリ強奪セント欲セシカヲ檢査スルヲ要スヘシ

千八百八十八年十二月
 二十二日ノ判決

第七百八號 竊盜ヲ構造スヘキ詭計ノ性質ハ如何ン犯人カ他人ノ物
 ヲ所有セント欲セシヤ之ヲ剝奪セント欲セシヤヲ區別スルニ及ハス
 法律ハ唯意思中ニ詭計アルヲ以テ充分トス故ニ此詭計ノ目的ノ如何

ヲ搜索スルニ及ハス又物ヲ所有スルノ意思アリシヲ要用トセス所
 有者ヨリ剝奪スルノ意思ノミテ以テ充分トス 共和第九年四月二十八
 日及ヒ千八百九十九年六月
 三十日判決 例ヘハ嫉妬又ハ復讐ニ因テ他人ノ物ヲ破壊シンカ爲メ之ヲ竊
 取セシノ所爲ノ如キ是ナリ 千八百十八年五月 竊取ノ飢餓難澁ニ原因
 スルモ亦上ト同一ナリトス何トナレハ此事情ハ酌量減輕ヲ生スト
 雖モ全ク罪科ヲ消散セサレハナリ 刑法理論參照
 第九百七號參照
 第七百九號 他人ノ物○第三ノ條件ハ竊盜ヲ構造センニハ不正ニ竊
 取シタル物ノ他人ノ所有物タルヲ要スルヲナリ己レノ所有物ヲ竊取
 セシノ所爲ハ竊盜ニ非サルナリ若シ犯人其竊取シタル物ノ己レノ所
 有物タルヲ述フルモハ刑事裁判所ニ於テ之ヲ判決スルノ權アリ 千
 八百六十五年八月四日及ヒ千八百七十年四月二十四日參照 然レモ罪ノ成立ニ
 日ノ判決○治罪法理論第二千六百六十一號參照 然レモ罪ノ成立ニ
 付テハ竊取シタル物ノ何人ニ屬スルヤヲ判定スルヲ要セス唯犯人ニ

一般ノ性質

屬セサルヲ判定スルヲ以テ充分トス千八百四十五年六月六日ノ判決

第七百十號 何人ニモ屬セサル物○竊取ハ假令不正ニ爲シタルト

雖モ其竊取シタル物ノ他人ニモ屬セサルモ竊盜ヲ構造セサルナリ

未ダ何人ニモ屬セサル物ノ拋棄シタル物ノ遺失シタル物ハ皆其

發見者ノ所有物タルヲ得民法第七條故ニ此物ノ竊取ハ竊盜ヲ構造セサ

ルナリ但シ發見シタル物ニ付テハ第七百二號ニ於テ不正ノ意思ヲ以

テ奪取セシカ又其意思ノ物ノ占有ヲ爲セシ後ニ生セシカテ區別セル

ヲ要スヘキハ之ヲ論述セシヲ以テ茲ニ贅セス他人ノ地内ニ於テ埋物

ヲ發見セシ者ハ其半以上ヲ得ルノ權ナシ民法第七條故ニ其全部ヲ所有

セシ者ハ其己レニ屬セサル部分ノ竊盜者ナリ千八百二十七年五月十八日ノ判決己レ

ノ地内ノ鳩舎ニ在ル鳩ヲ殺シ之ヲ奪取セシ者ハ竊盜ノ罪人ニ非サル

ナリ又己レノ収獲物ヲ保護センガ爲メニ他ノ地内ノ鳩舎ニ屬スル鳩

ヲ殺スヲ得ヘシト雖モ此場合ニ於テハ鳩ヲ獲物ト同視セサルカ故ニ

之ヲ奪取スルヲ得サルナリ千八百九十年四月三十日ノ民法第十五條千八百

二十三年七月二十日ノ判決

第七百十一號 共有物○前ニ述ヘシ如ク竊取シタル物ニ付キ權利ノ

一部ノミテ有スル者其全部ヲ竊取セシキハ即チ竊盜ノ罪ヲ犯セシナ

リ何トナレハ一部ノミ己レニ屬スル物ノ全部ヲ竊取セシキハ己レニ

屬セサル一部ノ竊取ナレハナリ此規則ノ適施ハ犯人カ相續人ノ名義

ニ於テ又結社ノ名義ニ於テ其竊取シタル物ノ共有者タルキニ於テ困

難ヲ生ス第一ノ場合ニ於テハ下ノ三箇ノ理由ニ基キ判決セリ「共有者

ノ一人他ノ共有者ニ對シテ共有ノ動産ヲ不正ニ竊取セシキハ竊盜ノ

所爲アル千八百十八年三月三十一日ノ判決第三百八十條ハ夫婦間尊卑屬間ノ竊盜ニ

付訴ヲ爲スヲ禁止スト雖モ同相續人ノ他ノ同相續人ニ對シテ爲シタ

一般ノ性質

ル竊盜ニ付訴ヲ爲スノ禁止ナキヲ民法第七百九十二條及ヒ第八百一

條ハ遺物ノ動産ヲ藏匿竊取セシ同相續人ヲ尋常ノ相續人相續ヲ終結スルノ權ヲ

失ヒシト宣告スト雖モ賠償ノ一種タル此失權ハ竊盜ノ所爲アルニ於

テハ刑法ヲ適施スルニ如何ナル障礙ヲモ生セサル千八百三十六年

決此決定ハ結社人ニ適當ス即チ結社人中ノ一人ニ對シテ竊盜ヲ犯シ

タル結社人ハ如何ナル宥恕ヲモ得ルニ途ナシ何トナレハ此罪ノ構造

ニ付テハ竊取シタル物ノ一部ノ他人ニ屬スルヲ以テ充分トスレハナ

リ千八百八十八年五月三日ノ判決

第七百十二號 己レノ所有物ナリト抵抗スル〇犯人ハ其辨護ニ付

余ハ竊取シタル物ノ所有者ナリ此物ハ他人ノ拋棄又ハ遺失セシモノ

ナリ又發見ニ因テ余ニ屬セシナリト固執スルヲ得可シ動産ヲ目的ト

スル所ノ此諸種ノ抗拒ヲ調査スルハ刑事裁判所ノ權内トス千八百七十八年四月

第八年五月二十日ノ判決

第七百十三號 所有主ノ承諾〇所有者物ノ竊取ヲ諾セシキハ竊盜ノ

罪アラサルナリ故ニ過度ノ信用ニ因テ又ハ姦計ニ陥リ物ヲ失ヒシキ

ハ他ノ罪ヲ構造スルヲ得可シト雖モ竊盜ヲ構造セス何トナレハ竊盜

ハ所有主ノ希望ニ背キ竊取ヲ行ヒシキニ非サレハ成立セサレハナリ

但シ若シ犯人竊取ノ際ニ於テ所有主ノ承諾ヲ知ラサリシカ又ハ竊取

ノ後ニ承諾ヲ得シキハ罪ヲ構造スヘシ

第七百十四號 夫婦間又ハ尊卑屬間ノ竊取〇尙ホ其他他人ノ物ノ竊

取ヲ竊盜トスル要則ノ例外ハ第三百八十條ニ之ヲ記載ス即チ竊盜者

竊盜ニテレタル物ノ所有主ノ夫婦尊卑屬又ハ其同等ノ姻屬ノ親タル

キハ其罪消散ス何トナレハ該條ニ於テハ夫婦間又ハ尊卑屬間ノ奪取

ヲ輕易ナル竊取トシ而シ竊盜トセサレハナリ刑法理論第九卷但シ此

竊取ヲ他ノ罪ノ加重ノ事情ト看做スルハ判決例ニ於テ此竊取ハ竊盜罪ノ性質ヲ得ヘキコトヲ証セリ七年八月二十一年七月二十六日千八百五十三日ノ判決

第七百十五號 第三百八十條ハ該條ニ記載シタル人ニ對シテ犯シタル竊取ニ非サレハ適當セス故ニ該條ノ規則ハ制限アルモノナリ千八百八十八年三月十四日千八百九十年一月十八日判決依テ左ノ規則ヲ生ス、第一夫

婦尊屬又ハ卑屬ノ親ニ對シテ竊取ヲ犯セシヤテ調査スルコト何トナレハ訴ヲ禁スルハ此諸人ニ對シテ竊取ヲ犯シシ場合ニ限レハナリ、第二此諸人ニ對シテ爲シタル諸般ノ罪ハ例ヘハ暴行ノ如ク財産ヲ目的トシテ犯シタルモト雖モ竊取ト同視ス可キモノニ非サル以上ハ該條ノ

例外中ニ入ラサルコト千八百九十三年三月六日ノ判決第三該條ノ例外ハ竊取ヲ行ハシカ爲メ竊取ニ關セサル重罪又ハ輕罪ヲ構造ス可キ方法ヲ用ヒタル犯

人ヨリ之ヲ申立ツルヲ得サルコト例ヘハ偽書ノ使用千八百二十九年十月八日三月十七日ノ判決父母ニ對シテ子ノ施シタル放火千八百五十二年六月二日ノ判決如キ是ナリ然レモ背信ニ因テノ詭計及ヒ奪取ハ法律ノ精神ニ從ヘハ第三百八十條ノ規則中ニ入ル可キモノニ似タリ共和第十三年五月二十六日ノ判決

第七百十六號 第三百八十條ノ第二項ハ其他贓物ヲ藏匿シ又ハ私益ニ適用シシ者ニ竊盜ノ刑ヲ適施ス故ニ兄弟ニ對シテ兄弟中ノ一人ノ犯シタル竊盜同和續人ニ對シテ其中ノ一人ノ犯シタル竊盜ハ例外ノ規則中ニ入ラサル可シ千八百十八年三月三十一日ノ判決然レモ婦ノ死後ニ其前婚ノ子ニ對シテ其夫ノ行フタル竊取ハ第三百八十條ニ因テ之ヲ保護ス何トナレハ該條ハ管ニ尊屬ノ親ニ止マラス其同等ノ姻族ノ親ニモ亦

適當スレハナリ千八百十九年十二月十二日ノ判決父母ニ對シテ子ノ行フタル竊取ハ其嫡出ノ子タルモトミナラス私生ノ子又ハ養子タルモト雖モ例外ニ

一般ノ性質

因テ之ヲ保庇ス但シ此終リノ場合ニ於テハ父母ニ對シテ行フタル竊取ニ限リ其他ノ尊屬ノ親ニ對シテ行フタル竊取ニハ延及セス何トナレハ私生ノ子又ハ養子ニ付テハ親族ノ連結ハ之ヲ認知シ或ハ養フタル父母ニ止マレハナリ千八百十三年六月十日千八百二十三年十二月二十四日及ヒ千八百三十四年七月二十五日ノ

裁判

第七百十七號 親族間ノ竊取ノ從犯者○夫婦間又ハ親族間ノ竊取ハ重罪又ハ輕罪ヲ構造シサルヲ以テ法律ハ其竊取ヲ幫助シ又ハ之ヲ容易ナラシメシ者ヲ罰セスシテ其幫助外ニ贓物ノ全部又ハ一部ヲ藏匿セシカ又ハ之ヲ私益ニ適用セシ者ノミテ從犯者トシテ罰ス故ニ此規則ヨリ左ノ諸件ヲ生ス、第一親族外ノ人ノ爲シタル幫助ハ均シク例外ノ裨益ヲ蒙ル千八百四十五年四月十五日及ヒ第二親族外ノ人親族ト竊盜ヲ共犯シ其性質ノ全ク親族ノ所爲ト同一ナルキハ之ヲ從犯者トセスシテ正犯者ト看做ス千八百四十五年三月三日第三親族ト他人ト同一ニ竊取ヲ行ヒシキハ從犯者ハ例外ノ裨益ニ加ラサルコト是ナリ上ノ決定ハ現時ノ法例トナリ學問上其一部ヲ非議スト雖モ然レモ今日迄ハ之ヲ維持シ刑法理論第九百五十三號參觀○千八百四十八年六月二一注目ス可キコトアリ親族間ニ竊取シタル物ノ藏匿者及ヒ此物ヲ私益ニ適用セシ者ハ之ヲ從犯者トセスシテ正犯者ト看做ス是ナリ第三百八十條ノ第二項ニ曰ク「此者ハ之ヲ竊取ノ罪人トシテ罰ス」ト故ニ此藏匿者等ハ犯罪ヲ共犯セシニ因リ加重ノ事情ヲ生ス可キキニ非サレハ其責ナシ而シテ假令其責アルキト雖モ唯之ニ尋常ノ竊盜ノ刑ヲ適施スルノミ千八百十八年十月八日ノ判決○第七百十八號 尋常ノ竊盜○尋常ノ竊盜トハ第三百七十九條ニ記載シタル諸條件ヲ具有シ加重ノ事情ナキモノヲ云フ此種ノ竊盜ハ刑法

一般ノ性質

ニ各段ニ記載セラル諸種ノ竊取ヲ包含スル所ノ第四百一條ニ因テ之ヲ罰ス是レ第四百一條ニ舊法ノ二語ヲ存シテ「ラルサン」及ヒ「フイットリ」ト記載セシ所ノ竊取ナリ此竊取ハ格段ニ狡猾ナル秘密ノ執行ニ因テ施シタルモノヲ云フ然レモ此執行ハ竊盜罪ヲ構造スヘキ原素ヲ變更セス何トナレハ「ラルサン」及ヒ「フイットリ」ト稱呼スル所ノ詭計ハ明瞭ニ竊盜罪ノ性質ヲ有セニ鄙語ニ於テ「フイットリ」ト稱呼スル所ノ詭計ハ明瞭ニ竊盜罪ノ性質ヲ有セサルヲ以テ竊盜トシテ之ヲ罰セサルナリ千八百二十四年三月二十四日同九月二十九日千八百四十六年二月二十日千八百四十七年八月十一日千八百五十七年一月二十日及ヒ千八百六十年十二月十四日ノ判決此詭計ハ詐僞取財ノ罪又ハ其他ノ罪ヲ構造スルヲ得ヘシト雖モ其罪ノ性質ヲ有セサルモ民法上ノ詭計ヲ構造シ唯タ賠償及ヒ還給ノ責ヲ生スルニ止マルナリ

○第二節 刑ヲ加重スヘキ事情アル竊盜

第三百八十六條ノ第三項及第四百八十七條

○第一項 奴婢、傭人、旅舎ノ主人、運送人ノ竊盜

第七百十九號 刑ヲ加重スヘキ事情アル竊盜 ○第三百七十九條ノ適施ハ第三百八十條ヨリ第四百一條ニ至ル迄ノ間ニ記載シタル諸種ノ竊盜ニ適當ス總テ竊取ハ假令奴婢又ハ運送人ノ爲シタルモノ踰越、損壞又ハ暴行ヲ以テ爲シタルモノ田圃住家又ハ公道ニ於テ爲シタルモノト雖モ其不正ニ之ヲ行ヒ且他人ノ物ヲ目的トシタルモ非サレハ竊盜ヲ構造セサルナリ故ニ竊盜ニ附着シタル此三種類ハ其事情ノ如何ニ關シス又其重罪或ハ輕罪ヲ構造スヘキニ拘ハラス宣告書ニ之ヲ登記スヘシ竊盜ノ罪ハ犯人ノ身分、犯罪ノ時間、其場所及ヒ其執行ノ事情ニ因テ之ヲ加重ス而シテ左ノ場合ニ於テハ身分ノ故ニ因テ加重ヲ行フ、第一奴婢、傭人、工丁、仲間及ヒ受業生ノ竊盜ヲ犯セシキ、第二旅舎ノ主

奴婢傭人旅舎ノ主人運送人ノ竊盜

人ノ犯シキ、第三運送人及ヒ舟子ノ犯セシキハ是ナリ先ツ第一ニ此

第一種ノ加重ノ原因ヲ詳記セン

第七百二十號 僕婢ノ行フタル竊盜○僕婢ノ身分ニ因テ生スル刑ノ

加重ハ其主人ノ僕婢ニ付有スル信用ニ原因スルナリ此信用ハ主人ト

其日々使役ニ供センカ爲メニ給料ヲ拂フテ我家中ニ住居セシムル所

ノ僕婢トノ間ニ生スルヲ要ス可キモノナリ而シテ借家人、同食人及ヒ賓

客ハ僕婢ト同一ノ性質ヲ有セサルナリ故ニ第三百八十六條ノ第二項

範圍内ニ入ル者ハ僕婢、備人工丁、仲間、受業生及ヒ常ニ家屋内ニ於テ勉

業スル者ニ限ルナリ

第七百二十一號 僕婢又ハ備人ノ名義ハ如何ナル者ニ屬スル乎此名

義ハ僕婢、備人ノ區別ナク人ノ(又ハ一家ノ)用役ヲ爲スヘキ都テノ者ニ

適當ニ判決例ニ於テハ此名義中ニ左ノ人ヲ列記セリ、即チ一家中ニ住

食シ一日ノ給料ヲ幾何ト定メテ勤業スル者又ハ旅舎ニ於テハ該舎ノ

用ヲ爲シテ寄食スル旅人、千八百七十三年四月二十五日ノ判決、市府ニ屬ス

ル建造物ノ看守人、千八百十八年四月判決、使吏ノ見習ヲ爲ス者、千八百二十

八年四月判決、郡長ヨリ給料ヲ出シ備入レタル下吏、千八百二十四年二月判決、直稅徴収

人ヨリ給料ヲ出シテ備入レタル下吏、千八百二十三年一月二十五日ノ判決、

商人ノ使丁、千八百二十二年一月三十一日、千八百二十六年一月七日、

及ヒ同年九月、是ナリ但シ判決例ニ於テハ民費ヲ以テ備入レタル看守

人、例ハ、千八百十八年八月三十一日、千八百二十三年八月三十一日、

千八百二十年六月十八日、千八百二十三年八月三十一日、千八百二十三年

達人、千八百二十年六月、僕婢、備人ト看做サ、ルナリ

第七百二十二號 概シテ家内ニ於ケル竊盜ハ主人ニ對シ、且家内ニ

於テ竊取ヲ行ヒシモノトスルヲ以テ此規則ハ二重ニ第三百八十六條

ノ第三項ノ適施ヲ受ク可キモノトス故ニ加重ハ主家又ハ其家外ト雖

僕婢、備人、旅舎ノ主人、運送人ノ竊盜

モ其主人ニ隨行シテ趣キタル家屋ニ居ル者ニ對シテ竊盜ヲ行フタル
 奴婢ニ適當ス然レモ此規則ハ刑法ニ記載スル所ノ區域ノ如ク主人ニ
 非サル者ニ對シテ奴婢ノ行フタル竊盜ハ主家ニ於テ又ハ其主ニ隨行
 シテ趣キタル家屋ニ於テ竊盜ヲ行ヒシハ非サレハ家内ニ於ケル竊
 盜ハ性質ヲ有セスト云フ此語辭ヨリ出ルヲ要セス
千八百二十四年五月二十
 日及千八百三十四年二月
 八日ノ判決然レモ第三百八十六條ノ第三項ノ第一部ニ於テ二箇
 ノ規則ヲ區別セサルヲ得ス其ハ一般ノ規則ニシテ家内ニ於テ奴婢
 備人ノ行フタル總テノ竊盜ヲ區別ナク罰スルモノ其ハ格段ナル規
 則ニシテ主家又ハ其主ニ隨行シテ趣キタル家屋ニ居ル者ニ對シテ竊
 盜ヲ行フタル場合ヲ罰スルモノナリ此區別ハ此終尾ノ場合ニ於テノ
 竊盜ニ遇フタル者ノ此家ニ居ルヲ要スルヨリ生セシ者ナリ故ニ主
 家ニ於テ行フタル竊盜ハ贓物ノ所有主ノ何人タルニ拘ハラズ而シテ此

所有主ノ此家ニ居ラサルモ雖モ家内ニ於ケル竊盜ヲ構造ス
千八百九十三年一月十日
 及千八百九十三年六月七日ノ判決家内ニ於ケル竊盜ノ總テノ場合
 ニ於テ此所有主ノ在不在ハ家主ノ在不在ト均シク刑ニ差等ヲ生スル
 ヲナシトス
千八百九十二年八月
 二十日ノ判決上ノ場合ハ主人ノ身分ニ關セサルカ故
 ニ例ヘハ主人ノ政府ノ允許ナキ集會ニ屬スルモ同一ナリ何ト
 ナレハ主従ノ約束ノ確定シタル上ハ罪ハ主人ノ身分ニ係ハラズシテ
 成立スレハナリ
千八百九十三年
 六月六日ノ判決

第七百二十三號 第二加重ハ竊盜ヲ成就シタル場所ノ主家タルト其
 主ニ隨行シテ趣キタル家屋トニ關セス其主ニ對シテ奴婢ノ犯シタル
 竊盜ニ適當ス何トナレハ主ハ奴婢ヲ使役ス可キ場所ニ於テハ之ヲ信
 用スレハナリ
千八百九十一年四月
 月十四日ノ判決判決例ニ於テ定マリタル用方ノ爲メ
 ニ託シタル金額ヲ竊取及ヒ冗費ニシ奴婢ニ此規則ヲ適施シ
千八百九十二年

漢婢備人旅舍ノ主人運送人ノ竊盜

千八百九十年八月二十一日及千八百九十二年一月三十一日
 千八百九十二年四月二十八日ノ法ハ竊盜ヲ構造ス可キ原素ト
 然レモ千八百三十二年四月二十八日ノ法ハ竊盜ヲ構造ス可キ原素ト
 背信ノ原素トテ混淆セシ此決定ヲ釐正シ第四百八條ニ一項ヲ附加シ
 以テ僕婢ノ其主ニ對シテ犯シタル背信ノ刑ヲ加重ス可キノ規則ヲ設
 ケタリ此二罪ハ一時判決例ニ於テ如此ク混淆セシト雖モ此新則ノ施
 行ニ因テ各別々ノ性質ヲ有スルニ至レリ刑法理論第九卷九百八十二號參觀但シ此場合
 ト他人ノ家ニ物ヲ携帯スルノ任ヲ受タル僕婢ノ其一部ヲ竊取セシノ
 所爲トテ混淆ス可カラス何トナレハ該所爲ハ尋常ノ竊盜ニシテ加重
 ヲ施ス可キ事情アラサレハナリ千八百九十二年十月九日ノ判決又僕婢ヲ其主ノ爲メ
 ニ購求シタル物ノ價ヲ拂ハスシテ供給者ニ對シテ金銀ヲ所有セシノ
 所爲ト混淆ス可カラス此所爲ハ僕婢ノ姦計ヲ以テ行ヒシキハ供給者
 ニ對スル詐僞取財ノ所爲ナレハナリ千八百九十三年一月二十八日ノ判決

第七百二十四號 工丁、仲間又ハ受業生ノ竊盜○家内ニ於ケル竊盜ノ
 第二種ハ主人ノ家屋、工作場又ハ倉庫内ニ於テ工丁、仲間又ハ受業生ノ
 犯シタルモノナリ此者等ノ竊盜ニ付加重ヲ施サンニハ二箇ノ事情ア
 ルヲ要ス、第一法律ニ記載シタル身分アル者ノ竊盜ヲ犯セシト何トナ
 レハ主人ト工丁トノ間ニ信用ヲ生スル所ノモノハ此身分ナレハナリ、
 第二主人ノ家屋、工作場又ハ倉庫内ニ於テ竊盜ヲ行ヒシト何トナレハ
 主人ノ信用ハ工丁等ノ勉業スル所ノ場所ニ限レハナリ千八百九十一年
 十月二十一日、千八百九十二年四月十一日、千八百九十二年十月二十
 一年一月二十一日、千八百九十六年六月十五日、千八百九十五年六月一
 日ノ法律ニ於テ指示スル所ノ家屋、工作場、倉庫トハ工丁等ノ使役ヲ受
 ケ且常ニ勉業スル所ノ場所ナリ此事ニ關シテハ工丁ハ僕婢ト同一ナ
 ラス何トナレハ僕婢ハ家中ノ如何ナル舍室ニテモ入ルヲ得可シト雖
 モ工丁ノ勉業スヘキ場所ハ其一部ニ限レハナリ千八百三十年十月二
 十二年八月四日及千八百四

僕婢補人旅舎ノ主人、送込人ノ寫眞

十七年七月判決故ニ工丁カ其主ノ家屋内ト雖モ工作場ニ非サル部分ニ於テ犯シタル竊盜ハ家内ニ於ケル竊盜ニ非サルナリ千八百三十二年五月二十四日ノ判決然レモ法律ハ工丁ニ付テハ僕婢ノ如ク贓物ノ主人ノ所有物タルヲヲ要用トセス唯常ニ勉業スル所ノ工作場内ニ於テ竊盜ヲ行ヒシノミヲ以テ充分ナリトス若シ工丁其住所ニ於テ勉業シ而シテ其製造シタル物ノ品位ニ因テ賃銀ヲ受取ル可キキニ於テ此物ノ一部ヲ竊取セシノ所爲ニハ加重ヲ適施セサルナリ千八百三十七年三月三十一日ノ判決

第七百二十五號 常ニ家中ニ於テ勉業スル人ノ竊盜○工丁ノ如ク此者ニ加重ヲ適施センニハ家中ニ於テ常ニ勉業スル人ノ竊盜ヲ行ヒシトト其勉業スル住所ニ於テ該所爲ヲ施セシコトノ二條件ヲ要スルナリ

條例ノ適施ハ家中ニ於テ常ニ勉業センカ爲メニ呼ハレタル者ノ此場所ニ於テ竊盜ヲ行ヒシ場合ニ限ルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ家主其工丁ノ上ニ信用ヲ有スレハナリ但シ該工丁ヲ罰セシムルハ此工丁ノ常ニ勉業ス可キ者タルヲ要ス何トナレハ一時ノ勉業ハ加重ヲ免カ

ル、ノ原因タルヲ得可ケレハナリ然レモ必スシモ勉業ヲ繼續施行セシ日ニ於テ竊盜ヲ犯セシテ要用トセサルナリ千八百十三年八月三十一日ノ判決然レモ判決例ニ於テハ常ニ勉業スルト云フ此語ノ工丁、傭人ニノミナラス諸種ノ工業及ヒ例ヘハ商人ノ使丁ニ適當ス可キヲ許セリ千八百十年十月七日及ヒ千八百五十七年四月十八日ノ判決

第七百二十六號 旅舎ノ主人ノ竊盜○旅舎ノ主人ハ旅客ノ携帶シタル物品ノ受託人タルヲ以テ之ヲ看守スルノ責アリ民法第九百五十二條若シ此物品ノ不正ニ竊取セラレシモハ竊取者ノ身分ニ從テ區別アリ故ニ之ヲ調査セサルヲ得ス旅舎ニ於テ其主人及ヒ使丁ニ非サル者ノ行ヒシ竊盜ハ尋常ノ竊盜ナリト雖モ主人又ハ使丁ノ之ヲ犯シ而シテ其委託ヲ

僕婢個人旅舎ノ主人運送人ノ竊盜

受ケタル物ノ全部又ハ一部ヲ目的トスルモハ重罪ヲ構造シ之ニ懲役ノ刑ヲ適施ス第三百八十四條第四項判決例ニ於テハ旅舎ノ主人ノ語ハ此者ニノミ限リタルニ非ス法律ハ唯例示シタルモノナレハ什器ヲ具テ貸附スル家ノ主人千八百十一年六月二十七日ノ判例酒舖ノ主人喫食所ノ主人及ヒ加味舖ノ主人千八百十三年四月二十六日及ヒ同判例適當ス可キヲ許セリ上ノ規則ノ適施ニ付テハ竊盜者ノ旅舎中ニ住シ或ハ一使丁ノ該舎ニ住セシコトヲ要用トセサルナリ千八百十二年十月一日ノ判例

第七百二十七號 但シ加重ハ職業上預リタル物ノ竊盜ニ非サレハ適當セス職業上預リタル物トハ如何ン旅客カ其寄遇スル旅舎ニ物品ヲ携帶シタルモハ旅舎ノ主人ニ之ヲ陳述シサルニ拘ハラズ唯其携帶ニシノ一事ヲ以テ主人ハ此物品ノ受託人トナル可シ是レ民法第千九百五十二條ヨリ生スル所ノモノナリ職業ニ付キ附託シタルトハ旅舎ニ

携帶シタルノ義ナリ何トナレハ旅舎ハ旅客ノ物品ヲ預ル可キ性質ノモノナレハナリ千八百十三年十月二十五日ノ判例若シ旅舎ノ主人旅客ノ遺忘シタル物品ヲ所有セシニ止マリシモハ其所爲ノ性質ハ變易ス可キ乎否ラス一旦旅舎中ニ携帶シタル物品ハ其所有主ヨリ抛棄ス可キヲ明示セサル以上ハ主人ノ受託物ナリ故ニ時ノ如何ヲ論セス如此キ物品ヲ所有セシ旅舎ノ主人ハ受託人ノ義務ニ背キタルヲ以テ刑ノ加重ヲ受ク可シ千八百十三年十月二十六日ノ判例

第七百二十八號 運送人及ヒ舟子ノ竊盜○運送人及ヒ舟子使丁ハ下ノ二箇ノ場合ニ於テハ其行ツタル竊盜ニ付刑ノ加重ヲ受クヘシ第一職業上預リタル物品ノ全部又ハ一部ヲ竊取セシモ第二運搬ノ託ヲ受ケタル商品ヲ變造セシモ是ナリ第三百八十六條ノ第四項及ヒ第三百八十七條運送人及ヒ舟子ハ民法第千七百八十二條及ヒ商法第百八十三條ニ從テ其運搬ス可

僕婢傭人旅舎ノ主人運送人ノ竊盜

キ物品ニ付其責ニ任スルカ故ニ之ヲ竊盜セシトハ其刑ニ加重ヲ生ス
 故ニ加重ノ第一ノ原素ハ運送人及ヒ舟子ノ身分ナリ抑信用ヲ生スル
 所ノモノハ運送人及ヒ舟子ノ職業ナルカ故ニ唯其職業ナキ者ニ運搬
 ナ託セシ際ニ於テ此者竊盜ヲ行フモ其刑ヲ加重スル能ハズ然レモ運
 送人ノ身分ヲ有スル者ハ其車中ニアル物品ヲ監視スルノ義務アルカ
 故ニ此者ニ對シテハ加重ヲ生スルナリ而シテ其加重ニ付テハ別段此運
 送人カ大道ニ於テ或ハ損壞ヲ施シテ又ハ從犯者ノ幫助ヲ得テ竊盜ヲ
 行ヒシコトヲ要用トセス何トナレハ此等ノ事情ハ竊盜ノ性質及ヒ罪科
 ナ變更セサレハナリ千八百十五年二月二日及ヒ千八百十五年四月
 百四十四年五月十八日ノ判決總テ此規則ハ船
 長指揮役及ヒ乗船人ニ適當スルナリ千八百二十五年四月
 十日ノ法第十五條
 第七百二十九號 運送人及ヒ舟子ニ屬スヘキ第二ノ所爲ハ其運搬ノ
 託ヲ受ケタル酒類流動物及ヒ其他ノ商品ノ變造ナリ千八百六十三年

第三百八十一
 條第三百八十一
 五條第三百八十一
 十六條及ヒ第八
 百八十八條

五月十二日ノ法ハ此種ノ竊盜ヲ記載スル所ノ第三百八十七條ヲ改定
 シ變造ノ所爲及ヒ其未遂犯ヲ二年乃至五年ノ禁錮ニ處ス可キコトヲ定
 メリ此罪ノ構造ニ付必要ナル條件三アリ、犯人カ信用ヲ得可キ身分ヲ
 有スルコト、運搬ノ爲メ流動物又ハ商品ノ託ヲ受ケシコト、此物品ヲ變造セ
 シコト是ナリ此變造ニ二種アリ、其一惡製ノ質物ヲ混和スルコト、其一惡製
 ニ非サル物質ヲ混和スルコト、此終尾ノ場合ニ於テハ第三百八十七條ノ
 第二項ハ禁錮ヲ一月乃至一年ニ減少ス但シ若シ物質ヲ惡シスル爲メ
 ノミニ止マラスシテ人ノ健康ニ害ヲ加フルノ目的ヲ以テ此混和ヲ施
 セシトハ第三百二十七條ノ第二部ヲ適用スルコト要スルナリ第三百八
 十七條ノ規則ハ諸種ノ運搬ニ適當ス故ニ該條ハ鐵道及ヒ諸種ノ船舶
 ニモ延及スルナリ刑法理論第二千十一號第二千
 十二號及ヒ第二千十三號參照

○第二項 夜間ノ竊盜

夜間ノ竊盜

第七百三十號 竊盜ハ之ヲ行ヒシキニ關シテ刑ノ加重ヲ生ス即チ夜間之ヲ行ヒシキハ場合ニ因テ加重ヲ生スルナリ但シ他ノ事情ナク夜間犯シタルノミノ事情ニテハ加重ヲ生セス夜間ノ竊盜トシテ加重ヲ施サシムルハ其事情ノ損害ヲ生スルノ原因トナルカ又ハ竊盜ノ執行ヲ容易ナラシメシコトヲ要スルナリ故ニ夜間ノ竊盜ハ其収獲物ヲ竊盜セシキハ其犯人ヲ五年ノ禁錮ニ處シ第三百八條 其住家ニ於テ犯セシキハ懲役ノ刑ニ處シ第三百八條 其暴行ヲ以テ兵器ヲ携帯シテ及ヒ數人共ニ犯セシキハ有期徒刑ニ處シ第三百八條 其住家ノ損壞又ハ踰越ヲ以テ犯セシキハ無期徒刑ニ處ス第三百八條

第七百三十一號 夜間犯シタル竊盜トハ如何ナルモノヲ云フ乎判決例ニ於テハ夜トハ刑法ニ於テ日没ヨリ日出ニ至ルノ時間タルコトヲ定メリ千八百十三年七月四日及ヒ千八百三十年七月二十三日千八百二十一年三月十一日ノ判決 或人ハ民事

ニノミ適當スル所ノ訴訟法第七百八十一條及ヒ第千三十七條ト夜間ノ竊盜ハ其執行ヲ容易ナラシメシキニ非サレハ加重ヲ生セスト云フ法理トチ非議セリ此事情ハ事實ニ從テ調査ス可キモノタルヲ以テ裁判官及ヒ陪審士ノ證據ニ從テ判定ス可キモノト思惟スヘシ然レモ刑事ノ取調ニ付若シ確平タル規則ヲ設クルヲ必要トセハ自然ニ從テ夜ハ黄昏ヲ終リタル時ニ初マリ昧辰ノ初マリタル時ニ終ルト定ムルノ外好手段ナシトス刑法理論第二卷第二十號參觀

第三百八十八條及ヒ第三百八十九條

○第三項 田野ニ於ケル竊盜

第七百三十二號 夜間田野ニ於テ住家或ハ其附屬ノ建造物中ニ於テ宗教用ノ建造物中ニ於テ又ハ公道ニ於テ竊盜ヲ犯セシキハ其夜間タルノ故ニ因リテ加重ヲ適施ス是レ其執行ノ最モ容易ナルトハ其襲フクル危害トニ原因スルナリ但シ田野ニ於ケル竊盜ニ付テハ加重ニ因

田野ニ於ケル竊盜

テ其刑ヲ輕罪ノ刑以上グラシムルヲ得サルナリ

第七百三十三號 田野ニ於ケル竊盜○第三百八十八條ニ記載スル所ノ竊盜ハ此竊盜ヲ適當スヘキ目的ト異ナリテ原野ニ於ケル竊盜ナル普通ノ性質ヲ有ス抑該條ニ記載スル所ノ田野トハ如何ナル意ナル乎該條ニ記載シタル物ヲ安意ヲ以テ置ヘキ土地ヲ云フ故ニ耕地、森林、牧野及ヒ其他同性質ノ土地ハ皆此中ニ包含スヘシ千八百十三年一月二日ノ判決

第七百三十四號 獸類及ヒ農具ノ竊盜○第三百八十八條ノ第一項ニ記載シタル竊盜ノ條件ハ、第一田野ニ於テ竊盜ヲ犯セシ、第二此竊盜

ノ該項ニ列記シタル一物品ニ適當スルコトナリ故ニ田野ニ於ケル竊盜ナシト判定アリシキハ該條ヲ適施スル能ハサルナリ千八百十一年十月二十日ノ判決然レモ獸類ニ番人ヲ附セシト否トハ唯安意ノ厚薄ニ關スルノミニシテ該條ノ適施ニ差等ナキナリ千八百十九年一月十日及ヒ千八百二十年八月十日ノ判決法律ハ

農具ノ義解ヲ掲ケサリシカ蓋シ農具トハ土地ニ關スル勞力ニ要用ナル總テノ器具ヲ云フナリ千八百十三年六月二十九日ノ判決夜間從犯者ヲ以テ竊盜ヲ犯シシキハ均シク第三百八十八條ヲ適施ス宜シ千八百十九年四月十八日ノ判決注意ス可シ千八百十九年四月十八日ノ判決

第七百三十五號 木材、石、魚ノ竊盜○第三百八十八條ノ第二項ハ第一項ト同一ナリ即チ曰ク、斫伐シタル木材、石、池又ハ畜魚場ニアル魚ノ竊盜ニ付テハ同上ノ刑ヲ適施ス、故ニ木材、石、魚ノ竊盜ハ獸類、農具ノ竊盜ト同一ノ性質ヲ有シ同一ノ刑ヲ受クヘシ、斫伐シタル木材ノ竊盜トハ如何ン斫伐シタル木材トハ賣却シシカ爲メニ既ニ斫伐シ或ハ斫伐スヘキ木材ノ竊盜ヲ云ナリ法律ハ此木材等ヲ安意ヲ以テ田野ニ置キタル收穫物ト同視ス千八百二十八年三月七日ノ判決判決例ニ於テハ伐木ノ間ノミナラス伐木ノ後數年ヲ歷タル木材ニモ亦此規則ヲ適施シリ

田野ニ於ケル竊盜

千八百一十二年二月若シ木ヲ斫伐シ之ヲ切斷シ或ハ之ヲ板ニナシタル
 千八百一十八日ノ判決ニ非スシテ商品トナルヲ以テ其竊盜ハ第四百一條ヲ
 以テ之ヲ論ス月十五日ノ判決ニ斫伐シタル木材ヲ其斫伐シタル地外ニ
 置キタル片モ亦上ト同一ナリトス年三月十五日及ヒ千八百一十五年十
 月十一日石礮ニアル石ノ竊盜ハ石礮ヨリ出シ而シテ其所有主ノ一時安
 意ヲ以テ之ニ置キタル石ニ適當ス石礮トハ第三百八十八條及ヒ千八
 百一十年四月二十一日ノ法ノ意ニ從ヘハ石坑ノミナラス之ニ接シ且石
 ヲ蓄藏スヘキ場所ヲ云ナリ千八百一十六年四月池及ヒ畜魚場ニアル魚
 ノ竊盜ハ千八百一十九年四月十五日ノ法ノ目的トスル流水中ニアル
 魚ノ竊盜ト混淆ス可カラズ池及ヒ畜魚場ニ在ル魚ハ人ノ所有物タル
 カ故ニ之ヲ竊取スルノ所爲ハ不適法ノ漁獵ノ所爲ニ非スシテ眞ノ竊
 盜ヲ構造ス故ニ第三百八十八條ハ竊盜シタル魚ノ池又ハ畜魚場ニア
 リシコトノ判定アリシトニ非サレハ適施スルヲ得サルナリ千八百一十四
 年七月七日ノ判決ニ該條ハ池ノ満水ノ時ト漁獵ノ爲メニ減水セシトノ區別
 ナシ適當スルナリ千八百一十三年四月
 第七百三十六號 収穫物ノ竊盜○第三百八十八條ノ第三項ハ収穫物
 又ハ其他土地ヨリ生スル物産ニシテ土地ヨリ分離シシモノ又ハ收穫
 物ノ一部ヲ爲ス所ノ穀物ノ堆積ノ竊盜ヲ罰ス是レ所有主又ハ其代理
 人ノ根又ハ幹ヨリ分離シ蓄藏所ニ運搬スル迄ノ間一時田圃ニ置キシ
 所ノ菓實又ハ物産ナリ千八百一十二年四月此規則ハ丹參ノ根千八百一
 日ノ土地ヨリ採採シタル馬鈴薯千八百一十四年二月大麥ノ穂千八百一
 七口ノ竊盜ニ適當セリ此種ノ竊盜ハ土地ノ一部ノ收穫物ニ係ハル
 モ其罪ノ構造ニ障礙アルナシ千八百一十三年十一月十五日ノ判決ニ然レモ
 竊盜シタル菓實ノ既ニ土地ヨリ分離シ一時安意ヲ以テ田野ニ置キシ

田野ニ於ケル竊盜

モノタルヲ要スルナリ而シテ未タ幹ヨリ分離セサル物産ハ之ヲ収獲物ト看做サ、ルヲ以テ其竊盜ハ第三百八十八條ヲ以テ論スヘキノ限
 リニ非ス及ヒ千八百二十六年八月十三日同年十一月六日判決如此ク該條ノ適施
 ハ収獲ハ時ト土地ノ収獲物トニ限ルカ故ニ蜂蜜及ヒ鹽沼ノ鹽ノ竊盜
 ハ該條中ニ入ラサルナリ百十八年七月三十一日和蘭年七月十一日千八
 年六月十一日ノ判決十九

第七百三十七號 第三百八十八條ハ収獲物ノ一部クモ穀物ノ堆積ヲ
 田野中ニ置キタル収獲物ト同視ス是レ其堆積ヲ一時蓄藏所ニ運搬ス
 ル迄ノ間地上ニ置キタル稾又ハ束ニ於ケル穀物ト均シク保護センカ
 爲メナリ千八百二十二年十月十日然レヒ此保證ハ穀物ノ堆積ニノニ限ルナリ
 茲ニ云フ所ノ穀物トハ麥類及ヒ其他大小ノ穀物ノ義ニシテ菜麻野菊
 粟如キ油ヲ生スル植物ノ菓實ヲ云フニ非サルナリ千八百二十四年

決ノ判 此決定ハ均シク草ノ堆積ニ適當ス第三百八十八條ノ意ニ從ヘハ
 収獲物ノ地上ニ置キタルノ又植物ノ堆積ニ付テハ尙ホ穀物ノ附着ス
 ルモノタルヲ要スルナリ敲打場中ニアル穀物ヲ竊盜セシキハ其敲
 打場ノ田野中ニ安意ヲ以テ設ケ置キタルモノタルカ或ハ住家ノ附屬
 ノ建造物中ニ置キシモノタルカヲ區別セサルヲ得ス而シテ第三百八十
 八條ハ此田野中ニ安意ヲ以テ設ケ置キタル場合ニ非サレハ適當セサ
 ルナリ千八百二十三年六月二十七日及ヒ千
 第七百三十八號 第三百八十八條ノ第五項ハ土地ヨリ刈収シタル収
 穫物ノ竊盜ヲ記載ス加重ノ事情ナクシテ行ヒシ此竊盜ハ之ヲ第四百
 七十五條ノ第十五項ニ於テ五ツラフ乃至十五ツラフノ罰金ニ處ス
 ル所ノ尋常ノ竊盜ト看做ス然レヒ籠、袋其他之ニ類スル物ヲ以テ又ハ
 夜間又ハ車或ハ駄獸ヲ牽キテ或ハ數人相共ニ此竊盜ヲ行ヒシキハ其

田野ニ於ケル竊盜

犯人ヲ十五日乃至二年ノ禁錮ト十六「フラン」乃至二百「フラン」ノ罰金トニ處ス而シテ此事情又ハ其他法律ニ記載セサル事情ノ集合アルキト雖モ該罪ノ性質ハ變易セサルナリ刑法理論第二千四百六十六號參照然レモ田野ニ非スシテ住家ニ屬スル閉鎖シタル場所ニ於テ同一ノ竊盜ヲ行ヒシキハ第四百一條ヲ以テ之ヲ論ス

第七百三十九號 田野ニ於テ犯シタル収獲物ノ竊盜ニシテ刑ヲ加重ス可キノ事情ナキトハ其犯人ヲ十五日乃至二年ノ禁錮ト十六「フラン」乃至二百「フラン」ノ罰金トニ處ス反對ノ場合ニ於テハ之ニ第四百一條ノ刑ヲ適施ス第三百八十八條ノ第四項ニ記載シタル事情中ノ一アルキモ亦同條ノ刑ヲ適施ス此事情中ノ二又ハ該條ニ記載セサル他ノ事情例ヘハ兵器ノ携帯ヲ以テ犯シシキハ判決例ニ於テハ第三百八十六條ヲ適施ス可キヲ決定セリ千八百三十二年十二月十五日及ヒ然レモ

此決定ハ収獲物ノ竊盜ヨリ其格段ナル性質ヲ除却スルヲ以テ至重ナル非議ヲ生セリ論第二千四百六十六年三月二十二日ノ判決○刑法理論茲ニ尙ホ注目ス可キ二事アリ第一第三百八十八條ハ之ニ記載スル所爲ヲ輕罪トスト雖モ其未遂犯ヲ抑制スルヲ得ヘキヲ第二同條ノ第五項ハ總テノ場合ニ於テ民權停止及ヒ監視ノ二附加刑ヲ宣告スルノ權ヲ裁判官ニ許與スルヲ是ナリ

第七百四十號 經界ノ變更○千八百六十三年五月十三日ノ法ハ竊盜ヲ行ハンカ爲メニ土地間ノ經界ヲ爲ス物ヲ除却スルノ所爲ヲ罰スル所ノ第三百八十九條ノ一部ヲ變更シ二年乃至五年ノ禁錮ト十六「フラン」乃至五百「フラン」ノ罰金トノ刑ヲ懲役ノ刑ニ轉セリ但シ罪ノ條件ハ之ヲ變更セサリシ該條ハ其記載スル所爲ハ輕罪ナリト雖モ前條ノ如ク裁判官ニ未遂犯ヲ抑制スルノ權ヲ附與ス第三百八十九條ハ動産ノ

田野ニ於ケル竊盜

竊盜ニ非サレハ適當セスト雖モ遺物ノ掠奪ヲ罰スルヲ目的トスルモノニ非ス(是レ第四百五十條ノ目的トスル所ノモノ)出野ニ於ケル収獲物ノ竊盜ニ關スル格段ナル方法即チ經界ヲ爲ス物ノ除去ニ非サレハ之ヲ罰セス蓋シ木石又ハ矮樹ノ藩籬ノ除去ハ形迹ヲ殘スカ故ニ其レヲ判定スルノ容易ナルヲ以テナリ

○第四項 住家又ハ其附屬ノ家屋內ニ於ケル竊盜

第三百八十一條
第三百八十五條
第三百八十九條
第三百九十一條及
第三百九十二條

第七百四十一號 住家ニ於ケル竊盜ハ輕罪タルヲ以テ刑ヲ加重スヘキノ事情ニ非スト雖モ加重ノ原因ヲ包含スルカ故ニ若シ其數多ノ外而上ノ所爲ヲ集合スルキハ加重ノ一原素トナルナリ故ニ住家ニ於ケルノ事情ハ第三百八十八條ノ第四項第三百八十五條及ヒ第三百八十六條ノ第一項ニ於テハ踰越、損壞、僞鑰、夜間又ハ從犯ヨリ生シタル加重ノ事件ヲ補充シ之ヲ重フスル所ノ一條件ナリ刑法理論第二千五百三十三號參觀

第七百四十二號 住家○第三百九十條ハ住家ノ義解ヲ揭ケスシテ唯

人ノ住セスシテ住居ニ供スル家屋及ヒ住家ニ屬スル家屋ヲ住家ト同視セシノミ夫レ住家トハ現時人ノ住居ニ用フル都テノ家屋ナリ故ニ住家ノ性質ヲ有タンニハ主トシテ之ヲ他ノ用方ニ供スルヤチ區別スルノ要ナク唯人ノ之ニ住スルヲ以テ充分トシ千八百九十二年九月四日ノ判決又竊盜者又ハ竊盜ノ被害者ノ必スシモ之ニ住スルヲ要セス千八百九十七年五月十六日及千八百九十八年九月二十日ノ判決唯其他ノ人ノ之ニ住スルヲ以テ充分トス千八百九十三年六月二十日ノ判決又住家ノ住居ニ供スルモノタルヲ要セス唯一時又ハ偶然ニ之ニ住セシニ因リ住家ト看做ス可キヲ以テ充分トス千八百九十一年八月二日ノ判決故ニ住家ニ於ケル竊盜ノ名義ハ一時住居ニサル郊野ノ家、房室ノ設ケアル船舶一時住居ニサル埠ト雖モ千八百九十三年十月十日ノ判決貧院ノ如キ公舎ニ適當ス可クシテ住居ニ供セサル建築物千八百九十三年九月九日及千八百九十四年一月九日

住家又ハ其附屬ノ家屋內ニ於ケル竊盜

八百二十七年九月及ヒ乗合馬車三月六日ノ判決ニ適當ス可カラサルナ
リ

第七百四十三號 住家ニ屬スル物○第三百九十條ハ用方ノ如何ヲ問

ハス且外圍ノ内ニ別ニ牆塼ヲ以テ圍繞シタルヲ問ハス中庭禽獸ヲ畜
ヘ置シ小舎穀物蓄藏所、厩及ヒ其他ノ建造物ノ如ク住家ニ屬スルモノ
ヲ住家ト同視ス故ニ住家ノ一部ニ於テ竊盜ヲ犯シキハ勿論其他附

屬物内ニ於テ竊盜ヲ犯シキハ之ヲ住家ニ於ケル竊盜ト看做スナリ
住家ニ屬スル物トハ如何ン住家ノ圍繞内ニ在ル物ノ義ナリ此解釋タ

ルヤ又住家ノ外圍内ニ在ル中庭小舎等ヲ例示スル所ノ第三百九十條
ヨリ生スルモノナリ故ニ住家ニ屬スル物ト看做サンニハ其實上住

家ニ屬セサルニ於テハ唯用方ニ因テ住家ニ屬スルノミニテハ充分ト
ニス又住家ト同一ノ圍繞内ニ在ラサルニ於テハ唯住家ニ屬スルノミ

ヲ以テ充分トセサルナリ九月十日ノ判決住家ノ外圍内ニ在ル建造物
ノ語ハ必ス住家ニ屬スルモノ、ミニ限ラス何トナレハ住家ニ屬セス

シテ住家ニ接近スルモノアレハナリ月二十五日ノ判決住家ニ接近ス
ル庭園ニシテ圍繞ヲ有スルモノハ之ヲ住家ノ附屬物ト看做ス千八百

十六年八月二十日ノ判決ト雖モ全ク圍繞ナキ場所ハ之ヲ住家ノ附屬
物ト看做サルナリ月一日ノ判決

第七百四十四號 圍繞アル地○圍繞アル地内ニ於テ犯シ竊盜ハ住
家ニ於ケル竊盜ノ如ク他ノ一事情例ヘハ踰越ヲ集合スルハ加重ヲ

受クヘシ圍繞アル地ノ義解ハ第三百九十一條ニ之ヲ掲ケシテ以テ此
語ハ閉圍シタル土地ニ非サレハ適當ニス但シ其牆籬ノ朽敗ニ關セサ

ルナリ而シテ此圍繞アル地ノ住家ニ屬スルカ又ハ之ニ接近スルハ之
ヲ住居ニ屬スル物ト看做スナリ第三百九十二條ハ田野ニ於テ獸類ヲ

宗教用ノ建造物ニ於ケル竊盜

入置ク爲メ設ケタル運搬スヘキ欄圍ヲ圍繞アル地ト看做ス此規則ハ
住居ニ用フル運搬スルヲ得ヘキ小屋ヲ住家ト看做セシ所ノ第三百九
十條ノ規則ノ連續ナリ故ニ運搬スルヲ得ヘキ欄圍カ守者ニ附屬スル
ルハ之ヲ住家ノ附屬物ト看做シ得可シ

第三百八十六
條ノ第一項

○第五項 宗教用ノ建造物ニ於ケル竊盜

第七百四十五號 寺院ニ於ケル竊盜ハ初メ刑法ニ於テ尋常ノ竊盜ト
シト雖モ判決例ニ於テハ之ヲ住家ニ於ケル竊盜ト同視セリ千八百
二十一年
年八月二十三日及同年十月此判決例ハ千八百二十五年四月二十
五日ノ法ノ第七條ニ因テ法律トナリタリ千八百三十二年四月二十八
日ノ法ハ第三百八十六條ノ第一項夜間數人又ハ住家ニ於ケル竊盜ヲ
懲役ノ刑ニ罰スルモノニ又ハ佛蘭西ニ於テ法律上定メタル宗教用ノ
建造物ニ於テノ語ヲ附記シ以テ上ノ判決例ヲ維持セリ

第七百四十六號 如此ク宗教用ノ建造物ハ之ヲ住家ト同視セシカ故
ニ之ニ住家ト同一ナル規則ヲ適當ス故ニ此建造物ニ於テ竊盜ヲ犯セ
シノ事情ハ他ニ夜間又ハ從犯ノ事情アルトモ非サレハ加重ノ原因ト
ナラサルナリ而シテ建造物内ニ於テ勤務ヲ爲ス者ノ寺院ニ對シテ又ハ
之ニ出入スル者ニ對シテ竊盜ヲ犯セシヤ否ヤハ之ヲ區別スルニ及ハ
サルナリ法律ハ夜間又ハ從犯ノ事情ノ外一條件ヲ要スルノミ是レ即
チ宗教用ノ建造物ニ於テ竊盜ヲ犯セシト是ナリ此建造物トハ政府ヨ
リ允許シタル宗教ノ用ニ公然供シタルモノ、ミニ限リ各自ノ神壇及
ヒ政府ヨリ允許ナキ宗教上ノ集合ハ此中ニ入ラサルナリ

第三百八十三
條

○第六項 公道ニ於ケル竊盜

第七百四十七號 公道ニ於ケル竊盜罪ノ性質○旅人及ヒ運搬ノ安寧
ヲ目的トスル所ノ第三百八十六條ハ三箇ノ場合ヲ記載ス第一第三百

公道ニ於ケル竊盜